

蒙古語

蒙古語

蒙古語

蒙古語四週間

東京 大学書林發行

東京外語元教授 竹内幾之助著
東京外語元教授 出村良一著

はしがき

本書は始めて蒙古語の会話を研究しようと試みる人々のために手解きとなるよう作られたもので、四週間の全課程を学習なさればおよそ蒙古の会話に必要なあらゆる事項に出会い、蒙古語の研究に役立つことと思います。

本書は神谷先生が序文で御紹介下さいました通り、もと恩師出村良一先生が執筆せられるはずで**大学書林**でも既に発表しましたが、不幸半途で天逝せられ完成を見なかつたことは返えす返えすも残念の極みでございます。最初故師の計画では文語、口語を併習出来るような膨大なものでありましたが、その計画の全部を踏襲し達成することが出来なかつたことははなはだ申し訳のないことと存じます。幸いに本書が幾分でも蒙古語研究に役立てば編者の喜びこれに過ぐるところはありません。

ここに謹んで故師の御冥福を祈ります。

本書を公にするに当たり神谷先生の懇切な御指導に対して深い感謝の意を表します。

東京にて

竹内

庚

昭和七年の夏休みの初頃であったかと思う（余り久しくなる
のでしかとは記憶せぬが）、ある日**大学書林**の藤原君が訪ねて来
られて、「蒙古語四週間」と言ったようなものを書いてはくれぬ
かとの話であったが、私は他に仕事もあったし、又余り気も進
まなかつたので、東京外語教授（当時助教授）の出村良一君を紹
介しようと、二人で一緒に小石川林町に同君の宅を訪ねたところ、
東洋文庫に研究に行っているとのことで、再びそこにタク
シーを走らせた。ここで話がまとまって、出村君がこの「蒙古
語四週間」を書くことになって、暇々にやっておられたようであ
ったが、不幸翌年の二月出村君は病床に倒れ、その八月四日、
ウラル・アルタイ系言語の研究において学界からその将来を嘱
望されていたこの若い学徒はついに不帰の客となってしまった。
思うて尽きぬ千載の恨事である。そのためこの書の稿もな
かばにして筐底に埋もれる運命に逢着してしまった。今年にな
って、出村君の後を襲うた竹内幾之助君が先輩たる故人に対する
情誼から、その遺稿の世に現われざるを惜んで、既存の原稿
に校訂を加え、更にその後半を補足して、ここに始めてその功
が成った。思えば出村君が稿を起してから實に六年余にして、
今この書が世に出ることになったのであって、故出村君の靈も
何処かでよろこんでおられることであろうし、又最初に糸を引
いた私も満足である。因ってここにこの書成るまでの経過を略
述し、併せて竹内君の努力に感謝の意を表して序とする。

昭和十四年三月

神 谷 衡 平 記

目 次

蒙古語の概念	1
(1) 蒙古語の話される地域 (1) — (2) 蒙古語の方言 (1) — 蒙古語方言の分類 — A. 西方蒙古語 (1) — B. 東方蒙古語 (2) — (3) 蒙古語の歴史 (2) — (4) 蒙古語の特徴 (3) — (5) 蒙古文字 (4)	
一週	7
第一日 發 音	9
[1] 文 字	9
(1) 書體 (9) — (2) 筆 (9) — (3) 文字の音 (9) — (4) 字形 (9) — (5) 文字と音 (10) — (6) 繰字の方法 (12) — (7) 特 用文字 (12)	
[2] 發 音	13
(1) 母音 (13) — (2) 短母音 (13) — (3) 長母音 (14) — (4) 複母音 (15) — (5) 重母音 (15) — (6) 母音調和の方則 (16) — (7) 子音 (17) — (8) アクセント (18)	
第二日 發 音	21
(1) 發音練習 (21) — (2) 外來語 (24) — (3) 西藏語 (25)	
第三日 文 法	28
[1] 品 詞	28
(1) 名詞 (28) — (2) 代名詞 (29) — (3) 形容詞 (29) — (4) 數詞 (29) — (5) 動詞 (29) — (6) 副詞 (29) — (7) 間接詞 (29)	
[2] 名 詞	30
§ 1. 名詞の數	30
(1) 單數 (30) — (2) 複數 (31) — 練習問題 (單語) (32) —	

§ 5. 指示代名詞	58
(1) 事物を指示するもの(58)—(2) 場所を指示するもの(58)	
—(3) 方向を指示するもの(59)	
§ 6. 疑問代名詞	59
練習問題(單語)(60)—解答(61)—註釋(62)	
二週	65
第一日 文法(形容詞)	67
§ 7. 本來の形容詞	67
(1) 短母音を語尾とする形容詞(67)—(2) 長母音及複母音で終る形容詞(68)—(3) 語尾が n で終る形容詞(68)—(4) 語尾が k で終る形容詞(68)—(5) 語尾が其他の子音で終る形容詞(69)	
§ 8. 名詞が形容詞となる場合	69
§ 9. 他の品詞より形容詞の作成	69
[1] 名詞に次の接尾語を附して	69
(1) -tu(-tü), -tai(-tei)(69)—(2) -ügei(69)—(3) singi, -sik 或は metü(70)—(4) -rxak(-ræk)(70)—(5) -lak(-lek), -lik(70)—(6) -lak(-lek), -lik(70)	
[2] 動詞の語幹に次の接尾語を附して	70
(1) -mar(-mer), -mal(-mel)(70)—(2) -magai(-megei)(70)—(3) -mzai(-mzei)(70)—(4) -mtagai(-mtegei)(71)—(5) -msik(71)—(6) -ü(-û)(71)	
[3] 副詞に次の接尾語を附して	71
-xi(71)	
§ 10. 最上級、比較級	71
§ 11. 形容詞の縮小	72
§ 12. 色の名稱	72
練習問題(單語)(72)—解答(74)—註釋(74)	

第二日 文法(副詞)	76
§ 13 副詞の種類	76
[1] 意味による副詞の種類	76
(1) 場所を表す副詞 (76) — (2) 方向を示す副詞 (77) —	
(3) 時を表す副詞 (77) — (4) 狀態、分量を表す副詞 (77)	
[2] 成立による副詞の種類	78
(1) 本來副詞であるもの (78) — (2) 他の副詞より離れて副詞となつたもの (78)	
練習問題(單語) (79) — 解答 (80) — 註釋 (81)	
第三日 文法(數詞)	83
§ 14. 基本數詞	83
用法 (84)	
§ 15. 順方數	84
§ 16. 分數	85
§ 17. 回數	85
§ 18. 倍數	86
§ 19. 合同數	86
§ 20. 概數	87
練習問題(單語) (88) — 解答 (89) — 註釋 (89)	
第四日 文法(動詞)	91
語幹 — 語尾 (91)	
§ 21. 不定法	93
語尾變化 (93)	
§ 22. 動詞の時	94
[1] 基本形	94
(1) 現在 (94) — (2) 過去 (94) — (3) 未來 (94)	
[2] 完了形	94
(1) 現在完了 (94) — (2) 過去完了 (94) — (3) 未來完了 (95)	

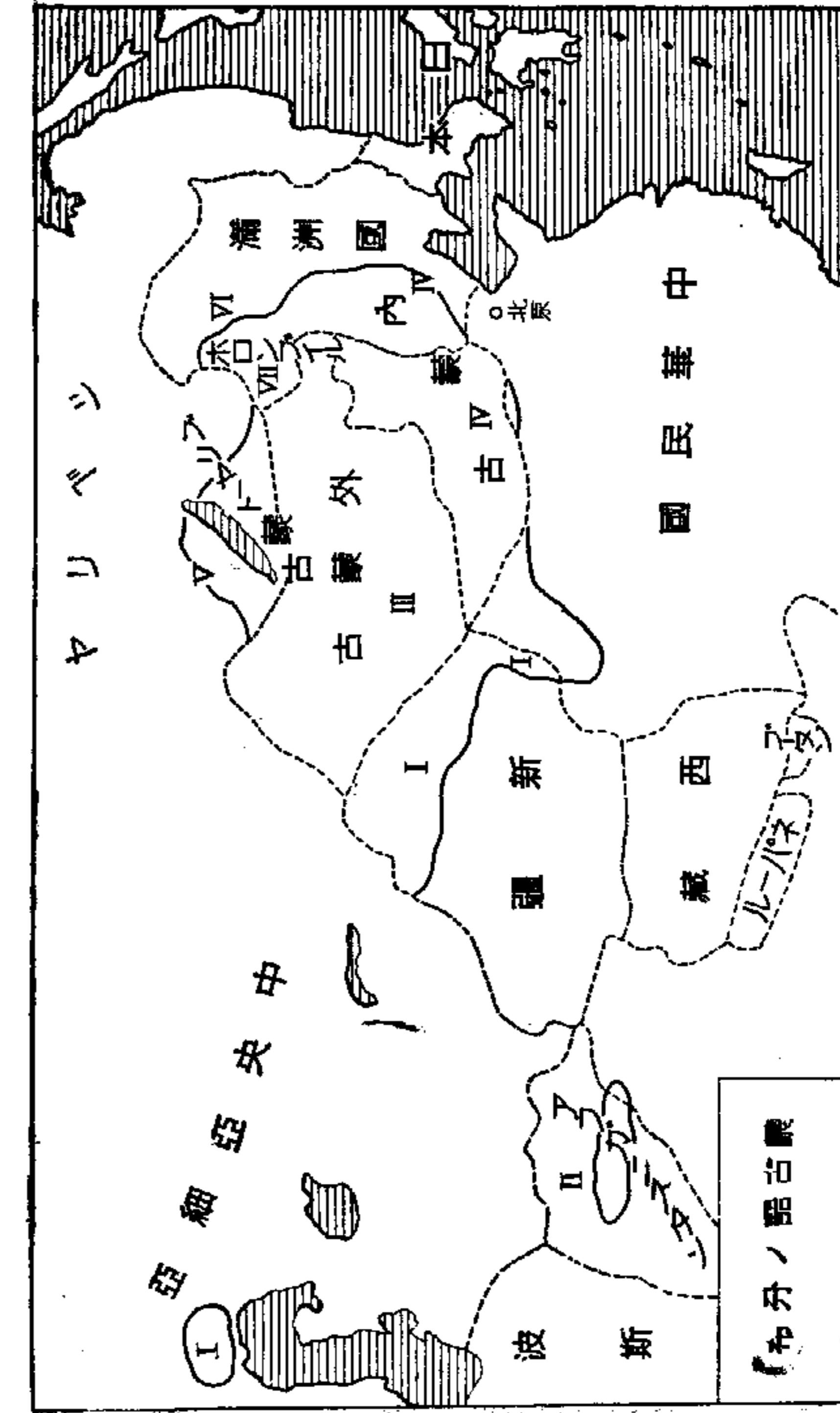
[3] 進行形	95
附、助動詞 (95)	
練習問題(單語) (96) — 解答 (97) — 註釋 (97)	
第五日 文 法	99
§ 23. 形動詞(連體法)	99
(1) 現在 (99) — (2) 過去完了 (99) — (3) 過去 (99) — (4) 未來 (99)	
練習問題(單語) (100) — 解答 (101) — 註釋 (101)	
§ 24. 副動詞(連用法)	103
(1) 接合 (103) — (2) 分離 (103) — (3) 假定 (104) — (4) 懷步 (104) — (5) 連續 (104) — (6) 卽後 (104) — (7) 目的 (104) — 合同 (104)	
練習問題(單語) (105) — 解答 (106) — 註釋 (106)	
第六日 文 法	108
§ 25. 推量法	108
§ 26. 希望法	108
§ 27. 命令法	109
練習問題(單語) (110) — 解答 (110) — 註釋 (111)	
第七日 文 法	112
動詞の語幹 (112)	
§ 28. 使役動詞	112
§ 29. 被動動詞(受身)	113
§ 30. 語幹をなすその他の接尾語	113
§ 31. 自動詞と他動詞	114
練習問題(單語) (115) — 解答 (116) — 註釋 (115)	
第三週	117
第一日 文法(他の品詞より動詞の作成)	119

§ 32. 名詞より動詞の作成	119
(1) -la-(-le-) (119) — (2) -da-(-de-) (119) — (3) -t- 或は -du-(-dü-) (119) — (4) -čila-(-čile-) (120)	
§ 33. 形容詞より動詞の作成	120
(1) 形容詞の性質を表示する (120) — (2) 形容詞の意義を實 行する (120) — (3) 形容詞の意義を以て誇示する (120) — (4) 形容詞の意義を認定する (120)	
§ 34. 副詞より動詞の作成	121
§ 35. 間投詞	122
註釋 (124)	
第二日 措辭	125
§ 36. 否定文	125
[1] 動詞のない文の否定	125
[2] 動詞の否定	125
(1) 現在、未來 (125) — (2) 過去 (126)	
§ 37. 疑問文	126
(1) 疑問詞の存在する場合 (126) — (2) 動詞の疑問形 (127) — (3) 疑問の助詞 -yū(-yū) (128)	
§ 38. 命令文	129
禁止 (129) — 練習問題 (單語) (130) — 解答 (130) — 註釋 (131)	
第三日 措辭	132
§ 39. 文や語詞の接續	132
§ 40. 不完全文	133
§ 41. 不定法	134
§ 42. 呼語	134
§ 43. 語順の顛倒	134
§ 44. 不定代名詞	135

§ 45. 詩歌と諺	136
第四日 作文	137
§ 46. baina 「ある、です」の用法	137
§ 47. 可能と許容	138
§ 48. gečü の用法	139
練習問題 (140) — 單語 (141) — 解答 (141)	
第五日 作文	143
§ 49. 必要、當然	143
§ 50. 好み	143
§ 51. 相似	144
§ 52. 欲求	144
§ 53. 添加	145
練習問題 (145) — 單語 (146) — 解答 (146)	
第六日 作文	147
§ 54. 副詞の呼應	147
(1) 否定 (147) — (2) 時 (147) — (3) 願望 (147) — (4) 反 語 (147) — (5) 假定、條件 (148)	
§ 55. 副詞の合成	148
(1) — 同種のものを重ねて (148) — (2) 同系異語を重ねて (148)	
§ 56. 副詞の慣用形	149
(1) 名詞の各格より (149) — (2) ügei を附した語 [形容詞] より (149) — (3) 形容詞に -a, -e を附して (149) — (4) 形 容詞の語尾 -da (-de) 或は -zan (-zen) を附して (149) — (5) 副動詞の形をして (150) — (6) 摄聲詞として (150)	
§ 57. Mün と nigen の用法	150
§ 58. 助詞と動詞	151
練習問題 (152) — 單語 (152) — 解答 (153)	

第七日 作 文	154
§ 59. (1) 年月日と日曜日 (154)—(2) 月の呼稱 (154)	
§ 60. 助數詞と度量衡	155
(1) 距離(長さ) (156) — (2) 面積 (156) — (3) 分量 (157)	
(4) 重量 (157) — (5) 貨幣 (157)	
§ 61. 千 支	157
練習問題 (158) — 單語 (159) — 解答 (159)	
第四週	161
第一日 會 話	163
§ 62. 発音に關する注意	163
聽取の練習 (168) — 解釋 (168)	
第二日 會 話	170
§ 63. 挨 捶	170
§ 64. 訪 問	173
第三日 會 話	176
§ 65. 旅 行	176
第四日 會 話	181
§ 66. 食 事	181
§ 67. 天 候	183
第五日 會 話	186
§ 68. 買 物	186
§ 69. 醫 事	187
第六日 會 話	191
§ 70. 調 查	191
§ 71. 軍 事	193
§ 72. 牧 畜	194
第七日 會 話	197

§ 73. 語句の練習	197
附 錄 語 彙	203
(1) 天 文	205
(2) 地 理	205
(3) 國家、國民、地名	208
(4) 方向、場所	209
(5) 時に關するもの	210
(6) 人に關するもの	211
a) 人倫 (211) — b) 官職、身分 (213) — c) 人體、生理 (214)	
(7) 病氣、醫藥	216
(8) 衣服、身廻品	217
(9) 住民、家具	219
(10) 飲食、喫煙	220
(11) 動 物	221
a) 獸類 (221) — b) 鳥類 (222) — c) 蟲類、魚類其他 (223)	
(12) 植 物	224
a) 草木、花卉 (224) — b) 果實、蔬菜 (225)	
(13) 鎌 物	226
(14) 馬 具	226
(15) 軍事(兵器)に關するもの	227
(16) 牧畜に關するもの	227
(17) 農、工、商に關するもの	228
(18) 交通、通信に關するもの	228
(19) 宗教、信仰に關するもの	229
(20) 教育に關するもの	230
(21) 言語、文學に關するもの	230
(22) 音樂、遊戲に關するもの	231
(23) 常用單語	231
a) 形容詞、副詞 (231) — b) 動詞 (233)	



言方トーヤリツ V 語古爾莫 (Manchu Number V)
言方ハルハ (Manchu Number IV) 語古爾莫 (Manchu Number III)
言方ハルハ (Manchu Number VI) 語古爾莫 (Manchu Number VI)
言方ルゴモ (Manchu Number II) 語古爾莫 (Manchu Number I)
言方ハルハ (Manchu Number VII) 語古爾莫 (Manchu Number II)

蒙古語の概念

〔1〕 蒙古語の話される地域 蒙古語はアジア洲内の廣大な地域と歐洲の一部に居住してゐる約三百萬の蒙古民族の現在使用してゐる言語である。その主要な部分は内外蒙、呼倫貝爾地方に住む蒙古族に話されてゐるもので、其他露領バイカル湖の周囲のブリヤート地方、或は西藏より東方の青海、甘肅、寧夏の各地及び新疆、遠く中央アジアのヴォルガ河の下流域、僅かにアフガンに遺存してゐる蒙古族等に使用されてゐる。

〔2〕 蒙古語の方言 斯かる膨大な地域に居住してゐる蒙古族は現在諸種の政治下にあつて遊牧の生活を續けてゐる。勿論その一部は既に定着民として農業等に從事してゐるものもあつて、幾多の方言、土語がある。蒙古族は幾多の政治下に分属し統一されてゐないので所謂標準語と云ふものがないが、普通蒙古語と云ふと外蒙古の庫倫附近で話されてゐる蒙古語を云ふ。本書も大體庫倫地方の所謂ヘルハ方言を採用してゐる。この地方の蒙古語は比較的通用の範囲が廣く、交通語として他地方の蒙古族に相當理解されてゐる。蒙古語の方言は大略次の如く分類される。

蒙古語方言の分類

A. 西方蒙古語

- (1) オイラート方言 (Oirat)
- (2) アフガンのモゴル方言 (Mogol)

B. 東方蒙古語

- (3) ハルハ方言 (Xalxa)
- (4) 南蒙古方言
- (5) ブリヤート方言 (Buryat)
- (6) 達呼爾方言 (Daxur)
- (7) 巴爾虎方言 (Bargu)

我國と最も關係の深い満洲國に於ては、(4) 南蒙古方言の一部と (6) 達呼爾方言、(7) 巴爾虎方言が話されて居り、北支の北縁をなす内蒙古の錫林郭爾、察哈爾、綏遠等の地は南蒙古方言に屬し、喀刺沁語、察哈爾語、額爾多斯語等の土語がある。ハルハ方言は外蒙古の殆ど全部に話されてゐる。(方言分布圖参照)

東方蒙古語に屬する諸方言は(6) 達呼爾方言を除いては發音等に幾分の相異はあつても大概は通じる。

[3] 蒙古語の歴史 蒙古と云ふ名稱は西暦第十三世紀の初頭に、かのチンギス^{カガーン}合罕を指導者として勃興した蒙古部の名に起因するものであるが、蒙古語の歴史はチンギス合罕に蒙古族が統一されぬ以前に溯らねばならぬ。

現在の蒙古族は匈奴の裔であることは殆ど疑ひのない所であるが、蒙古族が匈奴ではなく、匈奴には現在のツングース系、トルコ系の恐らく諸民族も含まれるものであらう。この匈奴より出でた烏桓、鮮卑、奚、契丹等は大體蒙古種であると信ぜられてゐる。漠北に於て匈奴と稱せられ互ひに密切な關係を有つ

てゐた。上述のトルコ系、ツングース系の民族と蒙古族とが現在話してゐる言語、即ちトルコ語 (Turkish)、満洲ツングース語 (Manchu-Tungus) 及び蒙古語 (Mongolian) を總稱しアルタイ語族 (Altaic) と云はれる。蒙古語は満洲語と同一語族に屬すると云ふ事實を見ても現在の満洲國に於ける蒙古族の位置は極めて重要であることに氣附かれることと思ふ。

[4] 蒙古語の特徴 蒙古語の屬するアルタイ語族の主たる特徴は膠着語 (Agglutinative) であることで、印歐語の如き曲折語 (Inflectional) や中国語の如き單綴語 (Monosyllabic) でもない。日本語も朝鮮語も之に屬するもので、語の本體即ち意義をなす成分所謂語根の前後に接頭語、接尾語を附して語法上の關係を示す言語を膠着語と云ふ。例へば日本語の「行かしめる」は yuk-asime-ru で yuk- が語根で -asime- は使役を示し、-ru は現在を示す語尾で yuk-asime- 迄で語幹を作り、-ru が語尾となる。同様の例を蒙古語で示すと「行かしめる」は yabu-ul-na で、yabu- が語根で -ul- が使役、-na が現在を示す語尾となる。

又蒙古語の文章の構成は主語、客語、述語の順序で日本語と全く同様で、日本語のテニヲハによく似た後置詞を有して居る。中国語では「私は家に歸りませう」は「我 (私は) 要 (欲す) 回 (歸る) 家 (家に)」であるが、蒙古語では「Bi (私は) ger-tēn (家に) xari-ya (歸りませう)」である。さうして見ると蒙古語は中国語とは全く異つた、而も日本語とよく似た言語である

ことに氣附かれるであらう。現在日本語は朝鮮語と共にアジア大陸の諸言語と密切な關係のあることは判つて居るが、果してアルタイ語族と同一語族であるか、如何なる關係にあるのか不明であるため孤立語として取扱はれてゐる。しかし恐らく將來之等アルタイ諸語の研究が進めば日本語の言語學上の位置も變はるであらう。

尙蒙古語に就ては詳しく述べて説明されるが、大概次の如き特徴がある。

- (1) 母音調和の現象がある。
- (2) 動詞、名詞、形容詞、副詞等の區別が明瞭でない。
- (3) 形容詞に歐洲語のやうな 比較級、最上級を表はす語尾變化がない。
- (4) 性及び數の觀念が曖昧である。
- (5) 格を表す助詞が不要な時は附さぬ。

以上は蒙古語の特徴であるが又アルタイ語族一般の特徴でもある。アルタイ語族には音韻の上で色々と共通の點が多い。例へば日本語の如く r で始まる語詞がない。もし r で始まる外來語等を話す時は必ず母音を附して話す。例へば露西亞 russ は日本では「オロシヤ」と云つたが、蒙古語では oros である。

[5] 蒙古文字 蒙古文字は表音文字で、子音と母音と常に一緒になつて一字となつてゐる日本語の假名と違つて子音、母音の文字より成る。普通供用されてゐる文字の數は子音、母音併せて二十三個である。

この文字はシリア文字を祖とするウイグル文字を改作したもので、チングイス合罕ナイマンが同じ蒙古種の乃蠻を征服した時、乃蠻王の文臣塔々統阿と云ふウイグル人を捕へ、之を起用し左右に置き印璽を掌らしめ、彼をしてウイグル文字を以て蒙古語を寫すことを諸王子に學ばしめたに始まる。元朝の世祖ホビライ合罕は國師パクバ hPags-pa をして西藏文字に似た新文字（正方形文字とも謂はれる）を作らして勅書を以てその使用を強制したが元朝の衰亡と共に消滅し、チングイス合罕當時のウイグル文字が現在迄多少の改刪を経て使用されて來たのである。

現在蒙古では文字を用ひる文語は古來定型化されて進歩しなかつた爲め、口語と文語との間に非常な差が生じ、現代の口語を文字で寫すことすら全く困難となつてしまつた。~~隨て~~¹²蒙古語を學ぶと云ふことは文字で書かれた文語と會話に用ひる口語の殆ど二種類の言葉を併せて學ばねばならぬと同様の困難がある。本書では實際の會話を學習することを主旨とし文語は取扱はぬこととした。

第一週

第一日

發 音

(1) 文 字

蒙古文字は、漢字の如き意味を有する文字によらないで、英語や獨逸語或は日本の假名の如き唯聲音のみを示す文字で、一字一音を表はす。これは歐羅巴の羅馬字やアラビア文字と同様である。その書法は獨特で、上から下へ綴り、行は左から右へ及ぶ。一語が一綴になり、同じ音でも語頭と語中、語末で形が違ふ。

[1] 書體 書體には活字體と筆記體とがあるが羅馬字の如く大文字、小文字の區別がない。

[2] 筆 元來蒙古文字は竹の尖端を削つた竹筆 (üjük) で書いたものだが、現在は毛筆を使ふのが普通である。最近にはペンを使用してゐるものもある。

[3] 文字の音 表音文字は蒙古語で čagan tolugai(白頭)と名附けるが、これには羅馬字の様な一字一字の特定の名稱が無い。普通その音の前に a を附し發音する。例へば l の文字なら ^{アル}al、n ならば ^{アン}an と呼ぶ。ただ女性母音(後述)を伴ふ g, ^{エク}kh 文字は同形で共に ek と呼ぶ。吾人が學ぶには便宜上羅馬字化した文字の音で呼んでも宜しい。

[4] 字形 蒙古文字は一語即ち一綴が密着して書かれるの

で一般の中に於ける位置により其の形體が變化する。語頭に来るものを語頭字、語の末端に来るものを語末字といひ、語頭字と語末字の間に挿まれたものを總て語中字と云ふ。しかし總きは語べての字に三種の形があるのでなく、č とか j, y, w の如末字がなく、r とか n とかは語頭に來ることがないのである。

[5] 文字と音

母 音

語頭	語中	語末	音 價
ä	{	-	a [ア]
é	{	-	e [エ]
ö	ä	ö	i [イ]
ö	ä	ü	ö [オ] ü [オ]
ü	ä	ü	ü [ウ] ö [ヲ]

複母 音

語頭	語中	語末	音 價
ä	ä	ö	ai [アイ]
ö	ä	ö	ei [エイ]
ö	ä	ö	oi [オイ] ui [オイ] öi [ライ] üi [ワイ]

子 音

語頭	語中	語末	音 價
n	-	-	n(a) [ナ]
č	-	č	č(a) [ヘ]
g	-	g	g(a) [ガ]

つ	つ	つ	χ(e) [ヘ] g(e) [ゲ]
ø	ø	ø	b(a) [ベ]
ø	ø	ø	s(a) [サ]
ø	ø	ø	š(a) [シャ]
ø	ø	ø	t(a) [タ] d(a) [ダ]
ø	ø	ø	l(a) [ラ]
ø	ø	ø	m(a) [マ]
ø	ø	ø	č(a) [チャ]
ø	ø	ø	j(a) [ヂヤ]
ø	ø	ø	y(a) [ヤ]
ø	ø	ø	r(a) [ラ]
ø	ø	ø	w(a) [ワ]
ø	ø	ø	n [ン]

特 用 文 字

語頭	語中	音 價
ö	ö	j(a) [ラ°]
ö	ö	ts(a) [ツア]
ö	ö	ts'(a) [ツ°ア]
ö	ö	k(a) [カ]
ö	ö	k'(a) [カ°]
ö	ö	dh(a) [ダハ]
ö	ö	p(a) [バ] f(a) [フ]
ö	ö	p(a) [ペ]
ö	ö	h(a) [ハ]

[6] 級字の方法 本書では口語を主とし、蒙古文字を使用した文語を説明しないので級字の方法は必要であるが参考迄に書いて置く。

1. 母音 a, e の語末文字は 一 と ～ の二種類あるが、普通は 一 を用ひ、 b と女性母音を伴ふ χ, g と結合する時にのみ ～ を用ひる。
2. ü, ö の語中文字に 𩫑 と 𩫒 の二種類あるが、 𩫑 は一級の第二字目の時にのみ用ひ、 其他の場合は 𩫒 を使用する。例へば tümen (萬) の ü は 𩫑 であるが、 egüle (雲) [口語は üle] の ü は 𩫒 である。
3. n の語中文字に點のあるのとないのがある。點のあるのは次に母音の来るときに用ひ、子音の来るときは點のないのを用ひる。又語末に於て次に助辭の u (ü) 或は a (e) 等が来るとき 一 を用ひ、 其他の場合は 一 の方を用ひる。
4. t の語中字 𩫑 は次に子音の来るときに用ひ、母音に結合するには 𩫒 形を使ふ。
5. y は活字體の場合屢次語頭、語中共に 𩫒 形を用ひることがある。

[7] 特用文字 特用文字は主として外來語（梵語・西藏語・支那語等を主とす）を寫すに用ひられ本來の蒙古語には存在しない音を寫す。

(2) 発 音

[1] 母音 母音は文字としては五個であるが、實際には七母音ある。複母音では發音は六個あるが字形としては三種である。文語には長母音と云ふものがないが、口語には七個の長母音がある。

[2] 短母音 蒙古語の母音は前表に見るが如く a, e, i, o, u, ö, ü で表はすのが普通があるが、これは決して正しい音を表はすのではなく慣習的に用ふるのであるから實際發音する場合に注意しなければならぬ。

、a 音標文字の [a] で日本語の ア と同じ様に發音してよい。

、e 音標文字の [ə] に近い音で、日本語の エ を發音する口の格好乃ち口唇を兩方接近せしめ ウ を發音する氣持でエ と發音する却々面倒な音で、屢次 ウ の如く發音されたり、語末では微弱となつて全然消滅することがある。長母音 ē の發音は日本語の エー と同様に發音される。

、i 日本語の イ と同じ。

、o 日本語の オ と同じ。

、u この音は羅馬字の u の音ではなく、ö と u の中間音乃ち ö は喉の奥で發聲されるが、それより心持前方で發音すればよい。隨つてこの音は日本語の ウ ではなくオに近い音であるので [お] を以て書き表はした。蒙古語の

ö と u は極めて接近した音であるから實用的には u も又 ö と發音して殆ど差支へない。

ü これは獨逸語の ü [y] ではなく日本語の ウより一層口唇を尖らして前の方で發音すればよく wu に近い音である。

ö これも獨逸語の ö [ø] ではなく、日本語の ヲで wo に近く發音すればよい。

[3] 長母音 文語では長母音ではなく、長母音を有する外來語は二個の母音の間に -g- を挿入して表現する。又文語の語中の -g- (稀に -b-) の脱落して前後の兩母音が結合して口語の長母音となる場合がある。

長母音になる例

aga > â	agu > ö, û
ege > ê	egü > û, ö
iga > â, yâ	ige > ê, yê
igi > i	igu > û, yû
igü > yû	oga > ö
uga > û, ô	ogo > ö
ugu > û, ô	ûge > ö
ügü > û	egi > ê (ei)

以上の例は -g- 音が母音に挿まれた場合必ず脱落するのではなく、多くはアクセントが後方母音にある時に脱落するのである。勿論本書では文語の方は取扱はぬので以上の方則も殆ど

必要がない。唯現在ある辭典は多くは文語であるから辭典等を引く時この方則は大部参考となるのである。

[4] 複母音 異なる二母音が結合してゐるのを複母音と云ふ。蒙古語には母音が三個も重なることはない。又蒙古語の複母音は大部分後母音は i 音である。

ai アイ

ei エイ (この場合の e は短母音の e ではなく日本語の エと同じである。 ei は口語では i [イー] とも發音されることがある)

oi オイ

ui おイ

üi ウイ

öi ライ

i 以外の複母音は ao, au, eü の如きが稀に用ひられる。その發音は次の如し。

ao > ô [オー]

au > û [おー]

eü > û [ウー] 或は ô [ヲー]

[5] 重母音 同一の母音の重なるのを重母音と云ふ。この重母音は複母音と共に口語では全く研究する必要がない。この重母音は oo, uu, üü 等でその他の母音は重なることがなく、その發音も夫々の長母音と同様で口語では長母音 ô, û, ü 等で表現される。

[6] 母音調和の法則 蒙古語の母音で最も重要なことは母音調和の現象のあることで、この現象はトルコ語にも満洲語等にも見られる重要なアルタイ語族の特徴である。母音調和の現象とは一綴乃至一語中或は接尾語との結合に於て同系の母音を要求し、他系の母音を混綴しない現象を云ふのである。これはアルタイ語族ばかりではなく日本語や朝鮮語にも存在すると言く學者もある。例へば萬葉集に用ひられた萬葉假名の如きは日本語に母音調和の現象があることを示して居り、又日本語に kokoro (心) とか atama (頭) 等、母音が o 又は a の母音で始まれば一語が全部同じ母音になる語が歐洲語に比較して遙かに多いのは母音調和の現象の痕跡だと云はれてゐるのは興味ある問題である。

蒙古語の母音は別ちて三種とす。

1. 男性母音 (或は陽音) a o (u)
2. 女性母音 (或は陰音) e ü (ö)
3. 中性母音 i

男性母音とは後母音 (或は喉頭母音) を云ひ、女性母音とは前母音 (或は口蓋母音) を云ひ、中性母音は女性母音と同様に前母音に屬するが、蒙古人は i を中間音と稱し、前二者と區別してゐる。

蒙古語の母音調和は一語或は接尾語との結合に於て男女兩性母音の共在することを許されない。中性母音だけは男女兩性の何方とも結合し得る。例へば olan に於て o も a も男性母音だから宜しいが、olen の如きは o が男性で、e が女性だから

不可である。 olin, ilen は i が中性だから何れと共に存しても差支へない。この現象は決して人爲的なものではなく極めて自然に蒙古語的一大特徴として斯る仕組が出來上つて居るのである。

[7] 子音 子音の發音中注意を要するものに就て記す。他是羅馬字にて示された音價に依つて發音すればよい。

x これは音標文字の [χ] であつて、日本語の ハ (ha) ではない。kh の如き音で喉頭で強く ハッ と發音する。喉をする時に出る様な音である。語中でこの音は次に子音が来るときと語末に於て k 音となる。斯る場合は本書では k 音で示してゐる。

aχta>akta [アクタ] jasaχ>jasak [チャサック]

又 k の語末に in, ut (üt) 等の助詞や接尾語を附する時 k 音は有聲音 g となる。

jasak [チャサック] + in [イン] = jasag-in [チャサギン]

但しこの場合の g 音は普通よりも強く gin の如く發音されることもあつて jasak-in と云つても差支へないことがある。

g 語頭に於て gh の如く強い音で、日本語の ガ よりも喉の奥の方で發音する。語中では弱い g 音となる。

x と g 音には男性と女性の文字があつて文語の場合では男性子音 x, g は a, o (u) のみと結合し、女性子音 x, g は i, ü (ö), e と結合する。しかし本書では文語を

取扱はないから別に男女兩性の區別を附けない。

- b 音は語末、或は子音の前でその音綴にアクセントがあるとき p 音となる。
t, d 音は i と連絡することは殆どない。これは日本語にも ti, di と云ふ音がなく、ti, di は ci, ji となるからである。
l と r 蒙古語の l 音は r 音と共に語末では極めて特殊な音で、l (又は r 或は k) の發音をする前に既に軽く l (又は r 或は k) を發聲し、次に本式に l (又は r, k) を發音する。しかし實際には發音はこの困難で羅馬字の發音で差支へない。
č 英語の ch [tʃ] に當る。但しこれは南方の音で北方へ行くと ts となり、東方では s となつたり、ブリヤート方言では s となることがある。
j 英語の j [dʒ] に當る。但し北方では z 音に發音される。
n 英語の ng でない極めて軽く g 音は聞えぬ位で、屢々 n と混同される。

[8] アクセント 蒙古語に於けるアクセントは英語や獨逸語の如き歐洲語と違つてそれ程重要ではない。一體東洋語のアクセントは歐洲語のアクセントがピアノのやうであるに對してオルガンの如きもので、力のアクセントではなく高低アクセントの要素が多い。しかもアクセントが間違つたからと云つて意味が分らなくなる様なことも無く、日本語の 箸(ハシ) と 橋(ハシ)、釜(カマ) と 鍊(カマ)の如くにアクセントの相違によ

つて全然異つた意味となるが如きことも無いから此の點は學習者にとつて非常に樂で特に抑揚を附けなくてもよい。

アクセントの位置に關しては確定的な法則はないが、大體次の如き原則がある。但しこれとても勿論例外がある。

- (1) 二音節の語に於て第二音節が母音で終る場合は、アクセントは前の第一音節にある。

■ 'ama [アマ] 口。 'eme [エメ] 女。 'aχa [アハ] 兄。 'eχe [エヘ] 母。 t'ere [テレ] 彼、其。 s'üme [スメ] 廟。 χ'oni [ホニ] 羊。 y'iχe [イッヘ] 大きい。

- (2) 二音節の語で語尾が子音で終る場合はアクセントが第二音節に来る。

■ or'os [オロス] 露西亞。 ul'us [おろス] 國。 χag'as [ハガス] 半分。 gaj'ar [ガチャル] 地、場所。 χab'ur [ハボル] 春。 eb'ül [エブル] 冬。 bič'ik [ビチック] 書物。 jir'uk [ヂロック] 繪。 ar'al [アラル] 島。 sab'ar [シャバル] 泥。 bul'ak [ボラック] 泉。

【注意】 蒙古語の名詞中 語尾が母音で終るものは格變化に際して n なる語尾を取ることがある。斯かる場合に二音節の名詞であれば語尾に n を附して (1) 例が (2) 例となる。勿論この場合は (2) 例として後方の母音にアクセントが移る。

■ m'inga [ミンガ] 干 > ming'an [ミンガン]。
m'ori [モリ] 馬 > mor'in [モリン] 馬。

- (3) 三音節を有する語に於て語末に母音が來たときは中間の

母音にアクセントがある。例: *χeb'eli* [ヘベリ] 鹿。
tam'aχi [タマヒ] 煙草。*ar'aχi* [アラヒ] 酒。*ümüdū*
[ウムドゥ] ズボン。

(4) 三音節の語で語尾が子音で終るときアクセントは最後の母音に来る。

■ *čaxilg'an* [チャヒルガン] 電氣。*Solong'os* [ソロン
ゴス] 朝鮮。*Eneχ'ek* [エネットヘック] 印度。
tüsim'el [トゥシメル] 役人。*arsal'añ* [アルサラ
ン] 獅子。

(5) 四音節以上の語は多く語尾の方にアクセントの来るのを普通とする。綴の多い語は接尾語の結合によつて生じたものが多く、その接尾語にアクセントが移ることが多い。

■ *amidur'al* [アミドゥラル] 生活。*yixetges'en* [イ
ヘットゲセン] 擴大した。

第二日

發音

[1] 發音練習 前日發音とアクセントの概念を會得したから今日はその基本練習に取掛らう。

練習 [其の一]

'ama [アマ] 口	'amu [アモ] 穀物
'ene [エネ] これ、この	či [チー] 君
ul'us [おろス] 國	al'ima [アリマ] 梨
o'on [オロン] 多い	'üre [ウレ] 積子
'önge [ヲンゲ] 色	'ail [アイル] 村
'imü [イーム] こんな	'oi [オイ] 森林
n'uir [ノイル] 睡眠	b'aira [バイラ] 兵營
'ire [イレ] 來れ	n'air [ナイル] 親愛
noχ'ai [ノハイ] 犬	čai [チャイ] 茶
gar [ガル] 手	ger [ゲル] 家
χül [フる] 足	času [チャソ] 雪
'emči [エムチ] 醫師	em [エム] 藥
χün [フン] 入	üla [おーら] 山
üle [ウーレ] 雲	üde [ウーデ] 門

練習 [其の二]

n ... nom [ノム] 經典	ündük [ウンドウック] 卵
-------------------	------------------

χatun [ハトン] 夫人	nere [ネレ] 名前
χ ...χara [ハラ] 黒い	χolo [ホロー] 遠い
χulagai [ホラガイ] 賊	uχân [おハーン] 知識
saxal [サハル] 馴	maktana [マクタナー] 褒める
akta [アクタ] 雄馬	alak [アラック] 斑
χuttuk [ホトック] 井戸	χen [ヘン] 誰
χele [ヘレ] 舌、言葉	Xitat [ヒタット] 支那
χüçü [フチュ] 力	χüitün [フィトゥン] 塞い
χüksin [フクシン] 老齢の	
tekši [テクシ] 平等、平坦	
χülük [フルック] 駿馬	tenek [テネック] 愚かな
g ...gakca [ガクチャ] 獨り、單に	
gutul [ゴトル] 靴	gôl [ゴーる] 河
čagan [チャガン] 白	gem [ゲム] 罪惡、缺點
gerel [ゲレル] 光	gindan [ギンダン] 牢獄
görösü [ゴロース] 野獸	gün [グン] 公(王公の)
üge [ウゲ] 言葉、單語	
b ...bakši [バクシ] 先生	bexi [ベヒ] 丈夫な
bukda [ホクダ] 聖人	büs [ブス] 布
topči [トプチ] ポタン	absa [アブサ] 棺
nabtar [ナブタル] 儂少な	
lab. [ラップ] 臓	
s ...sain [サイン] 良い	sara [サラ] 月
šine [シネ] 新しい	sonin [ソニン] 珍らしい

surguli [ソルゴリ] 學校	sudal [ソダル] 脈
süxe [スヘ] 斧	χülüsü [フルス] 汗
Yesügei [イエスゲイ] 也速該(チンギス合罕の父)	
nilbusu [=るボソ] 涙	gerês [ゲレース] 遺言
emes [エメス] 女等	
t ...tolugai [トルガイ] 頭	tengri [テングリ] 天
temê [テメー] 駱駝	tula [トラ] 故に
tusa [トサ] 利益	tümen [トメン] 萬
Türxe [トルヘ] トルコ	χoto [ホト] 都市、城
χatu [ハトー] 厳い	übücia [ウブチン] 病
detgüxü [デットグフ] 扶助する	
magat [マガット] 確か	Tübet [トゥベット] 西藏
tangut [タンゴット] 東藏、西夏	
d ...dain [ダイン] 戰爭	dabusu [ダボソ] 鹽
dokšin [ドクシン] 狂暴なる	
dura [ドラ] 好み	dürbe [ドルベ] 四
duči [ドゥチ] 四十	xada [ヘダ] 峰
ede [エデ] 之等	üčüdür [ウチュドル] 昨日
l ...lama [ラマ] 喇嘛僧	lû [ろー] 龍
χalûn [ヘローン] 暑い	šilu [シリ] 汗
sandali [サンダリ] 椅子	Mongol [モンゴル] 蒙古
baidal [バイダル] 有様	šil [シリ] 硝子
m...maši [マシ] 非常に	modo [モド] 木
omuk [オモック] 自慢	tügüm [トゥグム] 便利

olom [オロム]	渡場
č...čak [チャック]	時
čuk [チヨック]	一緒
čičik [チチック]	花
j...jam [ヂヤム]	道路
jurga [ヂョルガ]	六
jōs [ヂョース]	金錢
y...yū [ユー]	何
yirdinčü [イルディンチュ]	世界
youtu [ヨソ]	道理、禮
r...erdeni [エルデニ]	寶
garna [ガルナ]	出る
w...wañ [ワん]	王
wara [ワラ]	瓦
n...monqak [モンハツク]	愚かな
san [サン]	藏
tongalak [トンガラック]	清澄な
gan [ガん]	早

[2] 外來語

中國語 Jiben [リーベン] 日本 [中国音 jih-pen]。
 Fa ulus [ファ オロス] フランス [中国語でフランスは法國 fa-kuo]。 püse [ブーセ] 店 [中国語で舗子 p'u-tzū]。
 梵語 dharma [ダルマ] 法 [梵語 dharmā]。 bodhi-satwa [ボディサットワ] 菩薩 [bodhisattva]。 awalokiteswara

[アワラキテスワ] 觀世音 [梵語 avalokite'svara]。

[3] 西藏語 bum [ボム] 十萬 [hbum]。

文語と口語 本書では文語を採用してゐないが、口語の研究のため文語との関係を知つて置く必要がある。蒙古語學習に最も困難な事は文語と口語との相違が甚しいことで、現代の文語は元朝時代の口語に基礎を置いて成立したのであるから古語とも云はれるもので、勿論幾分の改廢はある、口語的な單語が幾分は混入されてゐる。然し數百年間文字も大した改良も行はれなかつたので、文語と口語との間に著しい差が生じてしまつた。そのため現代口語の中には從來の蒙古文字では寫されない音さへ現はれてきた。例へば文語では長母音がない。隨つてこれを寫す文字が無い。英語やフランス語に於て綴と發音が合致しないのと同じ現象である。しかし英語やフランス語は文語の讀方も口語の讀方とそんなに差があるわけではないが、蒙古語の方では全然口語の讀方をしない。口語に於て文語の發音をすれば奇妙に感じる。例へば衣服のことを文語では debel [デベル] といふが、口語では dēl [デール] と云ふ。

しかし文章を書く場合は全部文語に依らねばならぬ。口語體の文章といふものは存在しないのである。これが他の國語と全く異なる點で特に注意せねばならぬ。故に蒙古語を學ぶと云ふのは文口兩語を併習することになるのである。口語だけ知つてゐては會話には不自由しないが書物は讀めない。逆に文語を知つてゐるだけでは書物が讀めても一向會話には役立たないと云ふ様な有様である。

文語と口語が異なるからといつて單語全部が二様の發音があるといふわけではなく同じものも澤山ある。文語が口語に變化したのは出鱈目に行はれたのではなく一定の關係がある。その主な法則として

- (1) 語中の *g* 音は二母音に挿まれてアクセントが後方の母音にある時 *g* は脱落する。(長母音の項、参照)

■ *xagan* [ハガン] 合罕 > *χân* [ハーン] 汗、皇帝。
ulagan [おらガン] > *ulân* [おらーン] 赤。 *nagur* [ナゴル] > *nûr* [ノール] 湖。 *temege* [テメゲ] > *temê* [テメー] 駱駝。 *Begejin* [ベゲヂン] > *Bâjin* [ペーデン] 北京。 *degüü* [デグー] > *dû* [ドゥー] 弟。
ačiga [アチガ] > *ačâ* [アチャー] 荷物。 *tejigexü* [テジゲフ] > *tejyēχü* [テヂエーフ] 養ふ。 *toga* [トガ] > *tô* [トー] 數。 *ugaχu* [おガフ] > *uwaxu* [おワホ] 洗ふ。 *dologan* [ドロガン] > *dolôn* [ドローン] 七。 *xogola* [ホゴラ] > *χôl* [ホーる] 食事。
böge [ボゲ] > *bô* [ボー] 巫人。 *Ügelet* [ウゲレト] > *Olöt* [ヲーろト] 厄魯特 [西方蒙古の部族名]。 *büdükün* [ブトゥグン] > *büdün* [ブドーン] 太い。

- (2) 語末の母音は極めて弱くなり、殆ど消失に近い。

■ *süme* [スメ] > *süm^e* [スム] 廟。 *dogora* [ドゴラ] > *dôr^a* [ドール] 下。 *modo* [モド] > *mod^o* [モッド] 木。 *χedü* [ヘドッ] > *χedü* [ヘッド] 幾個。

- (3) 母音 *i* は語の前部にあるとき次の母音に同化される。

■ *čilagu* [チラゴ] > *čolô* [チヨロー] 石。 *jigasu* [チガソ] > *jagas^u* [チヤガス] 魚。 *šira* [シラ] > *šara* [シャラ] 黃色。 *sibar* [シバル] > *sabar* [シャバル] 泥。 *čisu* [チソ] > *čus^u* [チヨス] 血。

- (4) 母音 *e* は語の前部にあるとき後に来る母音に同化されることがある。

■ *ebüsü* [エブス] > *übüsü* [ウブス] 草。 *temür* [テムル] > *tümür* [トゥムル] 鐵。 *ebüge* [エブゲ] > *übüge* [ウブゲ] 祖父。

- (5) 母音 *a, e* が語の後部にあるとき前行する母音に同化することがある。

■ *χola* [ホラー] > *χolo* [ホロー] 遠い。 *χüxe* [フッヘ] > *χüχü* [フフ] 青い。

以上の諸法則は根本となるものであるが、絶對的なものではない。例外もあれば人によつては幾分文語的に話すものもあり、方言によつて多少の差は免れない。

又方言によつては母音調和の法則も大分亂れ、*iresen* を或は *iresa* と發音したり、*a* を *e*, *e* を *ö* に近く發音するが、これ等は未だ研究も充分ではなく複雑でもあるので、説明しない、此處ではヘルハ方言により成る可く母音調和の法則を尊重して書いてゐる。學習する場合も早く母音調和の法則を會得し體得しなければならぬ。

第三日

文 法

第一日及び第二日に於て蒙古語の發音に就て大體會得した譯であるから愈々文法に移る。一體外國語といふとすぐに英語や獨逸語等の歐羅巴の言語を聯想し文法といへば斯る言語の文法と心得勝ちである。しかし蒙古語はそれ等と全然異つた組織の國語であるから全然白紙の態度で臨まねばならぬ。

【1】 品詞 西洋語の文法では普通語詞を十品詞に分類する。即ち冠詞、名詞、代名詞、形容詞、數詞、動詞、副詞、前置詞、接續詞と間投詞が是である。しかるに蒙古語では冠詞、前置詞の二品詞は存在しない。又獨逸語の名詞に於ける如き性の區別等は全然ない。この點日本語や朝鮮語と非常に類似してゐる。西洋語では接續詞は却々免倒な重要な品詞であるが、蒙古語では副詞より轉化したものが多く、或は動詞の變化として表現され比較的容易である。又時や受身、使役等の形は日本語の文法では助動詞として説明してゐるが、蒙古語では動詞の語根に密着した接尾語に依つて示されるため動詞の語尾變化として示される。

そこで此處では名詞、代名詞、形容詞、數詞、動詞、副詞と間投詞の各品詞に分けて説明する。

(1) 名詞 事物の名を表す語である。

■ bičik [ビチック] 本。 Mükden [ムクデン] 奉天。 sanā [サンナ] 思想。

(2) 代名詞 名詞の代りに使用される語である。

■ bi [ビー] 私。 či [チー] 君。 xen [ヘン] 誰。 tere [テレ] 彼、其れ。

(3) 形容詞 事物の情態(性質とか形狀)を示すものであつて名詞、代名詞の意味を修飾する。

■ Tere-bül sain čün baina.
彼 ハ 善イ 人 デス

Ene čičik saixan baina.
コノ 花ハ 美シイ デス

に於ける sain や saixan の如きこれである。

(4) 數詞 事物の數量を表はす語である。

■ nige [=ゲ] 一つ。 čoyir [ホイル] 二ツ。

(5) 動詞 動作を表す語である。

■ Bi moŋgol bičik üjiji baina.
私ハ 蒙古ノ 本ヲ 讀ンデ 居ル

Burūn orona. に於ける üjiji baina とか orona の
雨ガ 降ル
如きはこれである。

(6) 副詞 動作の情態を明かにする語で、動詞又は形容詞又は形容詞の意味を修飾する。

■ Tere masi ündür baina. に於ける masi はこれ
其レハ 非常ニ 高ク アル
である。

(7) 間投詞 感動を表はす語で、文章中には獨立して存在する。

■ Abū, arga baraba. に於ける Abū がこれである。
シマツタ 手段が 繝キタ

[2] 名 語

§ 1. 名詞の數 蒙古語に於ける數の觀念は歐羅巴語に於けるが如く厳格でない。

既に複數であることが明瞭な場合、例へば名詞に前行する語に複數であることを示すものがあるとか、或は前後の關係にあつて複數なることが明らかな時は特に複數の形をとらない。これが他國語と大いに異なる所である。特に複數なることを示す必要ある場合にのみ用ひるのである。例へば

Ende arban χ ün baina.
ココニ 十 人 居ル

に於ては arban (十) と既に多數居ることが明瞭である。所が次の如く

Manju-du Narān čerigüt baina.
滿洲 = 日本 軍人(等)ガ居ル

に於ては一人の軍人 čerik か多數か何等之を示す語が無いから複數の形 čerig-üt を取つたのである。

(1) 単數 次の名詞は單數の形即ち原形である。

■ ūla [おーら] 山。 müren [ムレン] 江。 müsü [ムス] 氷。 öxin [ヲヒン] 娘。 ejen [エヂエン] 主人。 χ ürēn [フレーン] 庭。 tamaxi [タマヒ] 煙草。 maxa [マハ] 肉。 sü [スー] 牛乳。 širē [シレー] 机。 onguča [オングチャ] 船。 bars [バルス] 虎。 taxya [タヒヤー] 鶏。 narasu [ナラソ] 松。 altan [アルタソ] 金。 müngü [ムング] 銀。 χ as [ハス] 玉。 burxan [ボルハン] 佛。 numu [ノモ] 弓。 sumu

[ソモ] 矢。

(2) 複數 單數形の名詞に次の語尾又は助詞を附す。一つの名詞に必ずしも一箇の複數形をとるものでなく二様、三様の形をとることがある。

(イ) 名詞の語尾が n, l, r, su(n) 或は sü(n) に終るものには之等を除きその代りに t なる語尾を附す。

■ χ atun [ハトン] 夫人 > χ atut [ハトット] 夫人等。 ejen [エヂエン] 主人 > ejet [エヂエット] 主人等。 tüsimel [トウシメル] 役人 > tüsimet [トウシメット] 役人等。 gajar [ガヂヤル] 所 > [ガヂヤット] 所々。 nü χ ür [ヌフル] 友人 > nü χ üt [ヌフト] 友人等。 balgasun [バーガソン] 城 > balgat [バーガット] 城等。

(ロ) 母音に終はる名詞には s の語尾を取ることがある。

■ ere [エレ] 男 > eres [エレス] 男達。 eme [エメ] 女 > emes [エメス] 女達。

(ハ) 人を表はす名詞には nar, ner の助詞を附す。

■ šabi [シャビ] 弟子、學生 > šabi-nar [シャビ・ナル] 弟子達、學生等。 bakši [バクシ] 先生 > bakši-nar [バクシ・ナル] 先生方。 eže [エヘ] 母 > ežener [エヘネル] 婦人〔母達〕で ežener は形の上では複數であるが現在では一人の婦人でも ežener といふ。これは特殊な例外である。

(ニ)-ut (-üt) 又は -nut (-nüt) (-nut) (-nüt)

は同一種類の集合を意味する) を名詞に添加する。

-ut (-üt) は母音で終る名詞には -gut (-güt) と云ふ。

■ burχan-nut [ボルハン・ヌット] 諸佛。 čirik-üt [チリクット] 軍人等。 ger-üt [ゲルット] 家等。

語尾が t, p, k で終る名詞 -ut (-üt) を連絡する場合に t, p, k 音は屢々 d, b, g 音に變ずることがある。同上の čerik-üt は čerig-üt [チエリグット] となる。

(木) 語尾に -tai (-tei) [.....を有するものの意] を有する名詞はこれを -tan (-ten) に變す。

■ erdemtei [エルデムティ] 有徳者、學者 > erdemten [エルデムテン]。 uχāntai [おハーンタイ] 智者 > uχāntan [おハーンタン]。

練習問題

〔單語〕

nüxür [ヌフル] 友人 xedü [ヘッド] 幾何

čimada [チマタ] 君に aχa [アハ] 兄

dü [ドゥー] 弟

bainü? [ペイヌー] 有るか

arban [アルバン] + gurban [ゴルバン] 三

nigen [=ゲン] 一 ordon [オルドン] 宮殿

χuraji [ホラヂ] 集つて ūla [おーら] 山

dotor [ドトル] 中 üdek [ウデック] 熊

toχyalduba [トヒヤルドバー] 出會つた

mini [ミニ] 私の sōji [ソーデ] 住んで

Ulân Batûr Xoto [おらーン・バートル・ホト] 庫倫(新名)

mongolcüt [モンゴルチュット] 蒙古人等

olon [オロン] 澤山 ečige [エチゲ] 父

xorin [ホリン] 二十 bolöt [ボロート] 及び

gučin [ゴチン] 三十 imâ [イマー] 山羊

χoldun abuba [ホルドン アボバー] 買つた

süme [スメ] 寺廟 nom [ノム] 経

unšiji [オンシヂ] 読んで lama [ラマ] 喇嘛、僧侶

χurât [ホラート] 集つて

蒙文和譯問題

(1) Nüxür χedü χün baina?

(2) Arban χün baina.

(3) Čimada aχa dü-ner bainü?

(4) Gurbän aχa bolöt nigen dü baina.

(5) Tüsime ordon-du χuraji baina.

(6) Bi ūlan dotor üdek-tei toχyalduba.

(7) Mini nüxüt Manju-du sōji baina.

(8) Ulân Batûr Xoto-du mongolcüt olon baina.

(9) Mini ečige xorin χonin, gučin imâ χoldun abuba.

(10) Lama-nar süme-dü χurât nom unšiji baina.

【解 答】

(1) 友人は何人居りますか?

- (2) 十人居ります。
- (3) 君には兄弟(達)がありますか?
- (4) 三人の兄と一人の弟が居ります。
- (5) 役人等が王宮に集つてゐます。
- (6) 私は山中で熊に出會つた。
- (7) 私の友人達は満洲に住んで居ります。
- (8) 庫倫に蒙古人が澤山居ります。
- (9) 私の父は二十匹の羊と三十匹の山羊を買ひました。
- (10) 喇嘛僧達が廟に集つてお經を讀んで居ります。

【註釋】

(1) *χedü* は *χedün* 又は *χedüi* とも云ふ。この文章で *χedü* (幾何) なる語に複數の意があるから *χün* (複數は *χümüs*) が複數の形をとらない。

(2) *arban* は單獨では *arba* といふ。他の品詞が後に續くとき *n* なる語尾をとる。他の數詞も同上。

(3) *čimada* は人稱代名詞の二人稱の單數與格である。この主格は *či* である。

dü-ner の *ner* は複數を示す助詞で *dü* が女性母音の語だから調和して *ner* を附したものであつて、若し前が男性母音の語ならば *nar* をとる。即ち *aχa* ならば *aχa-nar* となる。*bainü* (あるか) は動詞現在の疑問體、*bai-* が語根である。

(4) *gurban*, *nigen* は單獨では *n* を除いた *gurba*, *nige* である。(上述の通り)

- (5) *tüsimet* は前例に示した通り *tüsimel* の複數形である。

χuraji は動詞の連用形で日本語の〔……して〕に當り、この形の次には必ず動詞が来る。語根は *χura-* である。

- (6) *üdek* は *üdege* が訛つた形で、-tei は名詞の共同格(……と)の助詞である。

(7) *mini* (私の)は *bi* の所有格。*sōji* は *χuraji* と同じく動詞の連用形で語根は *χura-* である。

- (8) *mongolčut* は *mongol* (蒙古) -čut (人の複數を示す形)である。

(9) *χoldun abuba* の *χoldun* は動詞の連用形で -n は *ji* と同じに用ひられる。故に *χolduji abuba* と云つても宜しい。*χoldu-* は商賣するの意。*abuba-* は動詞の過去形で *abu-* が語根で -ba が過去を表はす語尾である。*abu-* は語根で〔取る、求める〕の意。〔商ひして取る〕の意で〔買ふ〕と云ふ意となる。

- (10) *süme-dü* [廟に] -dü は名詞の與格〔……に〕で *süme* が女性音だから -dü と女性の助詞が附せられたのであつて若し男性ならば -du と母音調和する。*χurât* も動詞の連用形であつて〔集つてさうして、集つて而して〕の意を表はす。之は前の -ji や -n と違ふ。これは後段動詞の連用形に於て説明する。

第四日

文 法

名 詞

§2. 名詞の格 格とは日本語に於けるテニヲハである。蒙古語には主格(ガ、ヘ)、所有格(ノ)、與格(ニ)、對格(ヲ)、造格(デ、ヲ以テ)、奪格(カラ、ヨリ)、共同格(ト)の七つの格がある。格を表すには名詞に夫々の助詞を附して作る。この助詞は讀む時は連結して一語の如く發音する。隨て名詞の音の性質により、語尾によつて其れに接する助詞を異にし或は音便現象を生ずる。

格の變化に際して名詞はそのものには何等の影響を蒙らない。以上の助詞は特に意味を強めるときか又は紛らはしき場合に用ひる。その必要のない時は名詞に助詞を附さないで宜しい。格に二種あつて、一つは普通格で他は特別格である。

[1] 普通格 單なるテニヲハで日本語の場合と同じで次の助詞を名詞に附して作成する。

(1) 主 格

-ni, -bul (-büł), bolbal(a) (bolbal と云ふ助詞は名詞より離して用ひる)。

以上の助詞の中最も一般的なのは -ni, -bul (-büł) である。

内蒙古に於ては尙 -čin と云ふ助詞を多く用ひ、更に bolbalčin の如く bolbal(a) と連結して用ひることもある。

(2) 所 有 格

母音或は n 以外の子音に終るものに -in

(長母音の後では -gin と云ふ)

n に終るものに -nai (-nei)

母音に終る名詞は n を語尾に附することが出来るから -nai (-nei) も實際には連結し得るわけである。

(3) 異 格

母音及び i 音の後で -du (-dü) 又は -da (-de)

i 以外の子音の後で -tu (-tü) 又は -ta (-te)

i 及び子音に終るものに -a (-e)

(4) 對 格

母音に終るものに -gi

子音に終るものに -i

北方蒙古では母音に終る名詞の後に -igi 或は ik を用ひる。

(5) 造 格

短母音に終るものに -är (-är)

複母音及び長母音に終るものに -gär (-gär)

子音に終るものに -är (-är)

(6) 奪 格

單母音及び子音に終るものに -äs (-ës)

複母音及び長母音に終るものに -gâs (-gêš)

(7) 共 同 格

-tai (-tei)

名詞の複数形の格變化は複数の語尾又は助詞の後に以上の助詞を接続す。隨て複数の形の語末の音に従つて變化する。

(1) *aχa* [アヘ] 兄 (男性母音 a で終るもの)

主 格 *aχa-bul* [アヘ ブル] 兄は

(主格はどの助詞を用ひても宜しい)

所有格 *aχa-in* [アヘ イン] 兄の

與 格 *aχa-du* [アヘ ド] 兄に

對 格 *aχa-gi* [アヘ ギ] 兄を

造 格 *aχâr* [アヘル] 兄で

奪 格 *aχâs* [アハース] 兄より

其用格 *aχa-tai* [アヘ タイ] 兄と

(2) *eχe* [エヘ] 母 (女性母音 e で終るもの)

主 格 *eχe-ni* [エヘ ニ] 母が

所有格 *eχe-in* [エヘ イン] 母の

與 格 *eχe-dü* [エヘ ド] 母に

對 格 *eχe-gi* [エヘ ギ] 母を

造 格 *eχêr* [エヘル] 母で

奪 格 *eχês* [エヘース] 母より

共同格 *eχe-tei* [エヘ テイ] 母と

(3) *gaxai* [ガハイ] 豚 (複母音で終るもの)

主 格 *gaxai-čin* [ガハイ チン] 豚が

所有格 *gaxai-in* [ガハイ イン] 豚の

與 格 *gaxai-du* [ガハイ ド] 豚に

對 格 *gaxai-gi* [ガハイ ギ] 豚を

造 格 *gaxaigâr* [ガハイ ガール] 豚で

奪 格 *gaxaigâs* [ガハイ ガース] 豚より

共同格 *gaxai-tai* [カハイ タイ] 豚と

(4) *χân* [ヘーン] 皇帝 (子音 n で終るもの)

主 格 *χân bolbala* [ヘーン ボルバラ] 皇帝が

所有格 *χân-nai* [ヘーン ナイ] 皇帝の

● 與 格 *χân-du* [ヘーン ド] 皇帝に

對 格 *χân-(n)i* [ヘーン ニ] 皇帝を

● 造 格 *χânâr* [ヘーナール] 皇帝を以て

● 奪 格 *χânâs* [ヘーナース] 皇帝より

共同格 *χân-tai* [ヘーン タイ] 皇帝と

(5) *gal* [ガル] 火 (子音 l で終るもの)

主 格 *gal-ni* [ガル ニ] 火が

所有格 *gal-in* [ガリン] 火の

與 格 *gal-du* [ガル ド] 火に

對 格 *gal-i* [ガリ] 火を

造 格 *galâr* [ガラール] 火で

奪 格 *galâs* [ガラース] 火より

共同格 *gal-tai* [ガル タイ] 火と

(6) *bursaň* [ボルサン] 僧 [子音 n で終るもの]

主 格 bursañ-bul [ボルサン ボル] 僧が
 所有格 *bursañ-in [ボルサンギン] 僧の
 興 格 bursañ-du [ボルサン ド] 僧に
 對 格 *bursañ-i [ボルサン ギ] 僧を
 造 格 *bursañär [ボルサン ガール] 僧を以て
 奎 格 *bursañäs [ボルサンガース] 僧より
 共同格 bursañ-tai [ボルサン タイ] 僧と

上例の如く n (ng) の g 音が助詞の接續の際讀まれること
 がある。

(7) xerek [ヘレック] 事 (子音 k で終るもの)

主 格 xerek [ヘレック] 事は
 所有格 xereg-in [ヘレッギン] 事の
 興 格 xerek-tü [ヘレックト] 事に
 對 格 xereg-i [ヘレッギ] 事を
 造 格 xeregér [ヘレゲール] 事を以て
 奎 格 xeregës [ヘレゲース] 事から
 共同格 xerek-tei [ヘレック テイ] 事と

所有格・對格・造格・奎格に於て xerek の語末音 k は音便で
 g 音に變化する。

例外 ger [ゲル] 家 は奎格に於て gerës の代りに gertës
 を使用することがある。

練 習 問 題

次の名詞の格變化を示せ

modon [モドン] 木 (例 4 參照)

noχai [ノハイ] 犬 (例 3 參照)
 bičik [ビチック] 本 (例 7 參照)
 bir [ビル] 筆 (例 7 參照)
 -maya [マハ] 肉 (例 1 參照)
 sañ [サン] 倉 (例 6 參照)

練 習 問 題

【單 語】

xurû [ホロー] 指	jarlik [ヂルリック] 勅、詔
jalabâ [ヂラバー] 招いた	barina [ベリナー] 建てる
üsük [ウスック] 文字	bičine [ビチネー] 書く
budâ [ボダーチ] 飯	idene [イデネー] 食べる
onguča [オングチャ] 船	cini [チニ] 君の
očina [オチナー] 行く	
asûna [アソーナー] 質問する	
Xüxü Nûr [フフ ノール] 青海 (地名)	
xürüne [フルネー] 到る	yû [ユー] 何
târiji [ターリヂ] 經て、通つて	
sonosba [サノスパー] 聞いた	
sonosusan ügei [ソノソサン ウダイ] 聞かなかつた	
odô [オドー] 今	barâ [バラーチ] 品物
üne [ウネ] 價格	xyamda [ヒヤムダ] 安い
Xalxa Mongol [ヘルハ モンゴル] 外蒙古 (喀爾喀蒙古)	
tus(a)gar ulus [トスガル おろス] 獨立國	

Sibíri [シビリ] 西比利亞

Buryat [ボリヤート] ブリヤート (蒙古族の一つ)

dēl [デール] 着物 ümüsči [ウムスチ] 着て

gadana [ガダナー] 外へ garuna [ガルナー] 出る

tere-nei [テレネイ] 彼の

Xailar [ハイラル] 海拉爾 (北滿の地名)

蒙文和譯問題

1. Gar-in χurū.
2. Aχa-in bičik.
3. χān-nai jarlik.
4. Ger-tü χün ügei.
5. Bičig-i unšina.
6. Lama-gi jalaba.
7. Modonâr ger barina.
8. Birâr üsük bičine.
9. Budâ-gi idene.
10. Ongučâr yabuna.
11. Mini nüxür-čin čini dû-tei χamtu očina.
12. Šabi-bul bakšâs asûna.
13. Xüxü Nûrâr târiji Tübet-tü χürune.
14. Jam-du yû sonosba?
15. Yû či sonosusan ügei.
16. Odô barân-nai üne χyamda baina.

17. Xalχa Mongal bolbala tusagar ulus bainū?

18. Šibiri-du sôχu moŋgolčut bolbala Buryat baina.

19. Dêl-i ümüsči gadana garuna.

20. Tere-nei nüxür Xailarâs irebe.

【解 答】

1. 手の指。
2. 兄の本。
3. 皇帝の詔。
4. 家に人が居ない。
5. 本を讀む。
6. 喇嘛僧を招いた。
7. 木で家を建てる。
8. 筆で文字を書く。
9. 御飯を食べる。
10. 船で行く。
11. 私の友達は君の弟さんと一緒に行く。
12. 生徒が先生に質問する。
13. 青海を経て西藏に達する。
14. 途中で何を聞きましたか？
15. 何も聞きませんでした。
16. 現在物價は安い。
17. 外蒙古は獨立國ですか。
18. シベリアに住む蒙古人はブリヤート人である。

19. 著物を着て外出する。
20. 彼の友達は海拉爾から來た。

【註　　釋】

4. 「人が居ない」は *χün ügei* とも *χün baiχu ügei* とも云ふ。
5. 「本を讀む」は *bičik unšina* と *bičik* を對格の助詞をとらなくても此の場合分るので助詞は省略される。
6. も 5. と同じく助詞を附さなくても分かるので附さぬ。
7. 「木で」は *Modonâr* とも *modôr* とも云ふ。 *modôr* は *modon* の *modo* の *n* を取り *modo-âr* としたのであって *modôr* [モドール] と發音する。
12. *asüna* は奪格 *-âs* を要求する。「先生」*bakši* の奪格の形は *bakši-âs* (又は *bakši-gas* とも云ふ) で *bakšâs* [バクシャース] と發音す
14. *sonosba* は「聞いた」の意であるが、文中に *yû* (何) があるので蒙古語では別に動詞の疑問形を要求しない。
15. 過去の打消は *-san ügei* である。
18. *söχu* は動詞の連體形で「住む所の」の意で、*ügei* は打消の詞である。
19. *ümüsči* (着て)は動詞の連用形で前出の *-ji* と同じであるが、特に *b, r, s, t, k* に續く時にのみ *-či* の形をとるのである。
20. *Tere-nei* は *Tere* の所有格。

第五日

文 法

[2] 特別格 蒙古語には普通の格の外に特別な格がある。これは格變化する名詞が文中の主格に從属することを示す。例へば *Bi bičig-i unšina* (私は本を讀む)なる文に於て *bičig-i* は *bičik* の普通の對格であるが、之を特別格で示せば *bičig-ēn* となる。前者では *bičik* (本)は誰の所屬なるか示されてゐない。即ち自分 (私 *bi*) なのか彼なのか君のか分らない。然るに *Bi bičigēn unšina* と云へば私は私の本を讀むこととなる。即ち *bičik* の所屬が主語 (ここでは *bi*) に當ることが明示されてゐるので自分の本を讀むと云ふことが分かる。蒙古人は斯る表現を好むのであるから學習者は注意して用法を覚えねばならぬ。(東南蒙古では特別格を餘り用ひない)

主 格 無し

所 有 格 無し

(1) 奥　　格

母音及び l 又は n 音で終るものに *-dân* (*dēn*)

i 又は n を除く其他の子音に終るものに *-tân* (*tēn*)

(2) 對　　格

單母音及び子音に終るものに *-ân* (-ēn)

複母音及び長母音に終るものに *-gân* (-gēn)

(3) 造 格

單母音及び子音に終るもの

-âran (-êren)

複母音及び長母音に終るものに

-gâran (-gêren)

(4) 奪 格

單母音及び子音に終るものに

-âsan (-êsen)

複母音及び長母音に終るものに

-gâsan (-gêsen)

(5) 共 同 格

-taigan (-teigen)

■ 次の用例中主格及び所有格を省略す。

(1) *maya* [マハ] 肉

與 格 *maya-dân* [マハダーン] 肉に(自分の)

對 格 *mayañan* [マハーン] 肉を(自分の)

造 格 *mayaaran* [マハーラン] 肉で(自分の)

奪 格 *mayaasan* [マハーサン] 肉より(自分の)

共同格 *maya-taigan* [マハタイガン] 肉と(自分の)

(2) *tolugai* [トロガイ] 頭

與 格 *tolugai-dân* [トロガイダーン] 頭に(自分の)

對 格 *tolugaigân* [トロガイガーン] 頭を(自分の)

造 格 *tolugaigâran* [トロガイガーラン] 頭で(自分の)

奪 格 *tolugaigâsan* [トロガイガーサン] 頭より(自

分の)

共同格 *tolugai-taigan* [トロガイ・タイガン] 頭と(自分の)

(3) *χül* [フる] 足

與 格 *χül-dân* [フるデーン] 足に(自分の)

對 格 *χülên* [フレーン] 足を(自分の)

造 格 *χülêren* [フレーレン] 足で(自分の)

奪 格 *χülêsen* [フレーセン] 足より(自分の)

共同格 *χül-teigen* [フルティゲン] 足と(自分の)

(4) *bičik* [ビチック] 本

與 格 *bičik-tân* [ビチックテーン] 本に(自分の)

對 格 *bičigên* [ビチゲン] 本を(自分の)

造 格 *bičigêren* [ビチゲーレン] 本で(自分の)

奪 格 *bičigêsen* [ビチゲーセン] 本より(自分の)

共同格 *bičik-teigen* [ビチックティゲン] 本と(自分の)

練 習

次の名詞の特別格の變化を示せ。

noyin [ノイン] 長官 (例 3 参照)

noχai [ノハイ] 犬 (例 2 参照)

χutuk [ホトック] 福 (例 4 参照)

üla [おーら] 山 (例 1 参照)

練 習 問 題

【單 語】

χudal [ホダル] 嘘言 bitgei [ビトゲイ]勿れ

- χele [ヘレ] 話せ(動詞) χü [フー] 男兒
 χutuga [ホトガ] 小刀 ene üdür [エネ ウドル] 今日
 šarχadaba [シャルハダバ] 傷付けた
 nutuk [ノトック] 故郷 egeči [エゲチ] 姉
 bučalai [ボチャライ] 歸つた許り
 ünē [ウネー] 牛 sâdak [サーダック] 乳を搾る
 emči [エムチ] 醫者 bolbači [ボルバッチ] けれども
 tusa [トサ] 利益 ildü [イルドゥ] 刀
 χurča [ホルチャ] 銳い eši [エシ] 柄
 χariji [ヘリチ] 歸つて irêt [イレート] 來て
 bolbasuraχu [ボルバソラホ] 復習する
 χerektei [ヘレックティ] ……ねばならぬ
 nidunun jil [= ドノン デル] 昨年
 očibai [オチバイ] 行つた jiguji [ヂゴヂ] 咬へて
 ôgât [オーガート] 飲んで surguli [ソルゴリ] 學校

【問　題】

- Či χudalân bitgei χele.
- Xü-čin χutugâsan šarχadaba.
- Bi ene üdür nutugâsan bučalai.
- Mini egeči ünêgen sâdak.
- Emči sain bolbači beyi-dên tusa ügei.
- Ildü χurča bolbači eši-dên tusa ügei.
- Či ger-tên χariji irêt bâsa bičigén bolbasuraχu χerektei,

- Bi nidunun jil dû-teigen χamtu abaga-dân očiba.
- Noχai aman-dân maya jiguji yabuna.
- Budâgân ideji čaigân ôgât surguli-du očina.

【解　答】

- 君嘘を云ふな。
- 男の子が小刀で手を怪我した。
- 私は今日故郷から歸つた所です。
- 私の父は(常に)牛の乳を搾る。
- 名醫も(自分の)身體には役立たぬ。
- 銳い刀でも(その)束の役には立たぬ。
- 君は家へ歸つて来てから本を復習せねばならぬ。
- 私は昨年弟と一緒に伯父の處へ行つた。
- 犬が口に肉を咬へて歩いてゐる。
- 御飯を食べてお茶を飲んで學校へ行く。

【註　釋】

- bitgei はまたは bû とも云ふ禁止の助詞で、常に動詞の命令形の前に置かれる。χele は動詞 χeleχü の命令形である。動詞の命令形は語尾を除いて語幹を以て表はす。他の例で云へば yabuχu (行く)の語幹は yabu- で、yabu が命令形となつて〔行け〕となる。
- ene üdür (今日) は ünüdür と連絡して發音される。ene は「この」、üdür は「日」で üdür は名詞であるが、こ

の場合副詞として用ひられてゐるから、格變化しない。即ち
ene üdür-tü 等と云はない。

bučalai は動詞 bučaxu の現在完了の形である。

4. sôdak の語尾の -dak は「常に……する」の意を表す。動作の繼續又は習慣を表す。

5. tusa ügei は「利益がない、役に立たぬ」の意で、「利益がある、役に立つ」は tusa-tai といふ。

6. irêt は動詞 ireχü の連用形で「来て而して、来てから」の意。

χerektei は「必要がある、ねばならぬ」の意。

10. ôgât は動詞 ôχu の連用形「飲んでさうして」の意。

第六日 文 法

§3. 名詞の作成

蒙古語に於ては或る名詞又は或る動詞より更に他の名詞を作成することが出来る。

[1] 名詞より作成する名詞

名詞に次の接尾語を語尾に附すれば他の名詞が作成される。
名詞の語尾が n で終るものはこれを除いて接尾語を附す。

(1) -či その事に從事する人を示す。

■ χudalduga (商賣) > χudaldugači [ホダルドガチ] 商人。 mori (馬) > moriči [モリチ] 馬丁。 χoni (羊) > χoniči [ホニチ] 羊飼。

(2) -lik 集合名詞となる。

čičik (花) > čičiklik [チチクリック] 花園。

(3) -bči 器物、道具を示す。 (-bči は器物を示す名詞の語尾であることが多い)

■ χede (火打石) > χedebči [ヘデブチ] 火打石容れ。
čiχi (耳) > čiχibči [チヒブチ] 耳覆ひ。

[2] 動詞より作成する名詞

動詞の語幹に次の接尾語を付すれば名詞となる。斯かる接尾語は非常に多いが、その中の主なるものを擧げる。

(1) -kči

■ mede- (知る) (動詞の語幹) > medekči [メデクチ] 知る人、支配者。 asú- (質問する) > asúkči [アソーキチ] 質問者。

(2) -dal (-del)

■ yabu- (行く) > yabudal [ヤボダル] 行き方、行爲。 sô- (坐はる) > sôdal [ソーダル] 座席。

(3) -â, -ê

■ mede- (知る) > medê [メデー] 報知。 ači- (負ふ) > ačâ (<ači+â>) [アチャー] 荷物。

(4) -ši

■ ide- (食べる) > ideši [イデシ] 食物。

(5) -lga (-lge)

■ unši- (読む) > unšilga [おんシルガ] 読書。 mede- (知る) > medelge [メデルゲ] 智識。

(6) -ul (üll), -ur (-ür)

■ ergi- (回転する) > ergyül [エルギヨーる] 滑車。 talbi- (置く) > talbyur [タルビール] 置く所 (帽子、衣服等を)。

(7) -uli (-üli), -uri (-ür)

■ surga- (教へる) > surguli (surga+uli) [ソルゴリ] 學問、學校。 iči- (恥ぢる) > ičyuri [イチューリ] 恥。

(8) -buri (-büri)

■ tail- (解く) > tailburi [タイルブリ] 講義。

(9) -laň (-len)

■ juba- (苦しむ) > jubalaň [ヂュバラン] 苦しみ。 jirga- (楽しむ) > jirgalain [ジルガラン] 楽しみ。

(10) -l

■ xüse- (欲する) > xüsel [フセル] 希望。 mede- (知る) > medel [メデル] 智、支配。

(11) -mji

■ üji- (見る) > üjimji [ウヂムヂ] 景色。

(12) -k

■ biči- (書く) > bičik [ビチック] 書物。 jasa- (治める) > jasak [ヂヤサック] 政治。

(13) -ri, -ča

■ sô- (坐はる、住まふ) > sôri [ソーリ] 位置、住居。 bû- (下りる、宿る) > bûča [ボーチャ] 宿屋。

(14) -lda (-lde)

■ garu- (出る) > garulda [ガロルダ] 產物。 čoχi- (打つ) > čoχilda [チヨヒルダ] 掛時計。

練習問題

【單語】

tendexi [テンデヒ] 其處の tergeči [テルゲチ] 車夫 nâši [ナーシ] 此方へ ire [来れ] 來れ

idegemji [イデゲムヂ] 信用。

malagai [マラガイ] 帽子 dêre [デーレ] 上に

jaruča [ヂヤロチャ] 召使 čāsi [チ,ーシ] 彼方へ
yabukči [ヤボクチ] 行く人 šür [シユール] 篦
šürdedek [シユールデデック] (常に)掃く
garubai [ガロバイ] 出た, (登つた). gakča [ガクチャ] 唯
mandu [マンド] 私達に
χürxü ügei [フルフ ウゲイ] 及ばない。

1. Tendexi üjimji maši sain.
2. Tergeči nāsi ire !
3. Tere bolbala idegemji ügei.
4. Tanai malagai-čin talbyur-in dêre baina.
5. Čāsi yabukči xen baina ?
6. Modoči modon dêre garubai.
7. Jaruča šürér χürén šürdedek.
8. Gakča bičik medexü ügeigēs mandu χürxü ügei.

【解 答】

1. 其處の景色は非常に良い。
2. 車屋此方へ來い。
3. 彼は信用がない。
4. 貴君の帽子は帽子掛けの上にある。
5. 彼方へ行く人は誰ですか？
6. 大工が木の上に登つた。
7. 召使は箒で庭を(常に)掃く。
8. 唯字が知らないので(知らないことより)私達に及ばない。

【注 算】

2. tergeči の terge は「車」の意。 ire は動詞 irexü (来る)の語幹で命令形。
3. idegemji の idege- は「信用する」と云ふ動詞、それに接尾語 -mji が付いたのである。
4. talbyur は「置く所」の意であるが、帽子ならば「帽子掛け」、着物なら「衣桁」となる。
5. yabukči の yabu- は「行く、歩く」の意、それに接尾語 -kči が付いたのである。
6. modoči の modo は「木」、 -či が付いて「大工」となつた。 dêre は「上に」、 garubai は動詞 garuxu の過去形、 dêre garuxu で「登る」の意となる。「山に登る」は ūlan dêre garuxu となる。
7. jaruči の jaru- は「使ふ」の意で。本當は jarukči となる所であるが、普通 jaruči 又は jaruča と慣用してゐる。 šürdedek の語尾 -dek は前出の通り繼續、習慣を表はすので「常に……する」となる。
8. medexü ügeigēs は medexü ügei 「知らない」は名詞に取扱はれ語末に於て格の變化の助詞 -gēs (奪格)を附したものである。 χürxü は「及ぶ、到る」の意、 ügei が附いて否定となる。

第七日

文 法

代 名 詞

蒙古語に於ける代名詞は次の三種である。

- (1) 人稱代名詞 私(第一人稱)とか、君(第二人稱)とか、彼(第三人稱)とか人稱を示す代名詞。
- (2) 指示代名詞 事物、場所、方向等を示す代名詞で、「これ」とか「あれ」とか云ふ。
- (3) 疑問代名詞 疑問を發するための代名詞で、「誰」とか、「何」とかを云ふ。

歐羅巴語に於ける關係代名詞は蒙古語には存在しない。代名詞はその形式に於ては名詞と殆ど同様で、その格の變化も名詞と殆ど異なる所がない。

§ 4. 人稱代名詞 三箇の人稱がある。各人稱には單數と複數がある。名詞と比較してその格の變化は此の代名詞は不規則で、歐羅巴語の如く語尾に接尾語を附する許りでなくその内容まで變化する。乃ち蒙古語はこの人稱代名詞に於て歐羅巴語の如き屈曲的要素が多い。

(1) 一 人 種

私(單數) 私達(複數)

主 格 bi bida (bidanar)

所有格	mini	manai, bidanai
與 格	nada, nadur	man-du, bidan-du
對 格	namaigi	man-i, bidan-i
造 格	nadâr	manâr, bidanâr
奪 格	nadâs	manâs, bidanâs
期 格	nada-tai	man-tai, bidan-tai

〔註〕 bida は bidanar の如く bida に複數の語尾 -nar を附することがある。bidanar の格の變化は -r を語尾とする普通名詞の格の變化と全然同じである。又 bida は屢次 bide と發音される。

(2) 二 人 種

君(單數)	君等、(貴方)(複數)
主 格	či
所有格	čini
與 格	čimadu, cimada
對 格	čimaigi
造 格	čimâr
奪 格	čimâs
期 格	čima-tai

〔註〕 二人稱複數は敬稱「貴方」に用ひられる。či は「君」とか「お前」の意で同等以下に用ひられる。ta は「貴方」となれば單數だか、複數だか分らないので、普通 či (君) の複數は tanar (君等) の形を用ひる。

(3) 三 人 種

彼(單數)	彼等(複數)
主 格 tere	tede, tedener
所有格 terenei, tûnei	tedenei, tedener-in
與 格 teren-dü, tûn-dü	teden-dü, tedener-tü
對 格 teren-i, tûn-i	teden-i, tedener-i
造 格 teregêr, tûnêr	tedenêr, tedenerêr
奪 格 terenês, tûnês	tedenês, tedenerês
共同格 teren-tei, tûn-tei	teden-tei, tedener-tei

§ 5. 指示代名詞

(1) 事物を指示するもの

これ(單數)	これ等(複數)
主 格 ene	ede, edener
所有格 ene, ünei	edenei, edener-in
與 格 ene-dü, ündü	eden-dü, edener-tü
對 格 en-i, ün-i	eden-i, edener-i
造 格 enêr, ünêr	edenêr, edenerêr
奪 格 enês, ünês	edenês, edenerês
共同格 en-tei, ün-tei	eden-tei, edener-tei

「あれ」tere(單數)、「あれ等」tede(複數)は人稱代名詞三人稱と同じである。元來蒙古語の三人稱はこの指示代名詞より轉化したものと謂はれてゐる。

(2) 場所を指示するもの

此 處	其 處
主 格 ende	tende
所有地 endexi	tendexi
與 格 ende	tende
對 格 ende	tende
造 格 endêr	tendêr
奪 格 endês	tendês
共同格 ende-tei	tende-tei

(3) 方向を指示するもの

nâši [ナーシ] 此方
čâši [チャーシ] 彼方
enetei (entei) [エネティ] 此の邊
teretei [テレティ] あの邊

この指示代名詞の變化は普通名詞の格の變化と同様である。

§ 6. 疑問代名詞

誰	何
主 格 xen	yü
所有格 xenei	yünei
與 格 xen-dü	yün-dü
對 格 xen-i	yün-i
造 格 xenêr	yünêr
奪 格 xenês	yünês
共同格 xen-tei	yü(n)-tei

どれ	何處
主 格 ali	χâ
所有格 alinai	χâxi, χânaï
與 格 alin-du	χâ
對 格 alin-i	χâ
造 格 alinâr	χâgur
奪 格 alinâs	χânâs
共同格 alin-tai	χâ(n)-tai

尚 χâši (何方) (或は χaiši) 等あるが普通名詞の格と同じなので別にその變化を示さない。

練習問題

【單語】

jorilga [ジョリガ] 意圖	biši [ビシ] ...に非ず
ton [トン] 最も	ičyüri [イチューリ] 廉恥
imü [イーム] この様な	jâji [ヂヤーデ] 教へて
ük [ウック] 吳れ	üji [ウヂ] 見よ
übüčin [ウブチン] 病氣	odô [オドー] 今
yamar [ヤマル] どんな	alba [アルバ] 役、公職
bičig-in pûse [ビチッギン ブーセ] 本屋	
χîji [ヒーデ] 為して	gadana [ガダナ] 外に
Ulân Xada [おらーン ヘダ] 赤峯 (地名)	
χülêji [フレーデ] 待つて	χürtele [フルテレ]迄
gajar [ガヂャル] 所、里數	χûraji [ホーラヂ] 偽つて
čičiklik [チチクリック] 花園	olon [オロン] 多くの

saiχan [サイハン] 美しい önge [ヲンゲ] 色

1. Terenei jorilga sain biši.
2. Tere χün ton ičyüri ügei.
3. Tede χâ očiba ?
4. Mini sonosusan-ni imü baina.
5. Ta nada mongol χele jâji ük!
6. Tende bitgei üji.
7. Čini übüčin odô yamar bei ?
8. Ene bičig-i χânâs χoldoji abuba ?
9. Tendexi bičig-in püsês χoldoji abuba.
10. Tanai ečige-čin yamar alba χîji baina.
11. Či ende irêt χedün jil boluji ?
12. Gadana nigen χün irêt čimaigi χülêji baina.
13. Endêš Ulân Xada χürtele χedüi gajar baina ?
14. Tere ečener namaigi χûraji baina.
15. Endexi čičiklik-tü olon önge-in saiχan čičig-üt baina.

【解 答】

1. 彼の意圖は宜しくない。
2. あの人は最も廉恥(心)がない。
3. 彼等は何處へ行つた。
4. 私の聞いたのはこの様なことです。
5. 貴方は私に蒙古語を教へて下さい。

6. 其處を見るな。
7. 君の病氣は今如何ですか。
8. この本を何處で求めたか。
9. そこの本屋で買つた。
10. 貴方のお父様はどんなお仕事をしてゐますか。
11. 君は此處に來て何年になつたか。
12. 外に一人の人が來て君を待つてゐる。
13. 此處から赤峯まで何里あるか。
14. あの女は私を偽つてゐる。
15. 此處の花園には多くの色の美しい花がある。

【註　　釋】

1. *biši* は「……に非らず」で名詞、形容詞を打消すが、*ügei* は「……ない」である。例へば *χün ügei* は「人が居ない」であるが、*χün biši* は「人に非ず」で大變意味が異なる。
4. *sonosusan-ni* は「聞いた所のものは」の意で、……san は動詞の連體形で、*sonosusan* は名詞として此處では取扱はれ主格の助詞 -ni が附せられたのである。
5. *ük* は *ükχü* (與へる、呉れる) の語幹で此處では命令形である。
6. *bitgei* は *bü* と同じで禁止を意味し、必ず動詞の命令形の前に置かれる。*üji* は *üjiχü* (見る) の語幹で命令形である。
8. 「何處で求めたか」は日本語では與格であるが、蒙古語で

- は「何處から」乃ち奪格を要求する。
9. *püse* (店) は支那語の舗子 *p'u-tzü* からの轉來した語である。
 10. *χiji* は *χixü* の連用形。
 11. *χedün* は *χedüi* と同じ。
 12. *χüléji* は *χüléχü* の連用形。
 13. *Ulân Xada* は「赤い峯」で、熱河の地名「赤峯」は蒙古語より出でたもの。
-

第二週

第一日

文 法

形 容 詞

蒙古語の形容詞は次の三種に分かつことが出来る。

- (1) 元來形容詞であるもの。
- (2) 名詞が形容詞となるもの。
- (3) 他の品詞に接尾語を附すことによつて形容詞となるもの。

§ 7. 本來の形容詞

(1) 短母音を語尾とする形容詞

yixe [イッヘ]	大きい	baga [バガ]	小さい
χolō [ホロー]	遠い	uira [おイラ]	近い
urtu [アルトー]	長い	χündü [フンドゥ]	重い
berχe [ベルヘ]	難かしい	buguni [ボゴニ]	低い
čingga [チング]	嚴重な	sula [ソラ]	閑な
doro [ドロ]	貧弱な	nuta [ノタ]	確實な
nikta [=クタ]	細密な	adali [アダリ]	同じ
šine [シネ]	新しい	gün [グン]	深い
ülemji [ウレムヂ]	多い(優れて)		
χurča [ホルチャ]	鋭い	χüχü [フフ]	青い
χara [ヘラ]	黒い	sara [シャラ]	黄色の
buru [ボロ]	灰色の		

(2) 長母音及複母音で終る形容詞

mô [モー] 悪い	χatû [ハトー] 堅い
gô [ゴー] 脣しい	χörχei [ホールヘイ] 可憐な
χobaxai [ホベハイ] 荒れた、枯れた	
elengei dülengei [エレンゲイ ドゥレンゲイ] ポロボロな	

(3) 語尾が n で終る形容詞

ulân [おらーン] 赤い	čagan [チャガン] 白い
nogôn [ノゴーン] 緑の	mingen [ミンゲン] 薄い
ütgen [ウトゲン] 濃い	narin [ナリン] 細い
χüngen [フンゲン] 軽い	šingen [シンゲン] 稀薄な
sain [サイン] よい	saiχan [サイハン] 美しい
güigen [グイゲン] 淫い	türgen [トルゲン] 速い
χurdun [ホルドン] 速い	χöčin [ホーチン] 古い
jügelen [デュゲレン] 柔かな	
χütün [フィトン] 冷い	χalûn [ハローン] 暖かい
dulân [ドラーン] 暖かい	seryün [セリューン] 凉しい
erχim [エルヒム] 尊い	büdün [ブドーン] 粗末な
arigun [アリゴン] 清淨な	sečen [セチエン] 聰明な

(4) 語尾が k で終る形容詞

tenek menek [テネック・メネック] ボンヤリした	
čuχak [チョハック] 稀な	singek [シンゲック] 腥臭い
tongalak [トンガラック] 清い	
saxulak [サホラック] 蘭蕙たる	
čixirak [チヒラック] 丈夫な	

(5) 語尾が其他の子音で終る形容詞

ičingir [イチンギル] 痩せた	
bulangir [ボランギル] 潶つた	
čiger [チゲル]、čiber [チベル] 純潔な	
χyalbar [ヒヤルバル] 容易な	
bujar [ボヂャル] 汚い	ündür [ウンドゥル] 高い
uxur [オホル] 短い	muχur [モホル] 愚鈍な
čoχol [チヨホル] 狹い	ödam [オーダム] 寛廣な
ojit [オヂット] 淫な	

§ 8. 名詞が形容詞となる場合

重複せる名詞に於て前にあるものは形容詞的となる。

■ modon ger 木造家屋 [modon 木]

morin terge 馬車 [morin 馬、terge 車]

mongol bičik 蒙古本 [bičik 本]

§ 9. 他の品詞より形容詞の作成

他の品詞に接尾語を付することにより次の如き形容詞を作成し得る。

[1] 名詞に次の接尾語を附して

(1) -tu (-tü), -tai (-tei) 「……を有する所の」の意を表す。

■ erdemtü 學德有る [erdem 學德]、 yaratu 有罪なる [yara 罪]。

(2) -ügei 「……無い」

■ uxân ügei 無學の。 medel ügei 未知の。 sonosuši

ügei 開く事の出来ない所の。(動詞の語幹に -l, -si を附して名詞とし、それに ügei が連絡すれば強き否定或は不可能を意味する)

(3) -singi, -sik 或は metü を附し「……の如き」の意となる。

■ tumürsik 鐵の如き [tümür 鐵]、 mal metü 家畜の如き [mal 家畜]、 morisingi 馬の如き [mori 馬]
以上の中 metü のみ別に離して發音する。

(4) -rəxak (-rəxek) 附して誇示する意味を有する形容詞となる。

■ xüčürxek 強力な [xüčü 力]、 ejerxek 専横な [ejen 主人]

(5) -lak (-lek), -lik を附して分量の多きを示す。(形容詞にも附す)

■ maχalak 肥えた [maχa 肉]、 beyilik 身體の大きな [beyi 身體]、 büdülük 粗大な [büdün 粗末な]

[2] 動詞の語幹に次の接尾語を附して

(1) -mar (-mer), -mal (-mel) 「……する價値のある、……出来る所の」意となる。

■ idemer 食べられる所の、食べる價値ある所の [ide- 食べる]

(2) -magai (-megei)

■ dabamagai 越えた [daba- 越える]

(3) -mχai (-mχei) 「上手な」の意となる。

■ bičimχei 能書な [biči- 書く]

(4) -mtagai (-mtegei)

■ ayumtagai 癫病な [ayu- 恐れる]

(5) -msik

■ ayumsik 恐るべき [ayu- 恐れる]

(6) -û (-ū)

■ yadû 貧しい [yada- 貧乏する]

[3] 副詞に次の接尾語を附して

-χi を附しその一部なることを示す。

■ dêrexî 上の [dêre 上に]、 dôraxyi 下の [dôra 下に]
gadanaxyi 外の [gadana 外に]

§ 10. 最上級、比較級

蒙古語の形容詞には歐羅巴語に於けるが如き最上級、比較級の形が無い。「最もよい」「最も悪い」と云ふ場合には日本語と同じく「最も」の意を表はす maši, ton, teryün, eñ の如き語を形容詞の前に置くだけで、形容詞は何等變化することなくして表はし得る。

「より良い」「より悪い」等の如く比較級の場合は日本語と同じく「より」を表す奪格の形を形容詞の前に置く。

■ Tere xün ton sain. 彼の人は最もよい。Či-bul tere xünēs sain. 君は彼の人よりよい。

以上の外に蒙古語獨特の云ひ表はし方がある。それは形容詞の前にその形容詞の第一音綴に p 加へたる語を置けば「最も」とか「非常に」とかの意となる。

■ up ulân 真紅。χap χara 真黑。ap adali 全く同じ。

§11. 形容詞の縮小

形容詞の語尾に次の接尾語を附れば -χan (-χen), -sik 「稍々、略々」の意となる。

■ yixe 大きい>yixexen やや大きい。urtu 長い>urtu-χan 少し長い。adali 同じ>adaliχan 似た。sain よい<sainsik ややよい。

§12. 色の名稱

色の名稱に -btur (-btür), -bir, -bur (-bür) を附すれば原色に似た色彩の名稱となる。(印は例外)

ulân 赤い、ulabtur 淡紅色

ulabir 真赤、ulabur 茶褐色

šara 黄色、šarabtur 淡黄色、šarabir 純黄色

χüxü 青、χüxübtür 青色がかつた

*χüxündü 空色。

čagan 白、čagabtur 淡白色、čaibur 灰白色

χara 黑、χarabtur 淡黑色、χarabir 真黑

nogün 緑、nogobtur 淡綠色、nogobur 暗綠色

*čegen 青白い、*baragan 濃黒色

*χüren 紫色

練習問題

【單語】

dēl [デーる] 着物

ünetei [ウネティ] 高價な

χyamda [ヒヤムダ] 廉價な čagan [チヤン] 白い

baišin [ペイシン] 建物 yürüdēn [ユルデーン] 平常

dolōn [ドローン] 七 čak [チヤック] 時

sünin budâ [スニン ボダ] 夜食

übül [ウブル] 冬

χüitün [フィトゥン] 寒い、寒い

χükjimtei [フクヂムティ] 繁華な

godomji [ゴドムヂ] 通り tusχai [トスハイ] 専門の

suruya [ソロヤー] 學びませう。

čolô [チロー] 石 müsü [ムス] 氷

χüldübe [フるドゥベ] 張つた(氷が)

χüčü [フチュ] 力 mal [マル] 家畜

idegeltei [イデゲルティ] 信頼すべき

1. Ene dēl sain bolbači ünetei.
2. Ünēs baxân χyamdasik baiχu ügei-yû?
3. Tere čagan ger yamar χün-nei baišin be?
4. Bi yürüdēn dolōn čak-tu sünin budâ idedek.
5. Übül bolöt χüitün bolba.
6. Ginza bül maşı χükjimtei godomji baina.
7. Ene χeregi-tusχai bičigēs üjiji suruya.
8. Čolô metü χatû müsü χüldübe.
9. Üxür-bül morinâs ilû χüčütei mal baina.
10. Tere-čin mini idegeltei nüxür mün.

【解 答】

1. この着物はよいけれども價が高い。
2. これより少し安いのではないか。
3. あの白い家は如何なる人の建物ですか。
4. 私は平常七時に夜食を食べる。
5. 冬になつて寒くなつた。
6. 銀座は非常に繁華な通りです。
7. この事を専門書に就て學びませう。
8. 石の如く堅く冰が張つた。
9. 牛は馬よりもつと力の強い家畜です。
10. 彼は私の信頼すべき友人です。

【註 釋】

1. ünetei の üne (價)+tei (を有する) で「高價な」と云ふ形容詞となる。
2. ünēs は ene (この)の奪格の形。 yū は疑問の助詞「...か」。
3. ger は家の總稱。 baišin は支那式或は西洋式の建築物を云ふ。蒙古人は移動式家屋で普通のは所謂支那語の蒙古包 (包は滿洲語 bō で家の意) と云はれる。
4. süni [夜]、üdeši [夕]。晩飯は oroi-in budā とも云ふ。 oroi は「晩い」の意で、總じて「晩」の意ともなる。

budā は xôl(a) と云つても宜しい。

idedek の -dek は「常……する」の意。

7. bičigēs は直譯すれば「本より」の意。 suruya の -ya は「……しませう」、suru- は「學ぶ」の意。

10. idegeltei=idegel (信用)+tei.

第二日

文 法

副 詞

副詞は動詞、形容詞を補助して事物の動作、性質、状態を意味を修飾限定するものである。しかし副詞自身も亦一種の状態を現はす品詞であるから、副詞は他の副詞をも修飾限定する。所が形容詞は名詞、數詞、代名詞等を修飾するのであるから副詞とは異なる。

副詞は他の品詞がその文中の位置で副詞の役目をすることが多く、殊に名詞又は形容詞がそのまま副詞として用ひられる場合が多い。例へば *sain* はその用法に依つては形容詞(よい)となり副詞(よく)ともなる。

Nigen sain nüxur baina.
一人の よい 友人 である

の *sain* は形容詞であるが、

Mongol üsüg-i sain biçine.
蒙古 文字 を よく 書く

の *sain* はこの場合副詞である。

§ 13. 副詞の種類

(1) 意味による副詞の種類、(2) 成立による副詞の種類との二種に分類する。

[1] 意味による副詞の種類

(1) 場所を表す副詞

ende	此處に	tende	其處に
dotorä	内に	gadana	外に
ümüne	前に、南に	xoïna	後に、北に
orona	東に	ürüne	西に
dere	上に	döra	下に

(2) 方向を示す副詞

方向を示すものは語尾に -si を附す	
dësi	上へ
ümünesi	前へ、南へ
jünsi	東へ、左へ
barünsi	西へ、右へ

(3) 時を表す副詞

odô	今	yürüdên	常に、普通
ürgülji	常に	erte	早く、朝
oroi	晩く、晩	üdesi	夕方
örlö	朝	ene üdür	今日
üçüdür	昨日	margaši	明日
orjidur	一昨日	nögëdür	明後日
xojim	後に	nigente	曾て
orit	以前	udân	永らく、ゆつくり
darui	直ぐに	dayin	再び
üdürbüri	毎日	bain	時折
ecüstêñ	遂に		

(4) 状態、分量を表す副詞

baruk	殆ど	magat	確かに
-------	----	-------	-----

χamtu	一緒に
nelyen	本當に
bâχan	僅か
ûr	自ら
ja	然り
biši	然らず

[2] 成立による副詞の種類

(1) 本来副詞であるもの

■ baruk	大概
	gakča 唯 darui 直ぐに

(2) 他の品詞より轉じて副詞となつたもの

a) 名詞よりの轉來　名詞がそのままで副詞になることがあるが、與格造格の形で副詞となることも多い。

■ jam-dân	途中 [jam 道、 -dân は特別格の與格]。
	yixe dôgâr 大聲で [yixe 大、 dô 聲、 造格 -gâr]。

b) 形容詞よりの轉來　形容詞は大部分そのまま副詞に用ひられる。

■ sain	(よく)、 mô (悪く)、 tûrgen (速かに)、 âjim (ゆっくり)
--------	--

c) 副詞より作成する副詞

副詞に -si 「方向を示す」。 -da, -a (-e) 「意味を強める」。 -gur (-gür) 「……の邊一帯に」 等の接尾語を附し新しい副詞を作る。

■ χâsi	何方へ [χâ 何處]。 yixede 大いに [yixe 大い
--------	----------------------------------

に、意味を強めて]。 χyalbar-a 容易に [χyalbar 容易、意味を強めて]。 dêgür 上方面に [dêre 上に] 次の如く擬聲詞は副詞と稱することが出来る。

mye mye	メーメー「羊の鳴聲」
mün men	モーモー「牛の鳴聲」
ui ui	オイオイ「哭聲」
sar sar	サラサラ「風の吹く音」
sûr šar	ボツボツ「雨の音」

d) 動詞より轉來した副詞

動詞の語幹に諸種の接尾語を附して動詞が副詞的に使用される場合が多い。このことに關しては後章に動詞の語尾變化のとき説明する。

■ χürtele	迄(到る迄) [χür- 到る]。 idesêr 食べながら [ide- 食べる]。 χarin かへつて [χari- 歸へる]。
-----------	--

練習問題

【單語】

χabur	[ハボル] 春	jun	[ヂュン] 夏
boltala	[ボルタラ] なる迄	oktu	[オクト] 全然
burûn	[ボローン] 雨		
orosan ügei	[オロサン ウゲイ] 降らなかつた		
erχim	[エルヒム] 尊い	süt	[シュート] 直ちに
Xitat	[ヒタット] 中国	jüger	[デュゲル] 徒らに
düsgebe	[ドゥースゲベ] 卒へた		

Esximüs [エスキムス] エスキモー人

čanaxu [チャナホ] 煮る *jaňsil* [チャンシリ] 習慣

delxei daxin [デルヘイ ダヒン] 世界

šingeňü [シンゲボ] 沈む *üdür* [ウドル] 薫聞

oron [オロン] 地方

ordon dêre [オルドン デーレ] お宅

bügüdér [ブグデール] 皆、總べて

1. Ene jil xaburâs jun boltala burûn oktu orosan

ügei.

2. Ene xedün sara erxim dû-gi yerü üjisen ugei.

3. Bi Xitat ulus-tu udân sôba.

4. Odô sût ger-tên xariya.

5. Üçüdür ger-tên jüger sôji baisan.

6. Bi nidunun jil surguli dûsgebe.

7. Ene gajar-in üjimji nelyen saixan.

8. Esximüs-bül maya čanaxu ügei ideňü jaňsiltai.

9. Delxei daxin-du gurban sara naran šingeňü ügei
ürgülji üdür baidak gajar oron baina.

10. Tanai ordon dêre bügüdér sain bainû?

【解 答】

1. 今年は春から夏まで雨が全く降らなかつた。

2. この數ヶ月御令弟に一向お目にかかりません。

3. 私は支那に永らく居つた。

4. 今すぐに家に歸りませう。

5. 昨日徒らに(何もしないで)家に居つた。

6. 私は昨年學校を卒業した。

7. この土地の景色は甚だ美しい。

8. エスキモー人は肉を煮ないで食べる習慣がある。

9. 世界に三ヶ月は太陽の沈まないで常に晝の地方がある。

10. 貴方のお宅では皆様御機嫌如何ですか。

【註 釋】

1. *boltala* は *bolxu* [成る] の變化、-*tala* は「……迄」の意。*orosan ügei* の *orosan* は *orxu* [入る、降る] の過去。

2. *erxim* *dû* 「御令弟」は敬語。*üjisen* は *üjixü* [見る] の過去。

4. *Odô sût* の *odô* は「サア」と云ふ意味にもなる。*sût* は元來「眞直ぐ」の意。

5. *baisan* は *baixu* [ある] の過去。

8. *čanaxu ügei* がこの場合副詞となる。

9. *üdür* は「日」とも「晝」ともなる。*baidak* の *bai-* [ある]。-*dak* 「常に……する」の意。

10. *ordon* は元來「宮殿、府」等の意で *ordon dêre* は中國語の府上 [お宅] の直譯である。

bügüdér は *bügüde* [全部] の造格、副詞として用ひられる。

sain bainū? は日常の挨拶に常に用ひられる。sain bainūだけでは「よくあるか」であるが普通日本の「今日は」に當り、その答へは sain baina [よくある] で矢張り「今日は」に相當する。

第三日

文 法

數 詞

§ 14. 基本數詞

nige	1	düči	40*
χoyar(χoyir)	2	tabi	50
gurba	3	jara	60
dürbe	4	dala	70
tabu	5	naya	80
jurga	6	yere	90
dolō	7	jū	100
naima	8	minga	1,000 (千)
yisü	9	tümen	10,000 (萬)
arba	10	bum	100,000 (十萬)
χori	20	saya	1,000,000 (百萬)
guči	30		

蒙古語の基本數詞は普通日本語のやうに、萬迄で、それ以上は西藏語より借用したもので、特殊な數字があるが之も借用したものである。

۲ ۳ ۴ ۵ ۶ ۷ ۸ ۹ ۰

۱ ۲ ۳ ۴ ۵ ۶ ۷ ۸ ۹ ۰

この數字はアラビア數字のやうに横に並べて用ひる。

萬以上の數は十萬なら arban tümen, 百萬ならば jün tümen とも云ふ。これ以上の數字は實際には殆ど使用されることは無いが次の如きものがある。

jiwa 千萬 donsûr 億

köldi 兆

【用法】

1. 基本數詞で母音に終はる數詞は名詞又は他の數詞に接続するときは -n の語尾を附す。例へば五つは單獨にては tabu であるが、χün (人) と接續するときは tabun χün といふ。但し tümen (萬)は單獨にても -n の語尾を有し之を除くことをしない。

2. 數の結合は日本語と同一の用法に従つてそのままの順序で云ふ。

例へば 12 arban χoyer

25 χorin tabu

33 gučin gurba

1258 nigen mingan χoyer jün tabin naima

3. 102 とか 1,028 の 0 は bolöt と云ふ。102 は nigen jün bolöt χoyer, 1,028 は nigen mingan bolöt χorin naima と云ふ。

§ 15. 順序數

基本數詞に -dugar (-düger) を付して作成する。但し若干

の例外がある。次の如し

第一は nigelüger の外に teryün, anχadugar ともいふ。

第二は χoyadugar

第三は gurbadugar の外に gudugar ともいふ。

第四は dürbedüger の外に düdüger ともいふ。

圖 15 番 arban tabudugar, 第 28 χorin naimadugar

ブリヤート方言では -dugar (-düger) の代りに -daxi (-dexi) を附す。

圖 第一 nigeldexi

第二 χoyardaxi

第三 gurbadaxi

§ 16. 分數

分數は基本數詞の間に χobin-nai (分の) を入れて作る。例へば「三分の一」は gurban χobin-nai nige, 「五分の一」は tabun χobin-nai nige と云ふ。但し半分は χagas 或は χagas χobi とも云ふ。

又單に基本數詞語尾に名詞の所有格「……の」助詞を附して分數の代りにする。例へば「三分の一」は gurban-nai nige, 「五分の二」は tabun-nai χoyer とする。どちらでも通用するが、普通は前例の方がよい。

§ 17. 回數

回數を表はすには基本數詞に -ta (-te) を附す。その場合基本數詞が他の語詞と連絡する時に -n を語尾に附すと同じやうに語尾に -n を附し、更に -ta (-te) の接尾語を附す。

図 一回 nigente

二回 χ oyarta

三回 gurbanta

十二回 arban χ oyarta

尙 udâ (回) を基本數詞の後に置いて回数を表すことも出来る。

図 四回 dürben udâ

五回 tabun udâ

§ 18. 倍 数

倍數を表はすには基本數詞の後に χ obi (倍) を附す。 χ obi は元來「部分」に相當する字であるから、分數の「分」にもなり、倍數の「倍」にもなつたのである。

図 三倍 gurban χ obi

七倍 dolôn χ obi

八倍 naiman χ obi

§ 19. 合 同 数

合同數を表はすには基本數詞に次の接尾語を附す。

-ûla (-ûle) 「一緒に」

基本數詞と連絡の際、基本數詞の語末の音綴の母音以下を除き上記の接尾語を附す。

図 二個一緒に χ oyûla [基本數詞は χ oyer で最後の音綴の母音以下の -ar を取り -ûla を附したのである]

十個共一緒に arbûla [基本數詞 arba]

五個皆 tabûla [基本數詞 tabu]

九個共一緒に yisûle [基本數詞 yisü]

§ 20. 概 数

概數を表はすには基本數詞の語尾に接尾語を附して作る以外に、其他の語詞を連絡して作成することが出来る。

(1) 語尾に接尾語を附する場合

次の接尾語を基本數詞の語尾に附して作る。 -at (-et) 或は t 「位、づつ」

図 五つ位 tabut

十位 arbat

十三位 arban gurbat

但し「一つづ、一つ位」は nijyet, 「二つ位、二つづつ」は χ ošyat と云ふ。

(2) 其他の語詞に連絡する場合

次の如き語詞を用ひ、基本數詞連絡して概數を表はす。

šiχam 近く

garun 餘り

ilû ずつと餘り

hedü(n) 若干

χ iritei 許り

其の他日本語で「四、五(人)」とか「七、八(人)」と云ふやうに基本數詞を並べて作る。

図 χ orin šiχam 二十近く

arban garun 十餘り

gučin ilû 三十餘り

düčin χedün 四十數箇

tabin χiritei 五十許り

tabu jurgan χün 五、六人

練習問題

【單語】

sara [サラ]	月	tûrik [トーリック]	圓
jelji [ヂューリヂ]	貸して	baktana [バクタナ]	容れる
Šowa Xân-nai.....on [シーワ・ハーンナイ……オン]			
昭和……年			
mordaba [モルダバー]			出發した
čagan sara [チャガン サラ]			正月
müne [ムネ]			今(すぐに) čoxiba [チョヒバー]
öngöröt [ヲンゴロート]			打つた
müče [ムチエ]			刻(十五分)
šine-in [シネ イン]			初旬の
basa [バサ]			まだ、また
irêdüi [イレードゥイ]			未だ來なかつた

1. Nigen jil bolbala arban χoyar sara baina.
2. Nada gučyat tûrik jelji ük.
3. Ene ger tabyat χün baktana.
4. Margasi šine-in dürben üdür-e.
5. Ireχü jil Šowa Xân-nai χedüduger on baina?
6. Ene erte gučin šiχam čirik Manju-du mordaba.
7. Jil-in aňxadugar sara bolbala čagan sara müne.

8. Müne därben čoχiba. Bi odô yabuya.

9. Terenêš düdüger χün xen bei?

10. Tere χoyar müče öngöröt basa irêdüi

【解 答】

1. 一年は十二ヶ月あります。
2. 私に三十圓許り貸して下さい。
3. この家に五十人位はいれる。
4. 明日は(初旬の)四日です。
5. 來年は昭和何年ですか。
6. 今朝三十人近くの軍人が満洲に出發した。
7. 年の第一番目の月は正月です。
8. 今もう四時を打つた。私はもう行きませう。
9. 彼から四番目の人は誰ですか。
10. 彼は三十分過ぎてもまだ來ない。

【註 釋】

2. gučyat は [guči+at] で「三十箇ばかり」の意。tûrik は単位貨幣で大體外蒙古ではルーブルと同價である。jelji [貸して] は jelχü の連用形。
3. tabyat は [tabi+at]。baktana は baktaxu「含む、容れる」の現在。
4. šine-in の šine [新しい] で、蒙古では月の十日迄の間は日を呼ぶ時 šine-in を附す。šine-in は sin-in とも發

聲する。üdür-e の -e は baina の代用で軽く「……です」位に當る。

5. Sôwa「昭和」Xân「皇帝」-nai.....on は「年」、年を表現する jil は普通の「年」、nasu「歳」で年齢に、on は「年號」等に用ひる。

6. Ene erte の erte は「早く」の意で、「朝」を示すに屢次用ひられる。

7. čagan〔白〕sara〔月〕の意。

10. irêdüi は元來 irê-〔來た〕+edüi と連結したもので、「未だ……しない」の意。irê- は動詞 irexü〔来る〕の形動詞の過去形。

第四日

文 法

動 詞

蒙古語の語詞の形としても著しいものは、語尾變化（日本語では所謂活用と呼ばれてゐる）の現象である。而してその變化する部分は語尾といひ、變化しない部分を語幹と云ふ。語幹中更に根本的のものがある時には、これを特に語根と名付ける。この根本的のものがない時には、語幹即ち語根である。例へば日本語の「とどまる」と「とどむ」の二語に於いてその語尾變化は次の如くである。

語 幹 語 尾

todom-ar	{ -a とどまら -i とどまり -u とどまる -e とどまれ
----------	--

語 幹 語 尾

todom (語根)	{ -e とどめ -u とどむ -uru とどむる -eyo とどめよ
------------	--

以上の二語の語根は *todom-* で同じである。蒙古語に於ても日本語と同様な語尾變化がある。

■ [とどまる]

<i>juksu-na</i>	とどまる
„ -ji	とどまつて
„ -χu (ügei)	とどまらない
„ —	とどまれ

[とどむ]

<i>juksu-ga-na</i>	とどめる
„ -ga-ji	とどめて
„ -ga-χu (ügei)	とどめない
„ -ga	とどめよ

以上の二語「とどまる」「とどむ」の語根は *juksu-* であつて、前者は語根と語幹が同一であるが、後者の語幹は *juksu-ga-* 語根は *juksu-* である。*-na*, *-ji*, *-χu* *ügei*, 一等は語尾である。乃ち接尾語の動詞の諸種の形は語根に諸種の接尾語を附して表はす。その接尾語の付け方が極めて日本語に似てゐる。又以上の例で「とどまる」「とどむ」の語根は *todom-* で二音綴である。日本語の動詞 *ok-u*〔起く〕、*uk-u*〔浮く〕、*ok-os-u*〔起こす〕、*uk-ab-u*〔浮ぶ〕の如く語根は *ok-*, *uk-* で僅かに一音綴であつて極めて單純である。蒙古語の動詞の語根も本來のものは矢張り單純であるから、比較的容易に記憶出来る。會話は動詞が相當澤山記憶して居らねば役に立たぬ。本書の終り

に語彙表を附してあるからそれに依つて動詞を十分に憶えて置いて下さい。

注意 動詞の語幹に接尾語を附する場合に、語幹が子音で終り、接尾語が子音で始まるときは子音が二個重なると蒙古語では母音を入れて發音することがある。その場合の母音は *-u-* (*-ü-*) を用ひる。

■ *gar-u-na* 出る [*gar-* が語幹、*-na* が現在の語尾]

sonos-u-ba 聞いた [*sonos-* が語幹 *-ba* が過去の語尾]

§ 21. 不定法 不定法とは英語で *to go*, *to see* の如く *to* の付いた形で、辭書にある動詞の形である。英語では直説法現在の形で示されるが、蒙古語では語幹に *-χu* (*-χü*) を附して作る。而して諸種の語尾變化は *-χu* (*-χü*) を取つて接尾語を附して作る。

■ *to go=yabuχu* [行く]

to see=üjiχü [見る]

語 尾 變 化

動詞の語尾に諸種の接尾語を附して次の諸種の動詞を作ることが出来る。

- (1) 動詞の時 (過去、現在、未來)
- (2) 形動詞 (連體法)
- (3) 副動詞 (連用法)
- (4) 推量法
- (5) 希望法
- (6) 命令法

§22. 動詞の時

蒙古語の時の觀念は日本語の如くで左程嚴重ではない。殊に現在と未來とは殆ど區別が出來ない場合が多く、完了體、不完了體との差も實際には可成曖昧である。過去、現在、未來を基本形、完了形、進行形の各形に分けて説明してあるが、餘り難かしく厳格に考へてはならぬ。

[1] 基本形

(1) 現在 -na (-ne)

-n, -m

-nam (-nem)

上語の語尾の中 -na (-ne) が最も一般的で、全部各人稱に共通である。

(2) 過去 -ba (-be) 或は -bai (-bei)

-san (-sen)

(3) 未來 -χu (-χü)

■ čidana [出来る]、 üjine [見る]、 očinam [行く]、 abuba [取つた、 求めた]、 irebe [來た]、 či magat üjixü [君はキツと見るだらう]、 daχin ireχü [再び来るだらう]。

[2] 完了形

(1) 現在完了 -la (-le) 或は -lai (-lei) [……した許り]

-ji (母音と 1 音の後に) -či (1 音を除いた子音の後に)
〔恰度……した所だ〕

(2) 過去完了 -san (或は -sen) bilē (或は aji) [……し

てしまつてゐた]。

未來完了 -χu (或は χü) bilē [……してしまつただらう]

■ bi garār barilai [私は手で持つた (持つた許りだ)]

χolo gajarâs ireji [遠い所から來たのだ (丁度來た所だ)]

bi üksen bilē [私が與へたのだ (與へてしまつてゐた)]

bi ükχü bilē [私が與へてしまつただらう]

[3] 進行形

動詞の語幹に -sâr (-sér) [……しつつ、 ……しながら] を附するか、 -ji baina 或は -či baina [……してゐる] (接合の副動詞参照) を附して作る。 -ji baina 或は -či baina は -jaina (-jeine) 或は -čaina (-čeine) と發音されることがある。

■ Tere yabusâr ideji. [彼は歩き乍ら食べてゐた]

Bi üjijeine. [私が見てゐる]

Medeji baina. [知つてゐる]

■ 時を示す語尾にアクセントがあることが多い。

助動詞

動詞の諸變化に次の自動詞が助動詞として用ひられる。

baiχu (ある)

bolχu (ある、 なる)

aχu (ある)

büχü (ある)

完了體に使用された助動詞 bilē は büχü の現在完了形であ

る。又 *aχu* の過去は *aji* となる。*büχü* の現在形は *bei* (ある) となる。

練習問題

【單語】

- nigente [=ゲンテ] 既に aldaba [アるダバ] 失つた
 daχin [ダヒン] 再び
 oluxui-a [おろホイヤ] 得るのに
 berχe [ベルヘ] 困難な
 χürüsen [フルーセン] 及んだ、到つた
 übügen [ウブグン] 老人 geji [ゲヂ] と云つて
 uχântai 「おヘーンタイ」 愚巧な
 güičiji [グイチヂ] 追つて
 dâsâr [ダーサール] 従ひ乍ら
 dabâ [ダバー] 峠 dababa [タババ] 越えた
 olonχi [オランヒ] 多くは tejyeji [テヂーチ] 養つて
 amiduraji [アミドラヂ] 生活して
 bailduχut [バイるドホット] 戰ふ際
 χarabal [ハラバル] 見るならば
 alalduji [アラルドヂ] 戰つて
 χülêji [フレーチ] 待つて χagas [ハガス] 半分
 jelye [ヂエーリイエ] 借りませう
1. Čag-i nigente aldaba. Daχin oluxui-ya berχe boluji,

2. Tere ail-du nigen nayan tabu χürüsen übügen aji.
3. Ja geji χelêt tûn-i abât yabuji.
4. Tere χün ton uχântai baina.
5. Bi teren-i güičiji dâsar basa dabâ dababa.
6. Odô bügüde-in χân bolusu.
7. Olonχi mal tejyeji amiduraji baina.
8. Bailduχut χarabal, či yiχele sain alalduji bilâ.
9. Bida čimâs χele χülêji χagas jil boluji.
10. Bida terenêş nigen yûm-i jelye.

【解 答】

1. 時機を既に失した。再び得るには困難となつた。
2. あの村に一人の八十五になる老人が居つた。
3. ハイと云つてそれを持つて(さうして)行つた。
4. 彼の人は一番愚巧である。
5. 私は彼を追及しながら又峠を越えた。
6. 今や全體の皇帝になりませう。
7. 多くは家畜を飼つて生活してゐる。
8. 戰ふ時見ると、君は非常によく働いてゐた。
9. 私達は君からの言葉を待つて半年になつた。
10. 私達は彼から一つ借物しよう。

【註釋】

1. *nigente* は「既に」の外に「一回」の意味がある。
oluxui-a は語根 *olu-* (得る)で *-χui-a* (未來の形動詞に -a

がついて副詞となつた] が付いたのである。

2. χ ürüsen の語根は χ ürü-。
3. geji は $gex\ddot{u}$ [云ふ] の連用形。
5. dababa は $dabax\ddot{u}$ [越える] の過去。
6. bolusu は $bol\ddot{u}$ [なる] の希望の形。
7. amiduraji baina で進行形となる。
8. bailduxut は bailduxu-du で直譯すれば「戦ふことに於て」となる。bailduxu は形動詞であるが、名詞としては格變化の助詞を附することがある。ここでは與格の形である。
10. jelye は $jel\ddot{x}\ddot{u}$ の希望の形。 nige yüm は「一つの物、ある物」の意。

—————

第五日

文 法

§ 23. 形動詞（連體法）形動詞とは動詞の語尾變化によつて出來た形で、文法上形容詞と同様に用ひられこの形で西洋語の關係代名詞の役目を果す。形動詞には過去、現在、未來の形がある。

- (1) 現 在 -kči (……する所の)
-dak (-dek) 「多回體」(常に……する所の)
- (2) 過去完了 -san (-sen) (……して了つた所の)
- (3) 過 去 -â (-ê) 或は -ga (-ge) (……した所の)
-ga (-ge) は複母音又は長母音の後に附す。この形の後に edüi (或は ügei) を附して「未だ……しなかつた」の意となる。
- (4) 未 来 -χu (χ ü) 或は -χui (- χ üi) (……しやうとする所の)
-χu (- χ ü) は不定法と同形である。

例 yabukči χ ün (行く所の人。yabu- は動詞「行く」の語根、 χ ün は「人」)

yabudak gajar (常に行く所の場所。gajar は「場所、所」)

yabusan χ ün (行つて了つた所の人)

yabâdui (未だ行かなかつた。yabâdui = yabu + â + edüi で、edüi は動詞 yabu+â 「行つた所の」と結合

の際母音調和で男性母音となりāduiとなつたのである。)

註 -kči は屢々その次の xün 「人」を略して -kči だけで「…する所の人」と云ふ意味になることがある。乃ち yabukči 「行く所の人」 üjikči 「見る所の人」(üji- は「見る」)となる。

又過去、現在、未來と分けても實際には蒙古語では相互の關係は曖昧であり、殊に現在と未來とは殆ど區別なく使用する場合が多い。

尙蒙古語では形容詞がそのまま名詞として使用されることが多いが、形動詞も名詞として助詞(テニヲハ)を附して格の變化を示すことがある。その場合形動詞は名詞としての格變化の方則に従ふ。

例 Sonosuxu-du sain, üjixü-dü mö.
聞くことに於て よい 見ることに於て 悪い
(聞くとよいが、見ると悪い)

yabusan-du tere ger-tēn baisan ügei.
行つた(時)に 彼は 家に 居なかつた
(行つた時には彼は家に居なかつた)

以上の sonosuxu (聞く「だらう」所の)、üjixü (見る「だらう」所の)、yabusan (行つて了つた所の)が夫々名詞の與格の形をとつてゐるが、其他の格を表はすことも少くはない。

練習問題

【單語】

ünüdür 今日

erte čak 昔

erdemten 學者

surukči 學生

čak-in baidal 時勢	učakči 判るもの
Naran ulus 日本	xūčet 児童等
orodak 入る(のが習慣だ)	očisan 行つて了つた(所の)
čüm 皆	yixes 大丈夫
bolusat なつたもの等	

- Ünüdür-in erdemten bolbala mün erte čak-in surukči bile.
- Čak-in baidal-i učakči čüčen.
- Naran ulus-in xūčet naiman nasun-dan surguli-du orodak.
- Bi očisan-du tere gerte baisan ügei bile.
- Ere xün bolusat čüm yixes ere boluya.

【解 答】

- 今日の學者は即ち昔時の學生でした。
- 時勢の判るものは少ない。
- 日本の兒童(等)は八歳で入學する(のが常である)。
- 私が行つた時に彼は家にゐなかつたのでした。
- 男子たるものは皆大丈夫たらん。

【註釋】

- ünüdür は ene üdür でもよい。erdem は「學、德」の意、erdemten は erdemtü の複數の形。mün は「即ち、

そこで、すぐに」等に用ひられ、時に單に意味を強めるだけに用ひられたり、 baina 「ある」の代用として用ひられることもある。用途の廣い語で、その用ひ方では仲々便利である。mün üdür 「當日、今日」の意となり、 mün tere 「あの者だ(他の者ではない)」等にも用ひられ、 tere mün 「彼がそれだ」、 bir mün 「筆です」となる。

erte čak の erte 「早い」 čak 「時」で「昔」の意となる。ene erte 等と云へば「今朝」の意ともなる。

surukči は sur(u)- 「學ぶ」の語幹に、 -kči を附した形動詞の形でここでは「學生」乃ち名詞として用ひられてゐる。

2. čak-in 「時の」、 baidal 「様子、状態」で動詞 bai- 「ある」の語幹に -dal を附して名詞としたものである。

uχakči は uχa- 「知る、判る」に -kči を附し形動詞となり、名詞的に使用されてゐる。

3. Naran ulus の Naran 「太陽」、 ulus 「國」、 χüχet は χüχen の複數形である。

naiman nasun-dan は特別格の與格の形、乃ち「(その兒童の)八歳の時に」の意となる。

orodak の oro- 「入る」、 -dak 「常に……するの所の】で形容詞の形である。形容詞で終り動詞を有しない文章は日本語でも蒙古語でも屢次あるのであつて之もその一例である。

4. očisan-du の oči- 「行く」、 -san 「……して了つた所の」で očisan は形動詞であるが -san-du, -sen-dü は「……した時に、……したので」の意となる。

gerte は ger の與格の形。

baisan.....bile は過去完了の形である。

5. bolusat は bolusan 「なつて了つた所の、あつた所の(もの)」の複數形、乃ち名詞として取扱はれ、語尾の n を取去つて t を附したものである。

§ 24. 副動詞(連用法) 副動詞とは動詞の語尾變化で出来た副詞である。副詞は動詞、形容詞の意味を限定する。副動詞も副詞と同様に使用され主として動詞の補語の役目をなす。蒙古語には日本語と同様に西洋語の如き接續詞がなくて、この副動詞の形で充分にその代りをも務めてゐる。

その副動詞の作り方も極めて日本語に似てゐて動詞の語幹に接尾語を形動詞と同様に機械的に連結すればよい。

(1) 接合「……して」

-ji (動詞の語幹が母音と 1 音で終るとき)

-či (動詞の語幹が 1 音以外の子音で終るとき)

この形は動詞の現在完了形と同様であるが、會話の際に副動詞の方はアクセントが語尾乃ちこの接尾語に來ることはなく、現在完了形では接尾語にアクセントが來る。勿論後者は文中に來ることがないから直ぐ分別出来るわけである。

-n も矢張り前者と同様であるが餘り用ひない。n は動詞の子音と連絡するとき -u- (-ü-) を挿入する。この形で屢次不定法と同様に使用することもある。又 -n は -nga (-nge) とも云ふ。

(2) 分離「……して而して」

この形で西洋語の接續詞の役目を果す。前の接合の副動詞が次に来る動詞の動作と直接關係があるが、この副動詞は關係が少くその動作が終つて次の動詞に移ることを示すもので……前者を現在形、後者を過去形の副動詞とするものがある……あつて日本語で譯すとき殆ど接合の副動詞と同様で區別出來ない。

-ât (-êt)

長母音、複母音の後では -gât (-gêt) となる。

(3) 假定「もし……ならば」

-bal (-bel) 又は -χula (-χüle)

(4) 讓歩「假令……しても」

-bači (-beči)

(5) 連續「……しながら」又は「……する中に」、
から後」

-sâr (-sér)

(6) 即後「……したらすぐ」

-mača (-meče) 或は -mča (-mče)

又は -χular (-χüler)

(7) 目的「……すべく」

-χa (-χe) 又は -χai (-χei), -ra (-re)

(8) 合同「……する迄、……する中に」

-tala (-tele)

■ **yabuχu** (行く) の語幹 **yabu-**, **yabuji** **yabutala** 「行
つて行く中に、歩いて行く中に」

yabât üjiji 「行つて(から)見た」 (**yabât**=**yabu-**+**ât**)

yabubal medene 「(もし)行けば分かる」

yabubači medexü ügei 「(假令)行つても分らない」

yabusâr χeleye 「行き乍ら(歩き乍ら)話さう」

yabumača ügei boluji 「行くとすぐなくなつた」 **boluxu**

yabuχa beletgebe 「行かふと用意した」

yabutala 「行く中に、行く迄、行つてから後」

練習問題

【單語】

sôsâr 住み乍ら **šiχaji** 近くなつた

amur 安泰(御機嫌) **erixę** 伺ふべく

uχântai 賢い **χičyeχü ügei** 勉強しない

tusa 利益 **χariχu** 歸る

jam 道 **abčira** 持つて來い

tîmû さうですか **üdeji** 出迎へて

osultai boluji 申譯ございません

1. Bi Manju-du sôsâr arban jil šiχaji.
2. Amur-i erixę ireji.
3. Uχântai bolbači χičyeχü ügei bolbal tusa ügei.
4. Či χariχu jam-dân bičig-i abčira!
5. Tîmû, medesen ügei bolot üdeji čidasan ügei osultai boluji.

【解 答】

1. 私は満洲に住んで(住み乍ら)十年近くなつた。
2. 御機嫌を伺ひに來た。
3. 賢くとも勉強しなければ駄目だ。
4. 君は歸り道に本を持つて來てくれ。
5. 左様ですか、知らなくてお出迎へ致しませんと申譯ございません。

【註釋】

1. sôsâr は sô-「住む」に -sâr (連續の副動詞) の接尾語のついた形。
2. amur は元來「安泰」と云ふ意味である。erixe は eri-「探ねる、伺ふ」に -xe と云ふ目的の副動詞の語尾の付いた形。
3. uxântai は名詞 uxân「知識」に -tai が附いて形容詞となつて「賢い」となつたもので、斯る形容詞よりの假定法は自動詞 bolxu「ある、なる」の變化した形 bolbači<bol-+bači の援助を借りる。次の bolbal も同様で bol-+bal である。
4. xariχu は xari-「歸る」の形動詞の形で、jam-dân は jam の特別格の與格で、ここでは「君」が主語だから「君の道に於て」の意となる。
- abčira は abci<ab-+či「持つて」と ire「來れ」(ireχü の命令形) とが一緒になつた形で、ire の e は母音調和して a となつたものである。

5. tîmû「斯様な」に ü と云ふ疑問詞が附つて tîmû となつたものである。

medesen は mede-「知る」の形動詞「知つて了つた所の」の意。

bolôt は bolu-「ある、なる」と -ôt (分離の副動詞の接尾語)

üdeji は üde-「出迎へる」と -ji (接合の副動詞)。

čidasan は čida-「出来る」と -san (形動詞の語尾)との結合したもの。

osultai は osul「怠慢」に -tai が附いて形容詞「怠慢な」の意で boluji「なつた」と共に「申譯ない」の意として用ひられる。

第六日 文 法

§ 25. 推量法

「多分……であらう」と推量する方法である。それは形動詞の形に *baya* を連絡する。

■ *ire-xü* (来る)

irexü bayá (多分来るだらう)

iresen bayá (多分來たであらう)

尙軽い推量をする形に動詞の時の語尾に *ba* (*be*) (でせう)、
sü (でせう) [*sü biši-yu* (ではないか) より轉化したもの] と云ふ助詞を連絡する方法である。

■ *irene be* (来るでせう)

iresen be (來たでせう)

irene sü (来るでせう)

irene be と云ふ時 *irene* の語尾の *e* が屢次略され *iren be* と云はれることが多い。

又 *yabuna ba* (行くであらう) は *yabun ba* と云ふ風に云はれる。

§ 26. 希望法

「……であればよい、……しよう」と希望する方法は動詞の語幹に次の接尾語を附して作る。

-ya (-ye) (一人稱に使用して強い希望を表す)

-su (-sü) (一人稱)

-âsai (-êsei)

■ *irêsei* (来ればよい)

üjiye (見ませう)

yabusu (行きませう)

§ 27. 命令法

命令は勿論二人稱 *ta* 「汝等、貴方」 *či* 「君」等に向つて用ひられる形で、普通は動詞の語幹だけ(乃ち語尾を取去つた形)で命令形となる。其他希望の意を含んだ命令形「……して下さい」を表はすには次の接尾語を語幹に附して作る。

-da (de)

-ârai (-êrei)

-â či (-ê či)

■ *ire* (来い!)

irede (来て下さい)

üjêrei (*üji*+*êrei*) (見て下さい)

juksü či (*juksu*+*â či*) (「どうぞ」止つて下さい)

禁止 命令形(或は希望の形)の動詞の前に *bû* 或は *bitgei* (又は *bitegei*) を附すれば禁止「……するな」の意となる。

bû sonosu (聞くな)

bitgei üjêrei (見て下さるな)

練習問題

【單語】

χoiši 後方	erülüxü ügei 遠慮なく
ene oroi 今晚	baruk 大概
učir 事柄	medülü 報告せよ
aldaba 失つた	čidaltai 有能の
χerbe 若しも	gebel 云ふならば

1. Nigen moritai χün ireji. Či χoiši üji!
2. Či erülüxü ügei, nāši ire!
3. Bi Xitat bičig-i surusu.
4. TİMÜ mō gajar-tu bitgei yabu!
5. Ene oroi tere baruk čini tende yabuχu baχa.
6. Tere učir-i χurdun medülü!
7. Magatur daχiji irerei geji terendü χile!
8. Čag-i nigente aldaba. Či endēs bitgei garu!
9. Xen či čidaltai χün bolūsai.
10. Xerbe χün-dü bitgei χele gebel, či χün-dü χeleχü ügei dêre.

【解 答】

1. 一人の騎馬の人が來た。君後方を見給へ。
2. 君遠慮なく此方へ來給へ。
3. 私は支那の本を學びたい。

4. そんな悪い所へ行くな。
5. 今晚彼は大概君の處へ行くだらう。
6. その事を早く報告せよ。
7. 明日再び来て欲しいと彼に云へ。
8. 時機を既に失つた。君はここから出るな。
9. 誰も有能の人になりたい。
10. もし人に云ふなど云ふなら君が人に云はない方がよい。

【註釋】

1. moritai は mori (馬) に tai (もつ) が連絡して形容詞となり、「馬を有する、馬に乗つた」の意となる。χoiši は χoi (na) (後、北) の語尾に -ši を附し方向を示したものである。
3. 希望の形 surusu (の學びたい) の語根は sur- (學ぶ) で -su と連絡の際 -u- を子音と子音の間に入れて蒙古人は發音する。
7. magatur (明日) は margaši でもよい。
8. garu (出ろ) の語根は gar- (出る) で子音で終るので發音の都合上語尾に -u を添加したものである。
9. čidal (能力)+tai (もつ)。či は強勢。bolūsai=bolu+âsai
10. dêre は「上に」の意より轉じて「よりよい」の意に用ひられる。

第七日

文 法

動詞の語幹 動詞の語根に接尾語を附し、語根の意味を補助することが出来る。この語根と語尾の間に附する接尾語は語根と合體して語幹を形成する。この部分は日本語では助動詞として動詞より分離して説明されるのが普通であるが、蒙古語では全く動詞の一部であつて日本語の如くその接尾語が動詞以外の他の品詞に連絡するが如きことは全くない。

§ 28. 使役動詞

次の接尾語を動詞の語根に附し使役動詞「……せしめる」を作成することが出来る。

-ul- (-ül-) 語根が短母音で終る場合

-lga- (-lge-) 長母音、二重母音の後

-ga- (-ge-) b, s, t 以外の子音の後

-χa- (-χe-) 子音 b, s, t の後

■ mede-χü (知る) > mede-ül-χü (知らしめる) > 報告する) = medülχü.

sô-χu (住ふ、坐る) > sô-lga-χu (住ましめる、坐らしめる)。

sur-χu (學ぶ) > sur-ga-χu (學ばしめる > 教へる)。

sonos-χu (聞く) > sonos-χa-χu (聞かしめる)。

§ 29. 被動動詞 (受身)

次の接尾語を語根に附し被動の動詞「……せられる」を作ることが出来る。

-kda- (-kde-) 母音の後

-da- (-de-) b, s, r 以外の子音の後

-ta- (-te-) 子音 b, s, r の後

■ üji-χü (見る) > üji-kde-χü (見られる)

ala-χu (殺す) > ala-kda-χu (殺される)

ük-χü (與へる) > ük-de-χü (與へられる)

sonos-χu (聞く) > sonos-ta-χu (聞かれる)

被動動詞が可能を表はし、更に轉じて敬語の意味に使はれる。これは日本語と同様である。例へば

mede-χü (知る) > mede-kde-χü (知られる「>御知りになる」)

üjikdeχü (前出、見られる「>御覽になる」)

§ 30. 語幹をなす其他の接尾語

合同 「共に、一緒に」 -ida- (-ide-)

相互 「互に」 -lča- (-lče) 或は -ča- (-če)

多回 「繰返して、一緒に、續けて」

-jaga- (-jege-) 或は -ja- (-je-) (稀に)

縮小 「少し」 -sχi- 或は -lχila- (-lχile-),

-mjila- (-mjile-)

■ barildaχu (一緒に持つ、角力する。語根 bari-「持つ」)

χelelčeχü (共に云ふ>相談する。語根 χele- [云ふ])

yabujagaχu (一緒に行く。語根 *yabu-*「行く」)

nemesχixü (少し加へる。語根 *neme-*「加へる」)

§ 31. 自動詞と他動詞

自動詞を他動詞とするには自動詞の語根に次の接尾語を附して作る。

-ga- (-ge-)

又他動詞を自動詞にする方法がある。それは次の接尾語を他動詞の語根に附して作る。

-ra- (-re-)

但し語根が *la*, *le* と云ふ接尾語が附いてゐる場合は單にその *l* 音を *r* 音に變へればよい。

■ 自動詞→他動詞

gar-χu (出る) > *gar-ga-χu* (出す)

niget-χü (一つとなる) > *niget-ge-χü* (一つにする、統一する)

他動詞→自動詞

jasa-χu (治める) > *jasa-ra-χu* (治まる)

ebde-χü (壊す) > *ebde-re-χü* (壊れる)

tasu-la-χu (切る) > *tasu-ra-χu* (切れる)

又次の如き自動詞であり又他動詞であるものも可成りある。

■ *baiχu* ある、居る (自)、止める (他)

singeχü 沈む (自)、消化する (他)

練習問題

【單語】

čiχula 重要な

alban 用事(公の)

medülüχei 報告すべく

jaχya 手紙

en-in üdür 平素

nelyen 故郷多く

čilô 暇

guyiya 請合ふ

tanilčyûluya 紹介しよう

1. Čiχula alban-i medülüχei ireji.
2. Ene jaχya nutuk-tân yabûl!
3. En-in üdür demî yabulčaχu ügei.
4. Nelyen χelelčeji sôba. Čilô guyiya.
5. Bi čimaigi terendü tanilčyûluya.

【解答】

1. 重要な用事を報告しに來た。
2. この手紙を故郷にやれ。
3. 平素は餘り往來しない。
4. 可也長話ををしてしまつた。お暇致しませう。
5. 私は君を彼に紹介しやう。

【註釋】

1. *medülüye* は語根 *mede-* (知る) の使役の接尾語 *-ül-* を附し希望の語尾 *-ye* を附したものである。

2. nutuk-tân は特別格の與格で「自分の故郷に」の意。
yabûl は語根 yabu- (行く) に -ul- を附し、使役の形とした
ものであつて語尾を取つたのは命令形であるからである。

3. en は「常の、普通」の意。 demî.....ügei 「そんなに…
…でない」の意。

yabulčaxu は語根 yabu- (行く) に相互の意味を有する接尾
語 -lča- を附したもので語尾 -xu で「互に行き來する」の意。

4. χelelčeji は語根 χele- に相互の意味を含む接尾語 -lče-
が附せられたもので「互ひに話して」の意。

5. tanilčyûluya の語根は tani- (認める, 知る) -lča- は「互
ひに」、-ul- は使役の接尾語で、語尾 -ya は希望の形。「互ひに
知り合はせませう」の意より「紹介しやう」の意となつたもの。

第三週

第一日

文 法

他の品詞より動詞の作成

§ 32. 名詞より動詞の作成

名詞に次の接尾語を附してその名詞に關係のある新らしい動詞の語根を作成することが出来る。

- (1) -la- (-le-) (特に子音 n, ñ, m の後では -na- (-ne-) となる)

出来上つた動詞の行爲は名詞の意義の根源となる。乃ち動詞の行爲の結果が原名詞の意義となる。

dō (歌、聲) > dō-la-χu (歌ふ)

tusa (援助、利益) > tusa-la-χu (助ける)

- (2) -da- (-de-)

名詞は出来上つた動詞の行爲を爲すための手段となる。前段

- (1) の場合と嚴密には區別出来ないことも屢次ある。

dō (歌、聲) > dō-da-χu (呼ぶ)

ünür (香) > *ünür-te-χü (香ふ)

- (3) -t- 或は *-du- (-dü-)

名詞の性質を表示する動詞となる。

üile (行爲、仕事) > üile-t-χü 或は üile-du-χü (做す、作る)

*註釋 (2) と (3) に於て使用される接尾語 -da- (-de-), -du- (-dü-) は 1 音以外の子音の次に來た時は清音に發音する。

(4) -čila- (-čile-)

「同じく、一樣にする」の意となる。

ere (男) > ere-čile-χü (男らしくする)

eme (女) > eme-čile-χü (女の風をする)

§ 33. 形容詞より動詞の作成

形容詞に次の接尾語を附し新らしく動詞を作成することが出来る。

蒙古語の形容詞は名詞とよく似てゐて屢次混合されることがあるが、ここに用ひられる接尾語も形容詞ばかりでなく屢次名詞にも流用されることがある。

(1) 形容詞の性質を表示する

-da- (-de-), -du- (dü-)

[子音の後では清音となつて -ta- (-te-), -tu- (-tü-)]

-t-, -ra- (-re), -ši-, -ča- (-če-), -ji-, -jira- (-jire-)

(2) 形容詞の意義を實行する

-la- (-le-), -bčira- (-bčire-)

(3) 形容詞の意義を以て詰示する

-rχa- (-rχe-)

(4) 形容詞の意義を認定する

-siya- (-siye-)

■ yixe (大きい) > yixe-de-χü (大きくなる)

uχur (短かい) > uχur-ta-χü (短かくなる)

*sain (よい) > sai-jira-χü (よくなる)

χündü (重い) > χündü-le-χü (重んずる)

narin (細い) > nari-bčira-χü (細くする)

*sain (よい) > sai-rχa-χü (飾る)

*sain (よい) > sai-siya-χü (よいとする、褒める)

*〔備考〕 名詞、形容詞より動詞を作成する場合語末の n を除き、それから接尾語を附する。

§ 34. 副詞より動詞の作成

日本語に於ても物の音響、動物の鳴聲「サラサラ」(風の音)、「モーモー」(牛の鳴聲)等を錄音した擬聲詞(副詞の一部)に接尾語を附して動詞とする例は相當多いが、蒙古語に於てもよく使用する。乃ち次の接尾語を擬聲詞に附すれば新らしい動詞が出来る。

-χira- (-χire-)

-čiχina- (-čiχine-)

-gina- (-gine-)

■ bur bur (モクモク「煙の上る有様」) > bur-χira-χü (煙がモクモク上る)

šar šar (サラサラ) > šar-čiχina-χü (サラサラと音がする)

χungir χangir (チリンチリン) > χun-gina-χü (鐘がなる)

以上の外に名詞より動詞を作る場合に用ひられた接尾語を擬聲詞に附して動詞とすることもある。又日本語に於て名詞「讀

書」に自動詞「する」を附して「讀書する」と云ふ新しい動詞を作ることがあるが、蒙古語でも副詞(他の品詞)に次の動詞を附して新らしい動詞を作る。

χi-χü (する、作る)

ge-χü (云ふ)

■ *ui ui* (オイオイ「泣聲」)>*ui-la-χu* (泣く)

jir jir (チヨロチヨロ)>*jir jirχiχü* (チヨロチヨロする)

gai čüi (ガヤガヤ)>*gai čüigeχü* (ガヤガヤと云ふ)

間 投 詞

§ 35. 間 投 詞

間投詞とは文と遊離して感情の表出、呼掛け等に用ひられるもので次の如きものが多く使用される。

呼掛け *üi* (オイ) *χai* (オイ) *χüi* (ホイ)

驚き *χe* (ホー) *ai* (マア)

嘆歎 *ayü* (アー) *â* (アー)

困惑 *i i* (オヤオヤ) *eš-i* (マア)

非難 *yü* (ナニ)

驚歎 *abü, ebü* (アラ、シマツタ)

又次の如き文末に附する「ネー、カネ、ヨ」等に當る間投詞がある。

軽い疑問 *ba, be* (ショー) *imê* (カネ) *sü* (デショー)

肯定的 *šida* (デスヨ)

■ (1) *Üi! Nada-tai χamtu očiχu ügei-yü?*

(オイ！私と一緒に行かないか)

(2) *Xe! Xedüi χalûn üdür-e.*

(ホー！何と暑い日だ)

(3) *Xai! Bitgei abača. Ende tabi.*

(オイ！持つて行くな、此處に置け)

(4) *Ai! Yamar ündür χün be.*

(マア！何と(丈の)高い人でしょう)

(5) *Ayü! Yâχina. Odô χürχü ügei.*

(アー！どう仕様か、もう間に合はぬ)

(6) *Xüi! Či yü üjine?*

(ホイ！君は何を見てるか？)

(7) *I i! Tere χedü olik ügei χün be.*

(マア！彼は何んとつまらぬ人でせう)

(8) *Eš-i! Yamar-či χerek gesen imê.*

(マア！何と云ふ事ですかね)

(9) *Yü! Odô yabunü?*

(何！もう行くのか)

(10) *Abü! Bür martasan!*

(アラ！皆忘れたのね！)

(11) *Čingebel či medexü ügei šü.*

(では君は知らないでせう)

【註　釋】

2. *χedüi* は「幾程、若干」の外に「如何に、何と」の意ともなる。*üdür* (日) -e の -e は *baina* (ある、です) を略して云ふ時に用ひる。

3. *bitgei* は動詞の命令形の前に置いて禁止「……するな」の意となる。*abača* は命令形。

4. *yamar* は「如何なる、どんな」の意の外に副詞として「何と、どんなに」の意となる。

5. *yâχina* の *yâ* は *yû* (何)の古い形、それに *xîne* (する) が一緒になつたものである。

7. 間接詞 *i i* は泣く時等に形容して用ひることもある。*olik ügei* は「取柄がない、仕末に終えぬ」の意。

8. *yamar-či* の *či* は強勢。*imê* は恐らく *yûm-e* (物か) より出た言葉で「ものか、かね」等軽い疑問を含む。

9. *odô* は元來「今」の意で「では、もう」位によく使はれる。

11. *čingebel* は *tîn* (左様) *gobel* (云ふならば) の連絡した形。

第二日

措　辭

§ 36. 否定文

否定文は否定詞を有する。否定詞は *ügei* (ない)、*biši* (非ず) である。尙禁止を表す *bû* 又は *bitgei* (……するな) もある。

biši は名詞、形容詞の後に附す。

bû 又は *bitgei* は命令形(或は希望形)の動詞の前に置かれる。(§ 26 [禁止] の項参照)

[1] 動詞のない文の否定

Tere sain ügei. (彼はよくない)

Alakdasan-bul tere biši.

(教されたのは彼ではない「に非ず」)

Tende ger *ügei. (其處に家がない)

[*前文は *baiχu ügei* の動詞 *baiχu* (ある)を省略したのである]

[2] 動詞の否定

(1) 現在、未來

形動詞の未來の形動詞 -χu (-χü) に *ügei* を附して作る。

■ Tere Enetχek-tü yabuχu ügei.

(彼は印度に行かない)

Tere surguli-du yabudak ügei.

(彼は學校に「いつも」行かない)

Medexü ügei χün baiχu ügei.

(知らない人はない)

(2) 過 去

形動詞の過去の形 -san (-sen) に ügei を附して作る。

■ Tedener yabusan-i medesen ügei.

(彼等が行つたのを知らなかつた)

Üčüdür ger-tēn χarisan ügei.

(昨日家「自分の」に歸らなかつた)

Udān učirsan ügei.

(永く會はなかつた「久し振りです」)

尙過去の形動詞の語尾 -ā (-ē) に edüi (又は ügei) を附して「未だ……しなかつた」の意となる。〔形動詞の過去〕の部参照)

§ 37. 疑 問 文

疑問文に三種ある。一つは疑問詞の存在する場合、他の一つは動詞の語尾に於ける疑問の形、及び疑問の助詞 -yū (-yū) を附する場合とがある。

(1) 疑問詞の存在する場合

蒙古語に於ては疑問詞が文中にあれば特に動詞が疑問の形を取らなくてもよい。又文中疑問詞を一番最初に持つて來なくてもよい。會話する場合疑問詞はハツキリ發音するとよい。

疑問詞には次の種類がある。

χedüi 或は χedü, χedün (幾程)

χā (何處)

χen (誰)

χejē (何時)

ali (どれ)

yū (何)

yamar (どんな)

■ Ci χedüi üdür-tü mordana?

(君は何日に出發するか)

Xā sōji baina? (何處に住んでゐるか)

Yabusan χen bē? (行つたのは誰か)

Xejē iresen? (何時來たか)

Ali yūm abuna? (どの品が要るか)

Ci yū uñsiji baina? (君は何を讀んでゐるか)

Yamar *χerektei? (どんな用事ですか)

(2) 動詞の疑問形

動詞の疑問の形には過去、現在、未來の三種に分れる。

過去 語幹に -sanū (-senū) [或は -san-yū (-sen-yū)] 又は -bū (-bū) を附して作る。

現在 語幹に -nū (-nū) を附して作る。

未來 語幹に -χū (-χū) を附して作る。

*χerektei は χerek (事、必要)+tei (もつ)で「必要がある。用事がある。」の意。

■ Ci jüdürsenū? (君は疲れたか)

[この疑問文を東蒙古では次の如く云ふことがある。 Ci jüdürsen ügei-yū? 直譯すると「君は疲れたか、ないか」となる]

Tere bičižen šobū yū geji dōdana?

(あの小さな鳥は何と云ふか「呼ぶか」)

Margaši tere ireχū? (明日彼は来るでせうか)

(3) 疑問の助詞 -yū (-yū)

疑問の助詞 -yū (-yū) は日本語の「……か」に當り、どの動詞にも附けられる。

■ Bi-yū, či-yū? (私か、君か)

Tere osu tungalak-yū?

(その水はきれいか「清いか」)

Jam sain-yū? (道はよいか)

[sain-yū の如き -n+yū (-yū) は一緒に發音して -nū (-nū) となることが多い]

Xen-nei beri-yū? (誰の嫁か)

Xâ baina? Jāsan dēre-yū, dōra-yū?

(何處にあるか、棚の上か、下か)

尙一種の動詞で疑問の意味を有するものがある。それは yâχixu (どうする) と云ふ語である。これは yâ (yū (何の古形)) + xixu (する) と云ふ動詞が連絡したものであることは前述した。次の如き形でよく實際に會話でよく用ひられる。

yâχixu

yâχiji (或は訛つて yâχaji) (どうして)

yâχina (どうする)

yâχibal (どうすれば)

yâχibači (どうしても)

■ Gēbel yâχina? (失くなせばどうする)

Yâχaji xürčiiresen ügei?

(どうしてやつて來なかつたか)

Yâχibal boluna? (どうすればよいか)

Yâχibači unšiji čidaχu ügei.

(どうしても讀むことが出來ない)

§ 38. 命令文

命令文はその文中の述語である動詞を命令形にすればよい。
(§ 26. [命令法] の項参照) 勿論主語は二人稱の「貴君」「君」等でなければならぬ。

Ja, ende sô! (サア、此處にお坐り)

Budâ jükla! (御飯召上れ)

禁止 命令形の動詞の前に bū 或は bitgei を附して禁止「……するな」を表はす。文中の動詞がこの形を取れば禁止の文となる。

Ci bitgei dotor oro! (君は中へ入るな)

練習問題

【單語】

delgeχü 咳く	mön mön モーモー
tek̄si 正しい	öngörge 過せ
mōresen (牛や鹿が)鳴いた	sulär 無駄に(徒に)
manduχu 隆興する	
χümüjine 暮しよくなる、盛んになる	
araχi 酒	önge 色
šinuji 夢中になる	onada 落ちてくれる
ſiturgū 忠義	güic̄itge 盾くせ

1. Xabur bolbači čičik basa delgeχü ügei.
2. Tek̄si ügei jamâr bitgei yabu!
3. Mön mön geji mōresen-ni üxer-yü?
4. Tusa ügei üge-gi bitgei sonosu!
5. Ene üdür-i bitgei sulär öngörge!
6. Ulus manduχu ügei, yâχaji arat χümüjine?
7. Osu tungalak bolbal jaksu ügei.
8. Nada χürχü ügei-bül čüχen ügei.
9. Araχi önge-dü bû šinuji onada!
10. Ulus-tu ſiturgū güic̄itge!

【解 答】

1. 春になつても花もまだ咲かない。

2. 正しくない道を(道を以て)歩むな。
3. モーモーと(云つて)鳴いたのは牛ですか。
4. 無駄な(無益な)言を聽くな。
5. 今日を無駄に過すな。
6. 國が興らず、どうして民が榮えようか。
7. 水清ければ魚なし。
8. 私に及ばぬものは少くない。
9. 酒色に耽溺するな。
10. 國に忠義を盡くせ。

【註釋】

1. basaχu (又は -χü) ügei は「未だ……しない」。
2. jamâr は「道で、道を通りて」の意。jam (道) の造格の形。
3. mōresen-ni の mōresen は形動詞の過去、語根 mōre-, -ni は主格を表す助詞。
8. χürχü ügei の χürχü は「及ぶ、到る」の意。ここでは nada χürχü ügei 主語なので、-bül (が主格を表す助詞)。

第三日

措辭

§ 39. 文や語詞の接續

文や語句を接續させるのに次の如き語詞を接續詞として用ひる。

bolöt 及び、……と……、さうして

esexüle 或は

gebeči しかし

činget (tigēt) 而して

čingebeči (tümü bolbači) 然し乍ら

čingebebəl 然うならば、では

以上の接續詞は大部分副動詞である。蒙古語では關係代名詞の如きものもなく、それに相當する場合は總べて動詞の語尾變化(副動詞として)に於て表現する(§ 23 [副動詞] の項参照)

- (1) Abu bolöt xū čuk irebe. (父と子が一緒に來た)
- (2) Xün basa yiχe olon, čingebeči čimē oktu ügei.
(人も又非常に多い[然るに]のに音が全くない)
- (3) Xurdun yabubal güyičine. (早く行けば追ひ付く)
- (4) Basa nige udā yabât, teren-dü χeleye.
(も一度行つて、彼に言はふ)
- (5) Bi gertēs garumča teren-tei toxyalduba.
(私は家から出るや否や彼と出會つた)

二語が對應して用ひられる接續の形もある。

- (1) Nige-bül χatū, basa nige-bül jügelen.
(一つは固く、も一つは柔かい)
- (2) Tere-či yabuna, bi-či basa yabuna.
(彼も行く、私も又行く)
- (3) Üjinenči üjine, bi abuχu ügei.
(見るには見るが私は買はない)
- (4) Unšisan-či unšisan, bür martasan.
(讀んだには讀んだが、皆忘れた)
- (5) Xajaya šudu ügei, üjiye nyudu ügei.
(噛もふにも歯がなく、見よふにも目がない)

〔備考〕蒙古語の會話は文は成るべく接續しないで簡単な形(單文で)話される。又語句も單純に並列しただけで接續詞を用ひないことが多い。

- (1) Üχer (bolöt) mori neide χedü baina?
(牛[と]馬合計幾頭ですか)
- (2) Bi teren-dü dura ügei. [Tinü-in tula] Teren-dü ükχü ügei.
(私は彼を好まない。[其故に] 彼に與へない)

§ 40. 不完全文

蒙古語では日本語に於ても會話の際よくあるやうに文の主要構成要素である主語たる代名詞、又は動詞を缺くことがある。

- (1) [Bida] yabuya. ((私達は) 行かふ)
- (2) [Či] dēši sō. ((君は) 上に坐れ)

jarim (或る)

§ 45. 詩歌と諺

蒙古では詩歌や諺は頭韻を合せ、各句は對句としてみてリズムを合はせることが多い。

araχi (酒)

Balai yiχe	öbal	übüčin	bisū ?
Bâxan	öbal	jirgal	bisū ?

無闇と飲めば病でせう。

少し飲めば樂しみでせう。

Blai (盲) yiχe (大い) bišū ? (ではないか)

Bâxan (少し、僅か)

以上の上下兩句の頭韻は ba- である。

第四日

作 文

§ 46. baina 「ある、です」の用法

baina は語根 bai- (ある、ゐる)+-na (現在の語尾)で、次の如く説明、存在又は助動詞として用ひられる。

説明 Tere-bül taχya baina. (それは鶏である)

Üla ündür baina. (山は高くある)

存在 Malagai ende baina. (帽子は此處にある)

助動詞 Xûr tataji baina.* (琴を引いてゐる)

*進行形—ji baina (...してゐる) の形を -jaina (-jeine) と發音されることがある。

ideji baina (食べてゐる)>idejeine

üjiji baina (見てゐる)>üjijeine

uňšiji baina (讀んでゐる)>uňšijaina.

又説明語としての baina の代りに mün 又は müne と云ふ語を用ひることがある。

Bir müne. (筆である)

Tere müne. (彼である)

baina の疑問形は bainū ? (あるか、ゐるか) 否定形は baiχu ügei (ない)である。否定の場合屡々次 baiχu は略されることがある。

Ger-ten bainū? (家にあるか)

Nige-či [baiχu] ügei (一つもない)

述語である形容詞の次の baina は屢々次省略する。

Ene-bül sain [baina] (これはよい〔ある〕)

baina は「ある、ゐる」の外に「止める」と云ふ意味があつて、命令形 bai! (語根) は「居れ、止まれ」の意として使用される。

§ 47. 可能と許容

可能 「し得る、することが出来る」は接合副動詞 -ji に cidana (或は čadana) を附して作る。

(1) Bi moŋgol üsük bičiji cidana.

(私は蒙古文字が書くことが出来る)

(2) Nigen üdürēr x̄iji cidana.

(一日で作ることが出来る)

「出来ない」

(3) Tîmū xurdun gûyiji čidaχu ügei.

(そんなに早く走ることが出来ない)

「出来た」

(4) Üjibel xeleji čidasan. (見れば云ふことが出来た)

「出来なかつた」

(5) Medesen ügei bolôt yabuji čidasan ügei.

(知らなかつたので行くことが出来なかつた)

「出来るか」

(6) Či ūr-in garâr üiletči čidanū?

(君は自分の手で製作出来るか)

「出来たか」

(7) Bür sûrdeji čidasanū?

● (全部掃除するとが出来たか)

許容 「してよろしい。して差支へない」は矢張り接合の副動詞 -ji に boluna (よろしい、よい) を附して作る。

(1) Odô xariji boluna. (もう〔今〕歸つてよろしい)

(2) Teren-dü xeleji bolunū? (彼に話してもよろしいか)
或は唯 boluna だけを使用して

(3) Boluna. Či yabu! (よろしい、君行け)

§ 48. geχü の用法

geχü 「云ふ」は次の如き形でよく用ひる。

geji [と] 云つて (接合副動詞)

gene [と] 云ふ、の由 (現在)

gedek [といつも] 云ふところの、の由 (形動詞現在)

gekči [と] 云ふところの〔人〕(同上)

geji 「と云つて」は日本語で譯すとき唯「……と」云ふ位の意味になる。

(1) Yû geji dôdana? (何と呼ぶか)

(2) Tere yû geji xeleesen? (彼は何と云つたか)

(3) Tere *engeji xeleji. (彼は斯ふ云つた)

* engeji は in (こんな)+geji で「この様に、こんな風に」の意。

- (3) Ene bičik-bül xen-nei [baina]?
(この本は誰の〔ですか〕)

§ 41. 不定法

動詞の形動詞の形で主語又は客語として使用される場合がある。

- (1) Timū xürüngé-gi jaχiruxu-bül tere öχin-dü berχe.
(そんな財産を管理するにはその娘には困難だ)
- (2) Bida tere čaši yabusan-i medesen ügei.
(私達は彼が彼方へ行つたのを知らなかつた)
- (3) Ene jiruk jirusan-ni bi baina.
(この絵を書いたのは私です)

§ 42. 呼語

文中で他の語と關係なく對者に呼びかける語で、普通蒙古語では名詞、代名詞のみで、その場合蒙古語では -a (-ē) を附する外に別に助詞を伴はない。

■ Batujap aχa, χurdun ire! (バトーディツブ君、早く
來い)

Mini nüχür-ē, yū uilana?
(吾が友よ、何を泣くのか)

§ 43. 語順の顛倒

蒙古語では日本語のやうに主語、客語、述語の順序であつて修飾語は被修飾語の前にあるのが普通であるが、語勢や意味を強めるため特に語順を顛倒することがある。

■ Ečige mini, abura! (父〔吾が〕よ、救へ)

- Yabunū, χā? (行くのか、何處へ)
Mün bičik, či unšixu χerektei.
(この本を君は讀まねばならぬ)

§ 44. 不定代名詞

疑問の代名詞に次の語詞を附すれば不定代名詞となる。

- ba (-be)
-čigi, -či (強勢「……も」の意)、-biši (非す)

■ xen (誰)

- | | |
|---------------|----------------|
| xen-či (誰でも) | xen-čigi (誰かの) |
| xen-be (誰でも皆) | xen-biši (誰でも) |

ali (どれ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| aliba (どれでも皆、一切の) | ali-biši (どれでも) |
| ali-či (どれでも) | |

yū (何)

- | | |
|-------------|---------------|
| yū-či (何でも) | yū-čigi (何でも) |
| yamar (どんな) | |

yamar-ba (yambar-ba) (何でも皆、一切の)

χedü, χedün, χedüi (幾何)

χedün-či (少しでも)

χedün-či ügei (少しもない) (=χedüi-či ugei)

其他の不定代名詞次の如し

nige (yūm) (ある物)

undun, ūre (他、別の)

geji を用ひて次の加き文章が作れる。

「と思つてゐる、と考へてゐる」 geji san[-a-]ji baina (geji sanjaina) 或は geji buduji baina (geji budujaina)

- (1) Či yū geji sanji baina? (君は何と思つてゐるか)
- (2) Bi eŋgeji budujaina. (私はこんな風に考へてゐる)
- (3) Bi Xailar-tu očin [-a] geji sanji baina.
(私はハイラルに行かふと思つてゐる)

「したい、しようとしてゐる」 geji baina.

Tanai tende očin [-a] geji baina, gebči čilō ūgei.

(貴君の處[そこ]に行きたいが、[しかし]暇がない)

「と云ふ、の由」 gene を用ひた文

- (1) Ene oroi tere iren(-e) gene.
(今晚彼は来る[と云ふ]由だ)
- (2) Tere yū gene? (それは何[と云ふ]だ)

gedek 「[いつも] 云ふところの」 ところ、 gekci 「云ふところの」

- (1) Tere Batu gedek [baina].
(彼はバトーと[いつも]云ふ[ところのものです])
- (2) Gurbadugar xün xen gekci [baina].
(三番目の人は誰です[誰と云ふ所の人です])

練習問題

1. 男女合計百人です。

2. 君は何を見てゐるか。
3. 日本語が話すことが出来るか。
4. 直ぐに作ることが出来る。
5. 獨りで出来ないか。
6. 彼等は全部そこに居るか。
7. 肉が一寸もない。
8. 彼に歸れと云へ。
9. 蒙古語を教へてゐる。
10. 再び来る時に持つて來い。

【單語】

xamtu 合計。

Nippon, Naran 日本 (Nippon を蒙古人は Nibon と發音するものが多い)。

nigen akšan-âr 直ぐに (akšan は梵語の kšan (瞬間) の意、 -âr は造格、 nigen akšan-âr で元來「一瞬間で」の意)。

Gakčagar 獨りで。

yū-či 一寸も (yū 「何」 či 「も」、 或は nige-či でもよい)。

xariχu 歸る。

jāχu 教へる。

daxiji, daxin 再び。

ireχü-dü (或は ireχü čak-tu) 來る時に (ireχü-dü は ireχüt と發音してもよい)

【解 答】

1. Ere eme *χamtu* (neide) nigen jün baina.
2. Či yū üjiji baina?
3. Naran (Nippon) *χele* *χeleji* čidanū?
4. Nigen akšan-âr *χiji* čidana.
5. Gakčagar *χiji* čidaχu ügei-yū?
6. Tede(-ner) bür tende bainū?
7. Maχa yū-či [baiχu] ügei.
8. Teren-dü *χari* geji *χele*!
9. Mongol *χele* jāji baina.
10. Daχiji ireχü-dü abčira!

第五日

作 文

§ 49. 必要、當然

必要、當然の形は *χerektei* (*χerek* 「事、必要」+*tei*) 「…必要がある、…ねばならぬ」で表現する。(§ 9. [形容詞の作成] の [1] の (1) 参照)

- (1) Teren-i üdeji yabuxu *χerektei*.

(彼を見送りに行かねばならぬ)

- (2) *Xerektei* *χün* bolusu. (必要な人にならう)

當然「ねばならぬ」の形は *χerektei* の外に次の如く假定副動詞を使用して表現することも出来る。

- (1) Či surχu ügei bolbal boluxu ügei.

(君は學ば [ないならばいけない] ネバならぬ)

- (2) Üjibel (或は üjiji) boluxu ügei. (見てはならぬ)

「必要がない」は *χerek ügei* である。

- (1) Erteχen busuxu *χerek ügei*.

(早く起きる必要がない)

- (2) Tere *χerek ügei* *χün* bišū.

(彼は必要ない [無用な] 人でせう)

§ 50. 好み

嗜好「……が好きだ、……を好む」を表はすのに次の二形がある。

動詞として *duralaxu*.

形容詞として *duratai* 「*dura* (好み) + *tai* (もつ)」

前者は客語である名詞は對格(を)要求し、後者は與格(に)を要求する。

Bi teren-i duralana. (私は彼を好む)

Bi teren-dü duratai.

(私は彼を好む[彼に好みをもつ])

同上否定「……を好きぬ」の形は動詞では *duralaxu ügei*.

形容詞では *dura ügei* となる。

Bi üxer-i duralaxu ügei. (私は牛を好きぬ)

Bi üxer-tü dura ügei. (同上[牛に好みがない])

§ 51. 相 似

相似「……らしい、……しさうだ」を表すには次の如き形容詞を用ひる。

mayaktai (*mayikta* 「*mayak* (様子) + *tai* (もつ)」)

yanjutai (*yanju* (様子) + *tai* (もつ) 或は *yanju baina*)

■ *Burün oroxu mayiktai.* (雨が降るらしい)

Yamar yanjutai. (どんな風か、どんな様子か)

或は *metü* (の如き) を用ひて表すことも出来る。

Tere irexü metü baina. (彼は来るやうである)

§ 52. 欲 求

欲求「……してくれ」の形は動詞の命令法 (§ 26) にて説明

した以外に蒙古語では *ükχü* (與へる、呉れる) の命令形 *ük* (くれ) を用ひて作る。

-ji ük (或は -či ük) 「-ji (-či) は接合の副動詞の接尾語」

Nada bičiji ük. (私に書いてくれ)

Daxiji xeleji ük. (も一度話してくれ)

§ 53. 添 加

添加「……ばかりでなく其上に……」の意味を表すには次の如し。

(1) *Gakča Yüm mō *biši dērēsen basa ünetei.*

(品物が悪い許りばかりでなく高價だ)

(2) *Xüsün jüdürsen *biši dērēsen basa xül öbüütüne.*

(唯乏れた許りでなく足が痛む)

*biši (非ず)、dērēsen (その上に)、basa (又)

練 習 問 題

- 君は何が好きですか。
- 私の處で遠慮してはいけない。
- 未だ來ないなら要らない。
- 彼に云つてはいけない。
- 直ぐに話して下さい。
- そんなに廉く賣つてはいけない。
- 町に買物に行かねばならぬ。
- あの店の品物は古い上に高い。

9. 外はもう暗くなつたらしい。
10. きつと手紙を寄越して下さい。

【單語】

erülüji 遠慮して	müne sai 直ぐに
tedüi そんなに	χoldaji 賣つて
jēlin dēre 町(街)	
χoldaji abura 買ひに	püse 店
χūčin 古い	χaranχui 暗い
erχebši きつと	

【解 答】

1. Či yû[-gi] duralana? (Či yûn-dü duratai?)
2. Mini ende erülüji boluxu ügei.
3. [Basa] iredula bolbal χerek ügei (abuxu ügei).
4. Teren-dü χeleji boluxu ügei.
5. Müne sai χeleji ük!
6. Tedüi χyamda χoldaji boluxu ügei.
7. Jēlin dēre yûm-i χoldaji abura očiχu χerektei.
8. Tere püse-nei yûm χûčin bolot basa ünetei.
(.....Gakča χûčin biši dêresen basa ünetei)
9. Gadana χaranχui bolusan yanjutai (maikta).
10. Ereχebši jaχya yabûlji ük!
(yabûlji は yabu+ul (使役)+ji, ilgeji でもよい)

第六日

作 文

§ 54. 副詞の呼應

文中に使はれる副詞の種類に應じて下の語がそれに對應して變形することがある。

(1) 否 定

Oktu ende ügei. (全く此處にない)

Üčüxen či medexü ügei. (少しも知らない)

Nige či amta ügei. (一寸も味がない)

(2) 時

Odô bi ende baina. (今私は此處にある)

Nidunun jil ende baisan. (昨年此處に居つた)

Nügündür tere ende ireχü.

(明後日彼は此處に来るだらう)

Oritai üjisen χün bile. (前に見た人だつた)

(3) 願 望

Čidabal baildugan gajar-tu üχüsü.

(出来れば戦場にて死にたい)

Jalaraji sôda! (どうぞお座り下さい)

(4) 反 語

Xün χüksiresen χoina yâji daχiji jalû boluxu aji?

(人が年取つた後どうして再び若くなれようか?)

Yabusu gebel yàxaji berχe baina?

(行かふとすれば何ぞ〔どうして〕難かしからうか)

Yûgeji ayumsik ügei teryün daruχu ügei?

(何ぞ敢て頭を下げないのか)

Xün-nei tula yûn-dü χičyeχü ügei?

(人の爲めに何故盡くさないのか)

(5) 假定、條件

Xerbe burûn orobal očiχu ügei.

(若し雨が降ればいかない)

Xedüi arbin bolbači tusa üge.

(如何に澤山あつても無駄だ)

(6) 推量

Baruk ireχü ügei be. (大概來ないでせう)

Laptu ireχü baχa. (必ず来るでせう)

§ 55. 副詞の合成

(1) 同種のものを重ねて

nige nigér (一つ一つに) [nigér は nige の造格の形]

dam dam (履々、續々)

tus tus (夫々)

jüil jüil (種々)

üdür üdür (日々)

(2) 同系異語を重ねて

orban χürben (繰返へし、繰返へし)

ayun emyen (恐る、恐る)

üxün aldan (愴惶として)

sanduran eñdüren (忙ぎ慌てて)

edüi tedüi (少し許り)

§ 56. 副詞の慣用形

元來副詞であるもの外に蒙古語には他の語詞が副詞として用ひられることが多い。今次に普通よく用ひられる語形を列舉した。

(1) 名詞の各格より

añχa-dân (最初)「與格」

durâr (勝手に)「造格」

ayan-dân (自然に)「與格」

(2) ügei を附した語(形容詞)より

tesgel ügei (堪へぬ程)

tasural ügei (絶えず)

ayumsik ügei (敢へて)

baraši ügei (盡きぬ程)

muxuši ügei (不窮の)

(3) 形容詞に -a, -e をて附して

duratai-(y)a (勝手に)

sanâtai-(y)a (意識的に)

(4) 形容詞の語尾 -da (-de) 或は -χan (-χen) を附して副詞として用ひられる。

yixede (yixele) (大いに)

čingada (固く)

naričan (稍々細かに)

yixexen (稍々大きく)

(5) 副動詞の形として

yaχabači (どうしても、決して)

üχübeči (死んでも、絶対に)

eldeplebeči (要するに)

χürtele (迄)

sanaxui-(y)a (思ふに)

udatala (久しく)

tusχailan (特に)

daxiji, daxin (再び)

(6) 摘装詞として

mön mön (モーザー「牛の鳴聲」)

jinjin janjan (チーチー「小鳥の鳴聲」)

šar šar (サラサラ「風聲」)

dön dön (ドンドン「太鼓の音」)

§ 57. Mün と nigen の用法

Mün は元來「即ち」と云ふ様な意味で、使用される場合場合で色々な意味となる。

(1) Mün, müñ, tärna.

(さうだ、さうだ、その通りだ[合つてゐる])

(2) Mün gajar-tu yabuya. (その所に行かふ)

(3) Müntere (mütere) mô baina.

(彼が悪いのだ[他の人ではない])

(4) Mün-e mordaya. (では直ぐに出發しよう)

(5) Mongol bičik mün-e. (蒙古の本です)

nigen (一) と云ふ數詞は不定代名詞(或る)として用ひられることは前述したが、尚次の如き法もある。

(1) Teren-tei nigen adali. (彼と全く同じ「同一」だ)

(2) Nigen sôrin χün busujagaji.

(一座「全部の」の人は「一齊に」起つた)

(3) Nigente abuχu ügei. (既に要らぬ)

(4) Nige-bül mö, nige-bül sain.

(一つは悪く、一つはよい)

熟語として次の如く用ひられる。

nigen nasun (生涯)

nigen amigar (一生懸命)

nigemüsün (既に)

nigen dör(a) (一緒に)

nigendégür (一方)

§ 58. 助詞と動詞

蒙古語の名詞(代名詞)格の變化に用ひる助詞(テニヲハ)の用法は日本語と大概同様であるが、二三特殊な用法がある。乃ち日本語では對格(を)與格(に)と譯す場合に蒙古語で奪格(から、より)を要求する動詞がある。

Terenēs ayuna (aina). (彼を恐れる)

Mori-gi modōs uyuna (uina). (馬を木に結ぶ)

Terenēs asūna. (彼に問ねる)

或は日本語では與格(に)に譯すべき場合に對格(を)を取る動詞がある。

Namaigi dâji irene. (私について来る)

Mori-gi unuji yabuna. (馬に乗つて行く)

練習問題

1. 唯私だけ少し知つてゐる。
2. 小人は常に何事にも〔凡る事に〕恐れ脅く。
3. 錢があると直ぐ費ふ。
4. 人のため何ぞ盡くさざる。
5. 家の中が親しければ〔即ち〕よし。
6. 厚着しても未だ寒くて堪らない（堪らぬ程寒い）。
7. それよりズツとよいと考へてはならぬ。
8. それ許りのものがどうして足りるか。
9. 月末迄歸らない。
10. 彼の人は酷い(餘りに)貧乏でした。

【單語】

jüger 唯……だけ	baga saga 少し、僅か
ürgülji 常に	aliba 一切の、凡ゆる
emyeχü 脊える	darui 直ぐに

jüs 錢

χičyeχü 罷くす

χereklexü 費ふ

jujān 厚い

nairtai 親密な

buduχu 考へる、思ふ

ümüsχü 着る

danči 酷い(餘りに)

güyičiχü 足りる

yadü 貧乏な

sara-in sül 月末

【解 答】

1. Jüger bi baga saga medene.
2. Üčüχen χün ürgülji aliba χeregēs ayun emyene.
3. Jüs baibal darui χereklene.
4. Xün-nei tula yün-dü χičyeχü ügei.
5. Ger-in dotor nairtai bolbal mün sain.
6. Jujān ümüsči basa tesgel ügei χütün.
7. Terenēs maši dêre geji buduji boluχu ügei.
8. Tedüiχen yüm yâχaji güyičine ?
9. Sara-in sül boltala χariχu ügei.
10. Tere χün danči yadü aji.

第七日 作文

§ 59. (1) 年月日と曜日

蒙古では年號は *on*, 歳(年齢)は *nasu*, 普通期間を表はすに *jil* を使用してゐる。年號は順序數詞を使用する。例へば滿洲國の康徳五年は

Enxe erdemtü tabudugar on.
康 德 五(番目) 年

蒙疆聯盟政府は成吉思汗紀元を採用してゐる。成紀七百三十三年は

Bukda Čingis Xān-nai dolōn jūn gučin gurbadugar
聖 チンギス 汗の 七 百 三十三(番目)
on.
年

(2) 月の呼稱には古來色々の呼稱があつた。最近では殆ど使用されなくなつたが、一年を春夏秋冬の四季に分け、各季三ヶ月を前 (*teryün*), 中 (*dumda*), 後 (*sül-in*) に分けて表はしたことがある。乃ち

一月 *χabur-in* (春の) *teryün sara*.
二月 „ „ „ *dumda* „
三月 „ „ „ *sül-in* „

現在では普通數詞を附して表示する。

五月 *tabun* (五) *sara*

六月 *jurgan* (六) ,

但し正月は *čagan* (白) *sara* (月) と特に呼ぶ。

中国語では一ヶ月の初旬十日迄は「初」と云ふ字を附して讀む、例へば「二月二日」は「二月初二」であるが、蒙古でも同様に月の初旬十日だけに *šine-in* (或は *sin-in*) [*sine* (新)] を附して使ふ。乃ち正月六日は

Čagan sara-in šine-in jurgan (*üdür*).

正 月 の (新の) 六 日

又日曜日は普通 *garak* (曜) に日月火水木金土を配列すればよいが、別に天文の方より特別な呼稱(括弧内)がある。

日曜	<i>maran garak</i> (<i>nima garak</i>)
月曜	<i>saran</i> „ (<i>dawa</i> „)
火曜	<i>gal-in</i> „ (<i>mikmar</i> „)
水曜	<i>osun</i> „ (<i>lhakba</i> „)
木曜	<i>modon</i> „ (<i>pürbö</i> „)
金曜	<i>altan</i> „ (<i>basañ</i> „)
土曜	<i>šuruin</i> „ (<i>saničar</i> „)

§ 60. 助數詞と度量衡

日本語には事物の性質に應じて數詞に特別に添へる助數詞が可成り澤山ある。例へば「二羽の鳩」とか「一匹の犬」とかの羽、匹に相當する語が蒙古語にもある。この助數詞は日本語のやうに多く用ひない。

χün (人)

depter (冊)

χûdasu (枚) [或は支那語の「張」(枚の意) を用ひて
jan とも云ふ)

jaχa (著「衣服の」) *örûχe* (間「室の」)

ayaga (aik) (杯、椀)

χesek (塊) *üdür* (日)

alak (握「穀物等握つて算へる」)

bakča (束) *bakla* (包)

buta (株)

度量衡は一般に中国の単位を使用し(北方は露國の)、中国語音をそのまま用ひてゐる。

(1) 距離(長さ)

中国では一尺は十四吋一(我が一尺一寸八分二厘弱、實際は一尺五分五厘)で五尺を一步、三百六十歩が一里(我が五町五十二間餘)となる。

gajar 里 (三百六十步)

alxum 步 (五尺)

tuxui 尺 (十寸) [或は *či*]

imagu 寸 (十分) *fün* 分

(2) 面積

支那では面積を測るに弓(五尺平方)[我が約九合五勺]を用ひる。蒙古地帶は二百八十弓或は三百六十弓で一畝、六畝を以て一天地(普通は十畝)とした。

čin 畝 (一百畝) *üdür-in tarâ* 天地

üre 畝 *kün, nomo* 弓

里平方を以て表現することもある。

gajar dürbeljin 里平方

(3) 分量

中国の分量の単位は升(我が五合四勺八才或は五合七勺三才一)である。

šen 升 (十合) *bitegü* 合 (十勺)

alaga (*alak*) 勺

(4) 重量

中国の重量の単位は斤(我が約百六十匁餘であるが實際には百六十匁ない)である。

jin 斤 (十六兩) *lan* 兩 (十錢)

čin 錢 (十分) *fün* 分

(5) 貨幣

從來中国の貨幣が蒙古各地に流通してゐたが、滿洲國內の他の地方と同じ國幣が流通し、蒙疆聯盟政府内の蒙古では新しい幣制が行はれてゐる。外蒙古或はブリヤート蒙古地方は露國の留と同値の貨幣が流通してゐる。

tûrik 圓、元

χesek jûs 塊 (錢) | 我が圓

χep jûs 十錢 (毛錢、角)

jûs 錢

貨幣の相場は爲替の變動によつて異なる。

§ 61. 千支

蒙古では十干を色彩(藍、紅、黃、白、黑)で表はす。

甲	χüχe (藍)	乙	χüχekčin*
丙	ulân (紅)	丁	ulakčin*
戊	šara (黃)	己	šarakčin*
庚	čagan (白)	辛	čagakčin*
壬	χara (黑)	癸	χarakčin*

*-kčin 「……らしい、……の如き」の意。

十二支 は動物名で表はす。

子 χulugana, 丑 üχer, 寅 baras, 卯 tûlai, 辰 lû
巳 mugai, 午 mori, 未 χoni, 申 bačin, 酉 taxâ
戌 noχai, 亥 gaχai

十干十二支を組合はせて年紀、日次を表はし又十二支を以て月の別名として呼ぶことがある。

十一月 χulugana sara

十二月 üχer-in sara

一月 baras sara

練習問題

1. 丙寅の年テムチンは四十五歳にして帝位に即いた。
2. 今月の何日に此處から出發するか。
3. 康徳何年迄其處に住んでゐたか。
4. 今日第三冊の十二頁迄讀んだ。
5. 日曜に再び會ひませう。
6. あの空家は幾間あるか。
7. 私達の故郷から數百里の遠い處です。

8. その酒は一斤幾錢ですか。
9. 各冊九十錢(九角)です。
10. 一寸の地も後退しない。

【單語】

Temüjin	テムチン	oron-du sôxu	即位する
sula ger	空家	burûlaχu	後退する

【解答】

1. Ulân baras jil-du Temüjin düčin tabun nasun-dân
χân yiχe oron-du sôba.
2. Mün (ene) sara-in χedüi-dü (χedüi üdür-tü) endës
mordana.
3. Eñxe erdemtü χedüdüger on boltala tende sôsan?
4. Ene üdür gurbaduger depter-in arban χoyadugar
χûdasu χürtele uńsiba.
5. Nima garak (naran garak)-tu daχiji učirya.
6. Tere sula ger χedün örüχe-tei? (örüχe baina?)
7. Manai nutugâs χedüi jûn gajar χolo gajar-a.
8. Tere araxi nigeh jin χedüi jûs (baina)?
9. Tus depter yisün χeb jûs baina.
10. Nigen imagu-in gajar ēi basa burûlaχu ügel.

第四週

第一日

會 話

§ 62. 発音に関する注意

實際會話する場合、人によつて夫々訛りもあらうし、又前述した通り蒙古語の方言、土語は相互に相當複雑な關係にあつて種々の現象に遭遇せねばならぬ。即ち母音調和の現象も本書で説明した如く常に嚴重に保持されてゐるとは限らない、又男性であるべき語が女性として發音されて居たり、アクセントの位置の移動其他の原因によつて子音、母音の發音にも脱略、轉位其他の變化を蒙るであらうことも豫期されるであらう。そこで次の如く實際によく現はれる諸現象を研究し實際の會話の際の用意をせねばならない。

(1) 男性母音であるべき語が女性母音として發音されることがある。

mori (馬) > möri

sain (より) > sein, sén

bičiχan (少い、小い) > bičiχen

dabšiχu (進む) > debšiχü

(2) 同形の子音をもつ男性母音と女性母音の兩語は對應した語であることがある。

aχa (兄、長上の男子) > eχe (母、長上の女子)

n ~ ñ 或は m, ñ ~ n

χān (汗、皇帝) > χāñ

nimgen (薄い) > mingén

ende (てこ) > ende

yanju (様子) > yanju

m ~ n, ñ

erχim (尊い) > erχin

dumda (中央) > dunda

nimgen (薄い) > mingén

maimā (商賣) > naima

d ~ t

dutum (毎) > tutum

w ~ 0

guwa (麗しい) > gō

činuwa (狼) > činō ~ čonō

(9) 第一週第二日で文語と口語の説明に於て述べた如く語末の母音は殆ど消失に近いことがある。斯かる名詞に格の変化を示す助詞(テニヲハ)が連絡する場合には語末に母音のないものと同様に取扱はれることがある。

modo (木) > mod(o)

mod-âr (木で)

mod-âs (木より)

(10) 外來語音がどんな風に蒙古語に入れられてゐるであろうか。

中国語

將軍 čian-čün

北京 pei-čin

店 tien (店、宿屋)

太平 t'ai-p'ín

皇帝 huan-ti

蓮花 lien-hua

窓戸 č'uañ-hu

皇太子 huan-t'ai-tzu

桃兒 t'ao-erh

丞相 č'en-hsian

蒙古語

janjün (古く sengün)

bējin

deñ

taibiñ

χuwandi

lanχu

čonχo

χün taiji

tôr

činsañ

以上の例にも見えるやうに ua は ū (又は ô), ie は ê, ia は â, ao は ô 等の如く簡単に錄音され、屡々 n ~ ñ の現象も見えるが、特に注意すべきは支那語の p, t, k (無氣音) と p', t', k' (有氣音)を錄音する際、無氣音は濁音(有聲音)として、有氣音は清音(無聲音)として取つてゐることである。

其他の外來語を次の如く寫して居る。

kilogramm (「露語」班) > χilugaram

Franča (「露語」佛國) > Parańčus

Yapon (「露語」日本) > Yabun

Peterburg (「露語」ペテルブルグ) > Piterbürge

Baňk (「露語」銀行) > Bañki

kšana (「梵語」瞬間) > akšan

hjigs-sten (「西藏語」世界) > yirdinčü ~ irdinči

jo-bo (jo-wo) (「西藏語」佛像、佛盒)>jô

Evropa (「露語」歐洲)>Ibroba

尚以上の如く外來語の k 音は χ で、v 音は b, f 音を p 等で寫すのは k, v, b 音が元來蒙古語にないからである。二子音が重さなつて何方にも母音が伴はぬ時は適當に母音を入れて發音する等適當に母音や子音を變化して用ひてゐる。

扱て以上の諸現象を一通り理解したら次に實際會話の際にどんな風に訛つて聞えることがあるか簡単な文例を擧げて研究しよう。

聽 取 の 練 習

(1) Xejêne öwgen emgen χoyir gurwan χötei sanji
ヘヂエネ ヲウグン エムグン オイル ゴルワン フオーテイ サンヂ

(2) Neg modö-nä dörä bäsän tere-ne ôre irji.
ネツク モドネ ドール ベースン テルネ ラーレ イルヂ

(3) Bi gantsär durär ošnä.
ビ ガンツアル ドラール オシト

(4) Möri-tei dêsän dawšad garnä.
モル テイ デーシエン ダウシャト ガルネ

(5) Awa, bi tümür-in ura surnä.
アワ ビ トムリン オル ソルネ

【解 釋】

(1) 昔お老爺さんとお婆さん兩人は三人の子供と(を持つて)
居りました。

χejêne (夙に、早く>昔)、öwgen<übügen (お老爺さん)、emgen<emegen (お婆さん)、gurwan<gurban

(三つ)、sanji<âsan aji (あつたのでした)

(2) 一本の木の下に居つた彼の近くに來た。

neg<nige (ー)、modö-näi<modon-nai (木の)、dörä
(下)、bäsän<baisan (あつた)「所の」)、ôre<uira (近
く)、tere-nä<tere-nei (彼の)、irji>ireji (來た)

(3) 私は唯一人で自由に行く。

gantsär < gakčagär (唯一の)、durär (dura の造格、
dura 「好み」)

(4) 馬に乗つて上に昇つて行く。

mörï (馬) の語末の i 音は後方で發音されウに近く聞
えることもある。 -tei (もつ)、dawšad<dabsäd (語根、
dabsi-「前進する」)、garnä<gar[u]na (出る、昇る)

(5) お父様、私は鐵治屋を習ひます。

awa<aba ~ abu (お父様)、tümür-in<temür-in (鐵
の)、ura<ura (業)

第二回

会話

§ 63. 挨拶

Sain bainū?
サイン バイヌー

今日は。

Sain-a.
サイナー

同上。(答へて)

Ta, sain bainū?
ターサイン バイヌー

〔貴君〕今日は。

【註】 Sain (よい) bainū? (あるか) の意で日常の挨拶に用ひる。 sain-a はそれに答へて「よくある」の意、 -a の代りに baina を用ひてもよい。次の Ta, sain bainū? は折返し對手の御機嫌を伺つたものである。 sain bainū? の代りに möndö (安泰な) を用ひることもある。 möndö は重ねて möndö, möndö と云ふてもよい、その返事は同じく möndö, möndö と云ふ。

尙御丁寧に amur (-xan) sain bainū? (御機嫌宜ろしう) と云ふこともある。 amur (安泰な) [-xan は縮小の語尾]。 答へは sain baina で宜しい。

Xô sain-û?
ホー サイヌー

皆様御元氣ですか。

Tanai abural bür sain
タナイ アボラル ブル サイン
baina.
バイナー

お蔭様で皆元氣です。

【註】 xô (皆)、abural (お蔭様) は buyanâr とも云ふ。
ボヤナール

Erzim aldar xen bei?
エルヒム アルダル ヘン ベー

御名前は何と仰言いますか。
(御名前は誰方ですか)

Bolxi nere Dorji baina.
ボルヒ ネレ ドルヂ バイナー

私の名はドルヂでございます。

【註】 Erzim (尊い)、aldar (名聲、稱號)、bulzi nere (賤名) で非常に丁寧な言葉で目下のものには čini (君の) nere xen bei? でも i yamar neretei? (君はどんな名「をもつ」か) でもよい。 Bolxi nere と云はずに mini nere (私の名) と云つても勿論よい。 尚蒙古には「姓」omok (<obok) がないので普通は姓を問はない。

Tanai aldari xedüinêš
タナイ アルダリ ヘドゥイナース
sonscî medesen baina.
ソンスチ メデーセン バイナー

Xojim xaragaljiji ük.
オジム ハラガルヂヂ ウック

御名前は夙に承つて居りました。(貴君の名前を早くより
聞いて知つて居たのである)

將來とも宜しく。(將來お世話
下さい)

【註】 前句はよく中国語では初対面の際によく話される言葉で、蒙古語では極めて丁寧な場合の外は用ひない。 sonscî<sonosci (聞いて)。

Jalar[a]ji oroda.
デラルヂ オロダ

どうぞお入り下さい。

Dêsi sô.
デーシ ソー

上座にお座り下さい。

Mürgüji baina.
ムルグヂ バイナ

有難うございます。

Tan-i jubajänä.
タニ デヨバヂエキ

同上。

【註】 oroda は oro- (入る) の丁寧な命令形。 sô は sô- (坐る、住む、乗る) の命令形。 Dêsi (上方へ)、 mürgüji (お辭儀して)、 jubajänä ~ jubajaina<jubaji baina. (苦しめてゐる。お迷惑かけてゐる)

Udân ucirsan ügei.
オダーン オチルサン ウゲイ

御無沙汰致して居ります。(長
らく會はなかつた)

Ene üdür amur-i erixe
エネ ウドル アモリ エリヘイ
ir[e]ji.
イルヂ

今日は御氣嫌伺ひに來ました。

【註】 Ene üdür を ünüdür と早く云つてもよい。 erixe (は
erxe の如く發音されることもある。 -xei は目的の副動詞、 eri- (探
す、求める)。

Ongörü oroi boluji.
ヲンゴルー オロイ ボルヂ

餘り晚くなつた。

Odō, čilō guyiya.
オドー チロー グイヤ

では御暇致しませう。

Daxin učirya.
ダヒン おチリヤー

左様なら。(再び會ひませう)

Bida xojim daxiji ölijya.
ビダ ホヂム ダヒヂ オーるヂヤー

左様なら。(私達は後程再びあ
會ひしませう)。

【註】 Odō は元來「今」と云ふ意味であるが、屢次間接詞として用
ひて「では、もう」の意となる。 čilō>čolē (暇)、 guyiya (頗はふ、
頼まふ)。

Margata bi alban xerektei
マルガタ ビー アルバン ヘレクティ

明日私は公用で巴林に参ります
バーリン

Bārin-du očixu tula, čilō
バーリン ド オチホ トラー チロー

ので御暇乞ひに來ました。

ailatgara irebe.
アイラトガラー イレベー

何時御出發ですか。

Xejē mordana?
ヘヂエ モルダナー

明朝早く参ります。

Managar erte yabuna.
マナガル エルテ ヤボナー

道中御無事に (途中よく行か
れたり)

Jam-dān sain yaburai.
ジャム ダーン サイン ヤボーライ

貴君方も御氣嫌よう(御住みな
さい)

Ta-nar amur möndö sō.
ターナル アモル モンド ソー

【註】 alban (公)、 xerek-tei (用事をもつ)、 ailatgara (申上げよ
うと) と云ふ丁寧な言葉。 yaburai (行かれたり) 丁寧な命令形。

Amurxan sain šinelbū?
アモールハン サイン シネルブー

新年お芽出度う。(御氣嫌よく
年を越したか)

Sain šinelji.
サイン シネルヂ

明けましてお芽出度う (よく
年越した)

Bayir-a, bayir-a!
バイラー バイラー

お芽出度う。

【註】 šinelbū? <šine- (新しい) -l- (なる) -bū? (過去の疑問形)。
第一句の間に第二句は應へて云ふ形である。 Bayir-a は諸事祝儀に用
ひる。

§ 64. 訪問

Yamada axa, ger-tēn
ヤマダ アハ ゲルテーン
bainū?
バイヌー

山田君、御在宅ですか。

Ja, baina. Oroji ire!
ヤ バイナ オロヂ イレー

ハイ、居ります。御入りなさ
い。

Ta morilji sō!
タ モリルヂ ソー

貴君、どうぞ御坐り下さい。

Jüger sō!
デュゲル ソー

御平らに。(ユツタリ御坐りな
さい)。

【註】 Axa (兄) は「君」に當り、敬稱には別に abugai (衆)、 bakši
(先生) 等を用ひる。中国語で「先生」を普通日本の「様」位に用ひ、蒙
古でも日本の「先生」より軽い意味で用ひてゐる所もある。 Morilalj
(どうぞ) は元來 mori-la-xu (馬に乗る、行くの敬語) より出たもの
である。 Jüger (唯、閑)

Ene üdür xānās ir[e]ji?
エネ ウドル ハーナース イルヂ

今日何處から御出ででしたか。

Gertēs šut ir[e]ji.
グルテース シュット イルヂ

家から眞直に來た。

Orit iresen üyis gertü
オリット インセン ウイス グルト

前に御出での折留守しまして

baisan	ügei,	üneren	本當に御無禮致しました。
バイサン	ウゲイ	ウネレン	
osuldaba.			
オスルダバー			

Ta yamar	üge	χil[e]ji	どう致しまして。(貴君如何な
ターヤマル	ウゲ	ヒルヂ	

baina.			る言葉を云はれますか)
バイナー			

【註】 üyis (üyes) (時)、osuldaba (申譯ない、無禮した)

Ene üdür yâralgan bainû?	今日は御多忙ですか。
エネ ウドル ャーラルガン バイヌー	
Jabsyanâr ·čilôtei.	丁度(具合よく)暇です。
ジャブシャナール チローテイ	
Âjimxan χil[e]lčiya.	ユツクリお話し致しませう。
アーデムハン ヒルチエー	
Čai jûkla!	お茶を召上れ。
チャイ チヨークラー	
Bida jâxan tûriχai yabuya.	私達は少し散歩しに行きませ う。
ビダ デヤーハン トーリハイ ヤボヤー	
Odô χedün čak?	今何時(です)。
オドー ヘドン チャック	
Čuχum dürben čag-a.	丁度四時です。
チヨホム ドルベン チヤツガ	
Odô bâxan χil[e]lčiya.	もう少しお話致しませう。
オドー パーハン ヒルチエー	
Čingebel yabuya.	では行きませう。
チングベル ヤボヤー	
Bitgei xürge!	そのまま、そのまま。(お送り 下さるな)
ビトゲイ フルゲ	
Ta âjimxan yabuya.	では左様なら(貴君ユツクリ 御出かけなさい)
ターハーデムハン ヤボヤー	
Batu-du amur-i erêt ük!	ベトーによろしく。(ベトーに 御氣嫌を伺つてくれ)
バトー ド アモリ エレート ウック	
Daxin učirya.	左様なら。
ダヒン オチリヤー	

【註】 Jabsyanâr は Jabsyan (幸) の造格の形で此處では副詞(幸に、都合よく)として用ひられてゐる。čilô (暇)+tei (もつ) は čilô baina としてもよい。âjimxan<âjim(ゆつくり)-xan(縮小の語尾)。xilelčiya<xile- (話す)+lči (互ひに)+ya で「話し合ひませう」の意。Jâxan=bâxan (少し)、tûrixai (散歩すべく) は訛つて tûrxe と云はれることがある。Bitgei xürge! や âjimxan yabuya 等は中國人が挨拶によく用ひる言葉である。Erêt<eri+êt.

●

第三日

会 話

§ 65. 旅 行

Xejē mordana?
ヘヂエー モルダナー

Ene üdür očina.
エネ ウドル オチナー

Xâ očina?
ハー オチナー

Xalūn Arsyān-du yabuna.
ハローン アルシヤン ド ヤボナー

Yû xîxei yabuna?
ユー ヒーハイ ヤボナー

Tûriχai očina.
トーリハイ オチナー

Jam dâgulxu χün olji ük!
ヂヤム ダーゴルホ フン オルヂ ウク

Terge bas[a] xülsüji ük!
テルゲ バス フルスヂ ウク

Eendêş xoyir mori-tai
エンデース ホイル モリ タイ
nig[e] χün yabûluya.
ニグ フン ヤボーラヤ

Tan-i jubaji baina.
タニ デヨバヂ バイナ

Tendexi mini nüxür-tü
テンデヒ ミニ ヌルト
amur-i erêt ük!
アモリ エレート ウク

Jam-dân sain yabûrai!
ヂヤムダン サイン ヤボーライ

Möndö učirya.
モンド オチルヤー

何時御出發ですか。

今日出かけます。

何處へ行くか。

ハローン・アルシヤンに行きま
す。

何をしに行きますか。

遊歴に参ります。

道案内をする人を探して下さ
い。

車も雇つて下さい。

此處から二頭の馬と一人を差
向けませう。

有難うございます。(御面倒か
けます)

彼處の私の友人に宜しくと云
つて下さい。

道中御無事で。(途中よく行か
れかし)

左様なら。(御無事でお會ひし
ませう)

【註】 xâ ocina? の xâ を xâgur (何の方面から)、xâšan, xaiši (何の方角へ) とすれば夫々の意とすることが出来る。地名 Xalûn Arsyān は「温泉」の意。 Yû xîxei (何をしに、何を爲すべく) は yûgér, yâzajî (何で) と云つてもよい。 Dâgulxu は dâ (從ふ) -ul- (しめる) -xu (形動詞の語尾) で「従はしめる(所の)」の意。 Olji (得て)。 yabûluna は yabu (行く) -ul- (しめる) -na (現在形) で「行かしめる」の意。 Amur-i erêt ük! (§ 63 参照) 最後の二句は當分會はない、乃ち旅行の時等の挨拶の言葉である。

Či nadatai čuk yabunû?
チー ナダタイ チョツク ヤボヌー

Bi čimada dâguluya.
ビ チマダ ダーゴルヤー

Et tawar morin-du ačina.
エト タワル モリン ド アチナー

Yâral ügei yabu!
ヤーラル ウゲイ ヤボ-

Ene yamar ail?
エネ ヤマル アイル

Ímû gôl baiyü ügei-yû?
イームー ゴーる バイホ ウゲイユー

Endêş xedüi xolo?
エンデース ヘドイ ホロ-

Arban gajar šixam baina.
アルバン ガヂヤル シハム バイナ

Yadasan ügei-yû?
ヤダーサン ウゲイユー

Bâyan amusχiya.
バーハン アモスヒーヤー

君は私と一緒に行くか。

私は君を(君に)御案内致しま
せう。

品物は馬につける。

ユツクリ行け。

これは何といふ村か。

斯う云ふ河がないか。

此處からどの位あるか。(如何
に遠いか)

十里近くあります。

御疲れになりませんか。

少し休みませう。

【註】 čuk (一緒に) は元來名詞で čuktai (一緒に) とも云ふ。 Et も tawar も「貨物」で普通 et だけでは用ひない。 Ačina (荷ふ、
負ふ)、「擔つて行く」は örgüji yabuna, 「抱いて行く」は tebüriji
yabuna, 「下げて行く」は tâleji (>tâl[i]ji) yabuna と云ふ。
ヤボナー テーリヂ ヤボナー

Yāral ügei は「忙がない」の意。「ユツクリ」は udān, 「早く」は zurdun, 「急いで」は yāraltai と云ふ。Yamar ail? は「如何なる村」の意、「何と云ふ名(名をもつ)か」は yamar neretei? Xedüi xolo? (如何に遠いか)、「何里あるか」は xedüi gajar baina? Gajar (里)、šixam (近い)、「十里位」は arbat gajar とも云ふ。yadasan「疲れた」は jüdürsen とも云ふ(語根 jüdür[e]-).

Jam sain bainū?
ヂヤム サイン バイヌー

道がよいか。

Sabartai.
シャバルタイ

泥溝です。

Ene gôl-du xörük bainū?
エネ ゴールド ホールック バイヌー

此の河に橋があるか。

Ügei, Olom baina.
ウゲイ オロム バイナー

ありません。渡し場がある。

Müsü xüldüsen ügei-yü?
ムス フルドセン ウゲイ ュー

氷が張りませんでしたか。

Müsü xailüji, Osu orosu-jaina.
ムス ハイルヂ オソ オロス
ヂヤイナー

氷が解けて水が流れてゐる。

Gün-ü?
グヌー

深いか。

Güyüzen baina.
グュヘン バイナー

浅い。

Xetür(ü)ji cidana.
ヘトルヂ チダナ

涉れます。

Nuyin obo endēs uira-yü,
ノイン オボ エンデース オイラユー

ノイン・オボは此處から近いか
遠いか。

xolo yü?
ホロ- ュー

そんなに遠くない。

Demî xolo ügei.
デミー ホロ- ウゲイ

この近くに宿屋があるか。

Baiyü ügei.
バイユ ウゲイ

ありません。

【註】「道が悪い」は jam mô baina と云ふ。Šabartai は「泥が多い」の意。「砂地」は ölüsütei gajar (砂の多い地)、「水地(濕地)」は osutai gajar, xetürüji (越えて)、Nuyin (高官) Obo の obo は石を積んで作り土地の神様を祭つたもので、大きさにも大小色々あつて、大きいのは經文を結び柳を挿した規模の大きな十三オボ等があり、今では土地の境界等にも用ひ、中には固有の名稱を有するものもある。Deñ は支那語の店 tien より出た言葉で、又は diyen とも云ふ、本來の蒙古語では「宿屋」は bôdal[čin] 又は bôča ボーダル ボーチアとも云ふ。

Noxai xara!
ノハイ ハラ

Möndö, möndö.
モンドー モンドー

Či ger-in ejin-yü?
チー ゲリン エジンユー

Tîma.
ティマー

Bi Naran xün, nig[e]
ビ ナラン ハン ニッグ
xunuk guyina.
ホノツク ゴイナー

Boluna.
ボロナー

Oroji ire!
オロヂ イレー

Sô!
ソー

Sain yabujainū?
サイン ヤボヂヤヌー

Sain-a.
サイナー

Yüm jüji ire!
ユーム チュード イレー

Či tergës bô!
チー テルゲース ボー

Yüm abčira!
ユーム アブチラー

犬を見る。

今日は。

君は御主人ですか。

さうです。

私は日本人(です)、一晩御宿
を願ひたい。

宜しい。

御入りなさい。

お坐りなさい。

道中御無事ですか。(よく行つ
てますか)

無事です。(よいです)

品物を運んで来なさい。

君車から下り給へ。

品物を持つて來い。

Dêšü aldarga!
デース アルダルガ

繩を解け。

Ende talbi.
エンデ タルビ

此處に置け。

【註】 Nozai zara! の zara- は(見張る)の命令形、蒙古には恐ろしい番犬を飼つてゐるので家を訪れる時犬を押えて黄はねばならぬ。 xunuk (泊り)、行程の日數は gurban xunuk (三日「行程」)、dûrben xunuk (四日「行程」)と xunuk 數へる。 Naran (太陽、日) xün (人)、支那語的に Jihben (支那語「日本」 jih-pen) 又は Riben とも云ふ所があるが、Nibun xün とも云ふ。
ニボン フン

第四日

會 話

§ 66. 食 事

Ende morilji sô!
エンデ モリルヂ ソー

此處へどうぞ御坐り下さい。

Cai jûkla!
チャイ チョークラー

お茶を召上れ。

Ene yamar cai?
エネ ヤマル チャイ

此れは何茶ですか。

Sütei cai müne.
スーティ チャイ ムネー

乳茶です。

Tamxi ô!
タムヒ オー

煙草をお飲みなさい。

Bi čidaxu ügei.
ビー チダホ ウゲイ

私は不調法です。(私は出來ない)

Araxi ô!
アラヒ オー

酒をお飲み下さい。

Ene xara araxi-yû?
エネ ハラ アラヒ ュー

これは焼酎ですか。

Biši, ar[a]ja müne.
ビシー アラヂヤ ムネー

いゝえ、乳酒です。

Târ[a]nû?
タールヌー

御口に合ひますか。

Ôgat das[u]ji baina.
オーカト ダスヂ バイナー

飲み馴れてゐます。

Xecû soktuji.
ヘチュー ソクトヂ

大變醉ひました。

Bas[a] güyičiχü ügei bei.
バス グイチフ ウゲイ ベイ

未だ足りませんでせう。

Biši güyičiji. Odô abuxu
ビシー グイチヂ オドー アボホ

ügei.
ウゲイ

いゝえ、十分です、もう頂けません。(要らない)

【註】蒙古人は普通魚豚鳥の肉は食べない、一番多く羊の肉を食べ、牛や羊の乳から作つたものや、麺類を主食とし乳茶を澤山飲む。乳茶は茶に鹽と乳を入れて作り、炒米 *Xôrsan budâ* を入れて食べることもある。羊の肉は焼いたり、煮たりして食べる。乳製品には *ürüm[el]* (乳皮、チーズの如きもの)、*xorot* (乳餅、ヨーグルトの如きもの)、*airak* (酸乳)、*šara tarasu* (ベタ) 等がある。乳酒は牛や羊の乳で作るが馬の乳で作つたものが一番上等で、餘りアルコール分は強くない。

Jükla! (召上れ) は敬語で、「食べる」は *ide-ne* と云ふ。*Tamxi* (>*tamak*) (煙草) は蒙古では *xamur-in tamxi* (喫煙草) を常用するが、この場合は *tatana* (飲む、吸ふ、嗅ぐ) と云ふ。*xara tamxi* (黒煙草) と云へば阿片のことを云ふ。*Târ[al]na* (合ふ) は論議の時なら御説の通りとなり、衣服なれば似合ふの意となる。*Das[ul]ji* (馴れて)、*güyicixü* (十分になる)、*abuxu* (取る、買ふ、持つ、必要とする、語根 *ab-*)。

Mün belen budâ.
ムーン ベレン ボダ

ほんの有り合せの御飯です。

Jubaji baina.
ヂョバヂ バイナ

有難うございます。(御免倒を
かけます)

Tabaran jükla!
タバラン チヨークラー

御自由に召上れ。

Ene xonin maya-yü?
エネ ホニン マハ エー

これは羊の肉ですか。

Tîma.
ティマー

さうです。

Gor[i]l budâ abunü?
ゴルル ボダ アボヌー

温飴は如何です。(要ります
か)

Maši duralana.
マシ ドララナー

大變好きです。

Odô ideji güyiciji.
オドー イデヂ グイチヂ

もう十分頂きました。(食べて
十分になつた)

Bičixen aigalât ük!
ビチヘン アイガラート ウク

少し盛つて下さい。

Bitgei erülü!
ビトゲイ エルルー

御遠慮なさいますな。

Bi erülüxü ügei.
ビー エルルフ ウゲイ

私は遠慮致しません。

Müne čataji.
ムネー チャタヂ

もう満腹しました。

【註】*Belen* (出来合の)、*belen dêl* (> *döл*) は「出来合の服」
Goril (麺) *budâ* (食事、飯)、「白米」は *čagan budâ*。*aigalât* は
「椀に盛つて」の意。

尙「湯を沸す」は *osu* (水) *bučilgana*、「飯を炊く」は *budâ čanana*
「茶を入れる」は *čai xîne* (入れる) と云ふ。

§ 67. 天候

Ür čaiba.
ウール チアイバー

夜が明けた。

Üdür saixan bainü?
ウドル サイハン バイヌー

天氣はよいですか。(日はよく
あるか)

Salxintai-yü?
サルヒンタイ エー

風があるか。

Üdür yamar bei?
ウドル ャマル ベイ

天氣は如何ですか。

Burûn oroxu mayik-tai.
ボローン オロホ マイツク タイ

雨が降りさうです。

Ül[e]tei üdür-e.
ウールティ ウドレー

曇天です。

*Ulam ulam dulâxan
bolun[a] ba.*
おらム おらム ドラーハン
ボルン バー

段々暖くなるでせう。

Darui xalûn boluna.
ダロイ ハローン ボルナー

直ぐ暑くなる。

Čonxu sexe!
チヨンホ セヘ

窓を開けろ。

Ali sara burûn arbin?
アリ サラ ボローン アルビン

どの月が雨が多いか。

Dlôn sara burūn yiχe.
ドローン サラ ボローン イヘ

Ali sara xirû onana.
アリ サラ ヒロー オナナー

**Yisün sara-in dotor[a]
イスン サラ イン ドトル**

Tengri arilaba. テングリ アリラバ

Müne barûn xoinâs salxin
ムニー バローン ホイナース サルヒン
salxil[a]ji baina.
サルヒルヂ バイナー

Jun ortai, jabal übül
ヂヨン オルタイ デヤーバル ウブル

xoitai salxin.
杏イタリ サルヒン

Dürben oraril-in dotor[a]
 ドルベン オラリリン ドトル
 agur xem tekši-bül
 アグウル ジム テクシ・ブル

namur, xabur baina.
ナムル ハボル バイナー

Tun-nai čak dura ügei.

Burūn oroji ir[e]ji.

Darui juksuχu baχa.

Üdür xarañxui bolujii

Čiktei xalûn baina.

Erte **oroigar** **seryüßen**

baina.
バイナ

七月が雨が多い。

どの月に霜が降るか。

九月の中に降りる

(天気が) 晴れた。

今西北(よりの)風が吹いて居る。

夏は南、しかし冬は北風です

四季の中氣候のよいのは秋と
春です。

君はどの時季が好きか

夏は嫌ひだ。

雨が降つて來た。

直ぐ止むでせう。

日が暗くなつた。

ムシムシします。(暑いです)

朝晩は涼しいです。

【註】「夜が明けた」は sūni (夜) geger[e]ji (明かるくなつた)とも云ふ。saizan (よい、美しい)、salxintai (風をもつ)、burūn oroxu (雨が降る)、「雪が降る」は čas[u] oroxu, oroxu は元來「入る、通む」の意。ületei (雲を持つ)、ulam, ulam (益々、次第に)、dulâxan は dulân (暖かい) -zan (縮少の語尾)、sexe! (開ける)、「閉めろ」は xagal, tengri (天、神)、arilaba (綺麗になつた)、東 jün, 西 barūn, 南 ümüne, 北 xoitu であるが、別に東 dorona, 西 ürüne, 南 or[i]lt, 北 umara (xoina とも云ふ。又方向を示すのに jük, tesi を附することもあるが、東の方 jün̄tei (jün̄sen) 西の方は barūntai (barūnšan) 南の方は or[i]ltai (ümünüsən), 北の方は xoitai (xoišan) と云ふ。Tekši (平らな、正常な)、xaranxui (暗い)、「明るい」 gegēn, čiktei (温氣をもつ)、「温めっぽい」は nüite とも云ふ。Erte (早い、朝)、oroi (晩い、晩) -gar (造格の助詞でここでは副詞「頃の意」の語尾として用ひられてゐる)

第五日
會　話

§ 68. 實　物

Ta yū (xoldaji) abuna?

Cini ende belen gutul bainū?

Büs bainū?

Jüil jüil baina.

Ene mayik müne.

En[e]-nig[e] xedüi jūs?

Nigen türig-e.

Ünetei, bi abuxu ügei.

Yüm sain baina.

Bâxan bûralta bainū?

Exe jūs-tu basa xürxü ügei.

Bi oršan mün xoyir

abuya.

貴君は何を御求めになりますか。

君の處に(ここに)出來合の靴があるか。

布があるか。

種々ございます。

これは見本です。

これは(この一つは)幾程ですか。

一圓です。

高い、私は要らない。(買はない)

品が宜しうございます。

少し負からないか。(少し價下げがあるか)

原價にも足りません。

私は先づこの二つを買はう。

Ende belen jūs ügei.

Xojim mini tende abčira!

Medebe.

Neide xedüi?

Dürben türig-e.

Edeger et tawar bör jüger ende xoldaxu īme?

Biši, olonči onča gajar-tu

xürgeχü yüm-a.

Arbin ašik bain[a] ba.

Demi arbin olji boluxu ügei.

Odō yabuya.

Sain yabûrai.

【註】 Xoldazu (商ふ) は xodaldazu でもよい。 xoldaji üküzü (賣る)、 üküzü なしで zoldazu だけでも賣ると云ふ意となる。 xoldaji abuxu (買ふ) は abuxu だけで買ふ意となる。 Büs (木綿、 布) Tûrik (圓)

§ 69. 醫　事

Či yâχiba?

Amur ügei.

此處に持ち合せ(の錢)がない。

後に私の處へ(そこに)持つて來い。

畏りました。(承知した)

合計いくら。

四圓です。

此等の品物は皆唯ここで賣商ふものかね。

いゝえ、 多くは他の土地に送るものです。

澤山儲かるでせうね。

そんなに儲けられません。

左様なら。(では行かう)

左様なら。(よく行かれたし)

君どうしたか。

氣分が悪い。

Tolugai öbütünü?	頭が痛みますか。
トロガイ オブトヌー	
Ügei, gedesü öbütüne.	いゝえ、腹が痛む。
ウゲイ ゲデス オブトニー	
Xedüi üdürəs öbütüsen.	何日から痛んだのか。
ヘトイ ウドレース オブトセン	
Üçüdürəs ſingen bâs[u]	昨日から下痢してゐる。
ウチュドレース シンゲン バース	(軟便が出る)
garuna.	医師が見ましたか。
ガルナー	
Emči üjisen-ü?	未だです。
エムチ ウヂセヌー	
Edüi.	では医師を頼んで来ませう。
エトイ	
Čingebel emči guyiji ireye.	
チングベル エムチ ゴイヂ イレエー	

【注】 Amur (氣分がよい、安らかな)、ſingen (軟い)、bâsu (便)、「具合が悪い」は aya ügei とも云ふ。
アヤ ウゲイ

Jujân ümüsči bas[a]	厚着をしても寒い。
ジョヂヤーン ウムスチ バス	

Xalûn oroji baina.	發熱してゐる。
ハローン オロヂ バイナー	

Mürü xabtagatai.	肩が張る。
ムルー ハブタガタイ	

Xedüinës xaniyana.	可成り前から咳が出る。
ヘトイニース ハニヤナ	

Xôlai sügüji.	聲が嗄れた。
ホーライ スグヂ	

Dêlén taila!	衣服を脱げ。
デーレン タイラ	

Ende öbütünü?	ここは痛むか。
エンデ オブトヌー	

Ügei.	いゝえ。
ウゲイ	

Salxın abusan íme.	風邪を引いたのですね。
サルヒン アボサン イーメー	
Em xatgaya.	薬を注射しよう。
エム ハトガヤー	
Ene übüčin xaldunü?	この病氣は傳染しますか。
エネ ウブチン ハルドヌー	
Xalduxu ügei.	傳染しない。
ハルドヌー ウゲイ	
Jüger-e.	大したことない。
ヂュゲレー	
Em ideji xoyir gurba	薬を飲んで二三日御休息なさ
エム イデヂ ホイル ゴルバ	い。
üdür beyen amura!	この薬を餘り熱くない湯で(温
ウドル バイエン アモラ	い水で)飲め。
Ene em búlyexen osûr ô!	
エネ エム ブリエヘン オソールオー	

【注】 Jujân (厚く)、ümüsči (着て)、xalûn (暑さ、熱)、oroji (入つて)、xabtagatai (張る) は zabtaga (板)-tai (もつ)、xôlai (喉)、zedüinës は zedüine (早く、夙に)-ës、dêlén は dêl (着物、上着)-én (特別格の對格)、jüger (唯、閑な、大したことない)、ideji (食つて)は蒙古では薬を食ふとも、飲むとも云ふ。Osûr は osu-är (造格) Beyen は beyi (身體)-én (特別格の對格)。

Terenei übüčin yamar bei.	彼の病氣はどうですか。
テレネイ ウブチン ヤマル ベイ	
Ene orčim bâxan sain	此頃少しよくなつた。
エネ オルチム バーハン サイン	
boluji.	
ボルヂ	
Çi yû xîsan?	君はどうしたのか。
チー ュー ヒーサン	
Sarxadaba.	負傷した。
シャルハダバー	
Xitugâr gar-i oktuluji.	小刀で手を切つた。
ヒトガール ガリ オクトルヂ	
Gata garusan-ü?	瘤が出たのか。
ガタ ガルサヌー	

Ügei, jügei xatgaji.
ウゲイ デュゲイ ハトガヂ

いゝえ、蜂が刺したのだ。

Ene orčim mô übüčin
エネ オルチム モー ウブヂン

此頃悪い病氣が流行してゐる。

bataraji baina.
バタラヂ バイナー

我々は注意せねばならぬ。

Bida xecēxü xerektei.
ビダ ヘチフ ヘレツクティ

【註】 xitugâr は xituga-âr (造格)、 xecēxü (注意する、勉強する)。

第六日

會 話

§70. 調 査

A, tan-i udân xülyelgeji.
ア タニ オダーン フリエルゲヂ

アーレ待たせ致しました。(貴君を長く待たした)

Xânâs îmda.
ハーナース イームダ

どうし致まして。

Bi Tuktu geji dôdana.
ビー トクト ゲヂ ドーダナ

私はトクトと申します。

Ene mini pienja.
エネ ミニ ピエンザ

これは私の名刺です。

Üljei bakšin tanilçyuluχu
ウルヂエイ バクシン タニルチヨル木

ウルヂエイ先生の紹介状を拜見して存じて居つた。

jaxidal unšiji medesen.
チャヒダル オンシヂ メデーセン

よろしく願ひます。

Xaragaljiji ük!
ハラガルヂヂ ウック

何の御用で當地に御出でなされたのですか。

Yamar xerektei ende
ヤマル ヘレツクティ エンデ

貴君に御願ひして少し調査しに参りました。

iresen Šida?
イレセン シダ

何時當地に御到着でしたか。

Tan-i guyiji bâxan baicâχai
タニ ゴイヂ バーベン バイチアハイ

今來た許りです。

ireji.
イレヂ

Xejê ende xürçi iresen?
ヘヂエ エンデ フルチ インセン

Müne sai ireji.
ムネ サイ イレヂ

Yadâsan ba.
ヤダサン バー

Demî yadaχu ügei.
デミー ヤダホ ウゲイ

御疲れになつたでせう。

そんなに疲れません。

Ene üdür mini ende bô!	今日は私の處に(ここに)御泊 りなさい。
Tan-i jubaji baina.	有難うございます。(御面倒を かけます)
Odô Wan nuyin ordun-du bainû?	今王様は御邸に御在ですか。
Baina.	居ります。
Magatur baraxalaji čadanû?	明日御目にかかりますか。
Bi dâguluya.	私が御案内致しませう。
Magatur nada nig[e] gajarcî olji ük!	明日私に一人の案内者を探し て下さい。
Boluna.	よろしい。
Ene tan-du bariχu belen yûm-a.	これは貴君への贈物です。
Mürgüji baina.	有難うございます。

【註】 Xülyelgeji は xülye-(待つ)-lge-(しめる)-ji(過去の語尾)。
xânâs imda (どこからのものだ)、pienja は中国語の片子 pien-tzu のことで本來の蒙古語では nere-in xûdas[u] と云ふ。Taničuluxu は tani(見知る)-iči-(互に)-xu(形動詞の語尾)、jaxidal(手紙)、zerektei(用事をもつ)、guyiji(願つて)、baičâxai は baičâ-(調査する)-xai(目的の副動詞、すべく)、mûne sai(只つた今)、bô-(泊る、下りるの命令形)、Wan は中国語の王 wan で蒙古人は nuyin(長官)

と云ふ、乃ち蒙古の王族(親王、郡王等)を呼ぶ言葉である。Baraxalaji は baragalaji とも云ふ敬語で「拜謁して、朝見して」の意。Gajarči(案内者)は gajar(土地)-či, barizu は澤山の意味がある、乃ち「擣げる、差上げる、持つ、捕へる、築く」。

§ 71. 軍 事

Juksu!	止れ。
Či xen bei?	君は誰だ。
Mün gajar-in xün-e.	この土地のものです。
Pôtaigan yabujainû?	銃器を携帯してゐるか。
Ügei.	居りません。
Ene jam Gegen süm[e]-dü xürünû?	この道はゲゲン廟に行くか。
Xürüne.	着きます。
Jam-dân xuttuk bainû?	途中井戸があるか。
Baina.	有ります。
Ene ail-du xedün örüxe baina.	この村に何軒あるか。
Arbat baina.	十軒ばかりです。
Xedüi xün sôji baina?	何人住んでゐるか。
Gučin ilü xün-e.	三十人餘りです。

Üla-nai činatu	daisun	山の向ふに敵軍が居るか。
čirik bainū?		
チリック バイヌー		
Ter[e]tē baiju ügei.		彼方には居ない。
テルテー バイホ ウゲイ		
Bür dutagaba.		皆逃げた。
ブル ドタガバー		
Xaiši dutagaba.		何方へ逃げたか。
ハイシー ドタガバー		
Endēs xolo baina.		此處から遠い。
エンデース ホロー バイナー		
Xedüi xolo?		どの位遠いか。
ヘドイ ホロー		
Tabyat gajgr-a.		約五十里です。
タビヤト ガヂャラ		
Tedener bür yabagan		彼等は皆歩兵か。
テデネル ブル ャバガン		
čirik-yü?		いゝえ、騎兵です。
チリック ュー		
Biši, moritu čirik baina.		兵士は皆で何人居つた。
ビシー モリト チリック バイナー		
Čirik bügüdér xedüi		
チリック ブグデール ヘドイ		
baisan.		
バイサン		
Bi medexü ügei.		私は知りません。
ビーメデフ ウゲイ		
Či dāguluji yabu!		君は案内しろ。
チー ダーゴルジ ヤボー		
Boluna.		よろしい。
ボロナー		
【註】 Pôtaigan は pô (砲) -tai- (もつ) -gan (特別格の對格)、 yabujaina (歩いてゐる)、xürünü? (到るか)、örüxe (戸、軒)、 arbat は arba (+) -at, ilü (餘り)。		
§ 72. 牧 薩		
Adū mal sain-ü?		家畜は如何ですか。
アドー マル サイヌー		

Xüčin gai ügei.	變りございません。
ホーチン ガイ ウゲイ	
Endexi mori sain baina šida.	此處の馬はよいですね。
エンデヒ モリ サイン バイナ シダ	
Üxer xedün baina?	牛は何頭居りますか。
ウヘル ヘドン バイナ	
Nig[e] jü ilü baina.	百頭餘り居ります。
ニグ チヨー イルー バイナー	
Xoni, imâ üneren arbin.	羊や山羊が本當に澤山ですね。
ホニ イマー ウキレン アルビン	
Ene bilčer-tü yamar öbüsü baina?	この牧場にはどんな草がありますか。
エネ ビルチルト ヤマル タブス バイナー	
Xüxür, dörbeljin öbüsü olon baina.	ウマコヤシ、コムギダマシが多い。
フル ドルベルジン タブス オロン バイナー	
Übül-in čak čas[u] yixe -yü?	冬は雪が多いか。
ウブルイン チャク チャス イヘ ユー	
Čüxen.	少い。
チューエン	
Übül yixe xüitün tula mal xüldüji üxüne.	冬は非常に寒いので家畜は凍死する。
ウブル イヘ フイトン トラー マル フル ドヂ ウフネー	
Xasâ ügei-yü?	園場はないか。
ハシャー ウゲイユ	
Xasâ baktaxu ügei.	園場に入り切れない。
ハシャー バクタホ ウゲイ	
Xonin nungusu xejê xaičilana.	羊の毛は何時刈りますか。
ホニン ノンゴツ ヘヂエー ハイチラナー	
Xabur, namur xoyir udâ xaičilana.	春秋二度刈ります。
ハボル ナモル ホイル おダ ハイチラナー	

Nigen xoni xedüi nungusu ニゲン ホニ ヘドゥイ ノンゴソ	一匹の羊で何程の毛を得ますか。
abuna? アボナー	
Xoyir jin dotü baina. ホイル デン ドトー バイナー	二斤足らずです。
Ere xün mal adül[a]na. エレ フン マル アドーるナー	男子が家畜を逐ふ。
Exener ünē sâna. エヘネル ウネー サーナー	女子が乳を搾る。

【註】 adū (馬群)、mal (家畜)、xūcin (古い)、gai (禍) 蒙古は自然放牧ですから冬季に相當澤山の家畜が、凍死、餓死することがある。xaičilana は xaiči- (鉄) -la-na で「刈り取る」の意。abuna (得る、取る)、dotü (不足)、ünē (乳牛)、sâna (搾る)。

第七日

會 話

§ 73. 語句の練習 常用の言葉で云ひ難い言葉や特殊な用語の類を以下に並べた。

Arga ügei. アルガ ウゲイ	仕方がない。(arga 方法)
Xojim xecē! ホヂム ヘチエー	以後氣を付けろ。
Tenek muχuru! テネク モホロー	馬鹿!
Xamâ ügei. ハマ- ウゲイ	構まわぬ。
Gaigui. ガイゴイ	差支へない。
Setxil bû juba! セトヒル ブー チョバー	心配するな。(心を苦しめるな)
Sanâ talbi! サナー タルビ	注意せよ。
Sanâ baija! サナー バイヂヤ	思ひ切れ。
Sanâ-du târ[a]χu ügei. サナード タールホ ウゲイ	氣に入らぬ。
Sanaji olχu ügei. サンヂオルホ ウゲイ	考がつかない。
Bû čiχulda! ブー チホルダ	慌るな。
Ajimχan xile! アーデムハン ヒレ	ユツクリ話せ。
Uiimeji boluxu ügei. ウイメヂ ボルホ ウゲイ	騒いではいけない。
Bitgei Šugula! ビトゲイ ショゴラ-	悪戯するな。

Sain nuirsubû?	お早よう。(よく眠れたか)
Nûr owana.	顔を洗ふ。
Nûr xasuna.	顔を剃る。
Am[a] jailana.	口を嗽ぐ。
Gajar šûrd[e]ne.	土間を掃く。(gajar 地面)
Alčurâr arcina.	手拭を拭く。(alčur 手拭)
Ger arilgana.	室を掃除する。(ger 家、室)
Ger čiberlene.	室を綺麗にする。
Osu tatana.	水を汲む。
Esgei debsene.	絨氈を敷く。
Gal xî!	火を付けろ。
Gal xükkjige!	火を起せ。
Osu bučilgana.	湯を沸す。(osu 水)
Xalûlaji ire!	温めて來い。
Čai ē!	茶を注げ。
Čai xî!	茶を入れろ。
Don nuču!	燈を付けろ。(don は中国語の「燈」tēn 蒙古語では jula と云ふ)
La untarga!	蠟燭を消せ。(la は lab とも云ふ)
Mori osul[a]na.	馬に水を飲ませる。

Mori uy[a]na.	馬を繋ぐ。
Emêl tuxu!	鞍を附けろ。
Xûr tatana.	胡弓を引く。
Dô dôl[a]na.	歌を歌ふ。
Pai nâduna.	骨牌を遊ぶ。(pai は支那語の牌)
Xairčik sexe!	箱を開けろ。
Jaň buduna.	堪定する。(jaň は支那語の賬(勘定)、buduna (計算する))
Xünesün jûs ügei.	旅費がない。(xünesün は「旅費、辨當、糧食」の意)
Xüšê bainû?	蚊帳があるか。
Šixür abči yabuna.	傘をさして行く。
Čiχulâr garči boluxu ügei.	狭くて通り抜けられない。
Yaxabači yabuxu ügei	是非とも行かねならぬ。(どうしても行かねばいけない)
boluxu ügei.	失火した。aldaba (失つた)
Gal aldaba.	睡くなつた。(睡りが到つた)
Nuir xürüji.	怒つた。(怒りが到つた)
Or xürüji.	鼾をかく。(鼻が歌ふ)
Xamar dôlana.	目が廻はる。(頭が廻はる)
Tolugai ergine.	

Očixu irexü-tei xedüi jüs?	往復で幾程ですか。(行くと來るとでは幾程か)
Gajar-in yosu niktalana.	地理を研究する。
Üg[e] orbalana.	翻譯する。üge (言葉)
Ergilji ük!	廻してくれ。
Xaldar[i]ji onaji.	滑つて轉んだ。onaji (倒れた)
Čuχum tere baiχu ügei.	丁度彼が居ない。
Silgaji oroji.	及第した。(試験して入つた)
Oi mô baina.	記憶が悪い。
Amurhan.	易しい。
Xecü güčür.	逆も難かしい。
Asgan jam-a.	眞直な道です。
Tôs[u] sôsan, gübiji ük!	塵が附いた、拂つて呉れ。
Tedüi xôrmak üne bû xile!	そんな懸値を云ふな。 xôrmak (嘘の)
Ayandân suruna.	自然に覚える。
Modon-du mürgüne.	木に打突かる。
Cicik üxüji.	花が枯れた。
Gata sôlji aba!	釘を抜いて仕舞へ。
Xatagalji talbina.	貯めて(藏つて)置く。
Ür[e]-tei joliji ük!	別のと取換へてくれ。

Arbin xürdeji.	十分(澤山)頂戴しました。
Osuldaji.	御無禮しました。
Amur-i er[i]ji ük!	よろしくと云つてくれ。
Ür[e] sôji baina.	實がなつてゐる。
Šobû sôji baina.	鳥がとまつてゐる。
Tergen-dü sôna.	車に乗る。
Altan sôlgana.	鍍金する。sô-(坐る)-lga (しめる) -na.
Sanâ yiχe, sabâ baga.	思ふ通りにはならぬ。(考は大きく、器量は小さい)
Nig[e] xün nig[e] sanâ.	各人各様。(一人一慮)
Nig[e] xün nig[e] dura.	好き好き。(一人一好)

附 錄

語 彙

(1) 天 文

tengri	天	ületei	üdür	曇天
テングリ		ウーレティ	ウドル	
okturgui	空	saiyan	üdür	好天氣
オクトルゴイ		サイハン	ウドル	
naran (nara)	太陽	saratai	süni	月夜
ナラン ナラ		サラタイ	スニ	
saran (sara)	月	tüxüren	sara	滿月
サラン サラ		トフレン	サラ	
salxın	風	bödeŋgi	sara	朧月
サルヒン		ボデンギ	サラ	
üle	雲	türgen (türgün)	burün	驟雨
ウーレ		トルゲン	トルグン	ボローン
ayunga (ainga)	雷	narin	burün	霖雨
アヨンガ アインガ		ナリン	ボローン	
burün, horo	雨	yixe	salxın	大風
ボローン ホロ		イヘ	サルヒン	
χirū	霜	dolgin	salxın	暴風
ヒロー		ドルギン	サルヒン	
času (čas)	雪	χui	salxın	旋風
チャソ チャス		ホイ	サルヒン	
mündür	雹	odon		星
ムンドル		オドン		
süder	露	sugunak	odon	流星
スーデル		ソグナック	オドン	
čixilgan	電	mečit	odon	彗星
チヒルガン		メチット	オドン	
solonga	虹	čolmon	odon	曉星
ソロンガ		チヨルモン	オドン	
manan (budaň)	霧	dolón	übügen	北斗星
マナン ボダň		ドローン	ウブゲン	オドン
agur (agar)	空氣、氣	burün	oroχu	雨が降る
アゴル アガル		ボローン	オロホ	
burüntai üdür	雨天			
ボローンタイ ウドル				

času oroxu	雪が降る チャツ オロホ
tengri dôgaraxu	雷鳴する テングリ ドーガラホ
üdür arilaxu	晴れる ウドル アリラホ
naran manduχu	太陽が昇る ナラン マンドホ

naran singeχü	太陽が沈む ナラン シンゲフ
salχilχu	風が吹く サルヒルホ
nuiten üdür	濕つた日 ノイテン ウドル

xada	峰、岩 ハダ	müsü	氷 ムス
dabâ	峠、嶺 ダバー	bilčér	牧場 ビルチエール
üla-in oroi (orê)	山頂 おーライン オロイ オレー	oi	森 オイ
xoromoi	麓 ホロモイ	sigui	林 シゴイ
jaba (jibe)	谷 ヂヤベー ジベー	xegür	墓 ヘグル
örök	崖 ヲロツク	xojir nûr	曹達湖 ホデル ノール
xeger, tala	野原 ヘグル タラ	dabusu-tu nûr	鹽湖 ダボソ トノール
širui (šurui)	土 シロイ シヨロイ	jam	道 ヂヤム
sibar (šabar)	泥 シバル シャベル	jeli	町、街 ヂエリ
tôsu	塵 トーソ	godomji	小巷 ゴドムヂ
čolô	石 チヨロー	örtö (örte)	驛 アルト フルテ
ölüsü	砂 ヲルス	xota (xoto)	城、町 ホタ ホト
gobi	高原、沙漠 ゴビ	neislel xoto	首都 ネイスレル ホト
manχa	沙漠 マンハ	xošü	旗(蒙古區劃の行政單位) ホショ
xüdû gajar	草地 フドー ガチャル	nutuk	故郷、遊牧地 ノトツク
tarya (tarâ)	畠 タリヤー タラ	ail	村 アイル
osu	水 オス		
boluk (bolga)	泉 ボラツク ボルガ		

(2) 地 理

gajar	地 ガチャル	hûrge (hûrfük)	橋 フルグ フールツク
yirdinčü (určilan)	世界 イルディンチュ オルチラン	olom	淺瀬 オロム
gajar-in bûmûrjik	地球 ガチャリン ブムルヂク	sal	渡舟 サル
χôlai	陸 ホーライ	χuttuk	井戸 ホトツク
dalai	海 ダライ	nûr	湖 ノール
aral	島 アラル	namuk	沼 ナモツク
gôl	川 ゴーる	gô, sobok	溝 ゴー ソボツク
müren	江 ムレン	dalai-in nirû	海峡 ダライン ニロー
gorχan	小川 ゴルハン	dolgin	浪 ドルギン
χübô	岸 フボー	χošûn	岬 ホショーン
dalan	堤 ダラン	amasar irmük	港 アマサル イルムツク
adak	河口 アダツク	ûla	山 おーら

(3) 國家、國民、地名

ulus おろス	國	Jiben とも云ふ) リーベン
arat アラツト	國民、住民	Manju マンジュー
irgen イルゲン	住民	Girmani, De (ulus) 獨逸 ギルマニ デー おろス
uksugatan おクソガタン	民族	Paranča, Fa (ulus) 佛蘭西 バランチャ フア おろス
eče ulus エヘ おろス	母國	Itali イタリー
χān ulus ハーン おろス	帝國	Angilis, In (ulus) 英國 アンギリス イン おろス
bügüde nairamdaχu 共和國 ブグデ ナイラムダホ		Amirika, Mei (ulus) 米國 アメリカ メイ おろス
ulus おろス		Oros 露西亞 オロス
mongol-in モンゴリン	čūlgan チヨーるガン	Xitat, Irgen (ulus) 中國 ヒタツト イルゲン おろス
χolbuji ホルボヂ	ürēr ウーレール	Tübet 西藏 トベツト
jasaxu jasag-in ordo チャサホ チャサギン オルド		Enetχek 印度 エネツトヘツカ
蒙疆自治聯盟政府		Piris 波斯 ピリス
čūlgan チヨーるガン	盟	Solongos 朝鮮 ソロングス
χošū ホショード	族	Sibirī シベリヤ シビリ
moji モヂ	省	dotor Mongol, übür ドトル モンゴル ウブル
neisler χoto 首都 ネイスレル ホト		Mongol 内蒙古 モンゴル
Naran, Nippon 日本 ナラン ニッポン		gadagatu Mongol, aru ガダガート モンゴル アル
(Naran 「太陽」、支那音で		

Mongol モンゴル	外蒙古	Xülēn フレーン	庫倫
Xülün Büir フルン ブイル	乎倫貝爾 コルンバイル	gatagatu ulus ガタガート おろス	外國
Xiṅgan moji ヒンガン モヂ	興安省 キョウアンショウ	dotogatu ulus ドトガート おろス	國內
Čaxar チャヘル	察哈爾 チャハル	Ibruba イブロバ	歐羅巴
Xüxü Xoto フフ ホト	厚和 ヒュウホ	Ajii, Asiya アディ アシヤ	アジア
Ulān Bātur Xoto, Da おらーン バートル ホトダー	tip ティップ		洲
(4) 方向、場所			
gajar ガチャル	場所	oritai (ortu) オリタイ オルト	前(南方)
jūn ヂューン		χoitū ホイトー	後(北方)
barūn バローン		barūntai バローンタイ	右の方(西方)
ümüne ウムネ		jūntei ヂュンティ	左の方(東方)
χoina ホイナー		dêre デーレ	上
jük ヂュック		dôra ドーラ	下
önčük ヲンチウック		dumda ドムダ	中
dotor ドトラー	内	dêtei (dëši) デーテイ デ・シ	上方
gadana ガダナー	外	dôtai ドータイ	下方
χoyar beyi ホヤル ベイ	兩側	čâši チャーシ	彼方へ

nâši ナーシ	此方へ	xâ ハ-	何處
xola (xolo) ホラ - ホロー	遠い	dergede デルゲデ	傍
uirâ おイラ	近い	nyûr (nûr) tala ニヨール ノール タラ	表面
ende エンデ	此處	burû tala ボロー タラ	裏面
tende テンデ	其處		

(5) 時に關するもの

čak チャック	時	üde ウデ	正午
üyis ウイス	時代	süni duli スニ ドリ	夜半
jün on ヂョーン オン	百年、世紀	ene üdür エネ ウドル	今日
jil ヂル	年	mün üdür ムーン ウドル	本日
sara サラ	月	ene ürlü, ene erte エネ ウルル - エネ エルテ	今朝
üdür ウドル	日、晝	ene oroi エネ オロイ	今晚
ürlü (ürlê) ウルル - ウルレ	朝	üçüdür ウチュドル	昨日
üdeši ウデシ	夕	margaši, margata マルガシ マルガタ	明日
süni スニ	夜	managar マナガル	明朝
üde-in ümüne ウディン ウムネ	午前	orjidur オルヂドル	一昨日
üde-in xoïna ウディン ホイナー	午後	nügûdür マグードル	明後日

ene jil エネ デル	今年	det üdür デット ウドル	翌日
nidunun jil ニドノン デル	昨年	ene orčim üdür エネ オルチム ウドル	此頃
orjinun jil オルジン デル	一昨年	nyudun dôra ニヨドン ドーラ	目下
irexü jil イレフ デル	來年	erte čak エルテ チャック	昔
xoitu jil ホイトー デル	明後年	sai	只今
mün sara ムーン サラ	本月	odô	今
oritu (ortai) sara オリット オルタイ サラ	前月	xojim	以後
Xoitu sara ホイトー サラ	來月	oritu (ortai) üdür オリット オルタイ ウドル	先日
ilü sara イルー サラ	閏月	üdür-tên ウドルテーン	即日
ilü jil イルー デル	閏年	mün dôra ムーン ドーラ	即刻
jil büri ヂル ブリ	毎年	xabur ハボル	春
saraburi サラブリ	毎月	jun ヂヨン	夏
üdür büri ウドル ブリ	毎日	namur ナモル	秋
udâ büri オダーブリ	毎回	übül ウブル	冬

(6) 人に關するもの

(a) 人 嫠

xün フン	人	ere エレ	男
-----------	---	-----------	---

eme (ümü)	女	ere eme	夫婦(男女)
exener	婦人	ere	夫
χū	子、息子	eme, gergei	妻
χūxet	兒童	χatun	奥様
nilχa	赤坊	sula χatun	妾
übügen	老人	χürgen	婿
emügen	老婆	beri	嫁
jalū χün	若者	öχan χū, aχamat	長男 オーハン フー アハマット
öχin, χūxen	娘	öχan öχin	長女 オーハン ラヒン
ači	孫	utχan χū	末子 おトハン フー
ečige, abu (aba)	父	utχan öχin	末女 おトハン ラヒン
eχe, ēji	母	χoyadugar χū	次男 ホヤドガル フー
aχa	兄	χoyadugar öχin	次女 ホヤドガル ラヒン
dū	弟	χadam ečige	舅
egeči, ekči	姉	χadam eχe	姑
öχin dū	妹	abaga	叔父(父方の)
aχa dū	兄弟	abaga eχe	叔母(父方の)
egeči dū	姊妹	nagaču	叔父(母方の)

nagaču	eχe	叔母(母方の)	ači üre	子孫 アチ ウレー
bergen		嫂	türüsən ečige	實父 トルーセン エチゲ
üiye-in aχa dū		從兄弟 ウイエイン アハ ドゥー	tejēsen ečige	養父 テヂエーセン エチゲ
bülü aχa dū		從兄弟(母方の) ブーる アハ ドゥー	χoitu ečige	繼父 ホイトー エチゲ
ači χū		甥	orok sadun	親類 オロック サドン
ači öχin		姪	ger-in χotalgar	家族 ゲリン ホタルガル
übügen ečige		祖父 ウブゲン エチゲ	ünčin χū	孤子 ウンチン フー
emügen eχe		祖母 エムゲン エヘ	belbesün eχener	寡婦 ベルベスン エネヘル
ölünče übügen		曾祖父 オルンチュ ウブゲン	tanil	知人
dētüs		先祖 デートス	nüχür	友人 ヌフル

(b) 宮職、身分

χān	皇帝、汗 ハーン	taiji	臺吉(爵位) タイヂ
čin wan	親王(爵位) チン ワン	tabunah	塔布囊(〃) タボナン
jyün wan	郡王(〃) チユン ワン	nuyin	長官、王公 ノイン
beile	貝勒(〃) ペイレ	tüsimel	官吏 トシメル
beise	貝子(〃) ペイセ	jasak	札薩克(旗の長官) ヂヤサック
gün	公(〃) グン	jaxirukči	管旗章京(職名) ヂヤヒロクチ

tusalakči トサラクチ	協理(職名)	χoldāči ホルダーチ	商人
meiren メーレン	梅倫(〃)	taryaci タリヤーチ	農夫
jalan ヂヤラン	札蘭(〃)	orači オラチ	職人
jangin ヂヤンギン	章京(〃)	ejin エヂン	主人
bičikči ビチクチ	書記(〃)	bayin χün ペイン フン	富豪
amban アムバン	總管(〃)	yadū χün, ügeigü ヤドゥ フン ウゲイグー	
χara χün ハラ フン	平民	χün フン	貧乏人
bakši ベクシ	師、先生	guilinči ゴイリンチ	乞食
sabi シャビ	生徒、弟子	jaruci ヂヤロチ	召使
surakči ソラクチ	學生		

(c) 人體、生理

beye (beyi) ベヘエ ベイ	身體	üsü ウス	毛
maja マハ	肉	toiugai トロガイ	頭
aras[u] アラス	皮	tariχi タリヒ	腦
čisu チソ	血	gejik ゲヂック	妻
yasu ヤソ	骨	güjügü グヂュグー	頸
silbusu シリブソ	筋	nyür (nür) ニョール ノール	顎

mailai マンライ	額	gar ガル	手
jaiji チャイヂ	顰額	alaga アラガ	掌
čiχi チヒ	耳	nidurga ニドルガ	拳
χümüsgü フムスグ	眉	χorü ホロー	指
nyudu ニヨウド	眼	örχi χorü ヲルヒ ホロー	親指
nidun χara ニドン ハラ	瞳	dolubur χorü ドロボル ホロー	人指指
χabar (χamar) ハベル ハマル	鼻	dumda χorü ドムダ ホロー	中指
ama アマ	口	nere ügei χorü ネレ ウゲイ ホロー	薬指(無名指)
oröl オローる	唇	šikji χorü シクヂ ホロー	小指
χele (χil[e]) ヘレ ヒル	舌	χomusu (χimusu) ホモス ヒムス	爪
šidu (sudu) シド シュウド	齒	jirüχe-in eχi デルヘイン エヒ	水落
örü オルー	頤	χabirga ハビルガ	肋骨
χolai ホーライ	咽喉	χüχü フフ	乳
mürü ムル	肩	süji スード	腰
sugu ソゴ	腋の下	buxur ボホル	尻
čéji チエーデ	胸	χebeli ヘベリ	腹
aru アル	背中	χül フる	足
tuχui トホイ	臂	guya ゴヤ	腿

öbüdük ヲブドック	膝	jukduχu ヂョクドホ	吃逆する
gedesü ゲデス	腸	naitaxu ナイタホ	噉する
ösxi オスヒ	肺	χaduχu ハニヤホ	咳する
χutütü ホトート	胃	nilbusu ニルボソ	涙
süsü スス	膽	nisu ニソ	涕
sodal ソダる	脈	šilusu シロソ	唾
tabun saba タボン サバ	五臟	čixer チヘル	痰
elige エリゲ	肝	χülüsü フルス	汙
jirüχe デルヘ	心臟	χir ヒル	垢
ami アミ	命	båsu ベーソ	大便
amisgul アミスゴル	息	šesü シェース	小便
öbşexü ヲブシェフ	欠伸する	ničün ニチューン	裸
χexürexü ヘフレフ	嘔する		

(7) 病氣、醫藥

übüčin ウブチン	病氣	tolugai öbütüχü トロガイ ヲブトフ	頭痛する
χalûn übüčin ハローン ウブチン	熱病	tolugai ergilχü トロガイ エルギルフ	眩暈する
ösxi-in übüčin オスヒイン ウブチン	肺病	salχin abuχu サルヒン アボホ	風邪を引く

xütün übüčin フィトン ウブチン	淋病	em エム	藥
tembu テムボ	梅毒	osun em オソン エム	水藥
teñgri-in čiçik テングリイン チチック	疱瘡	tan em, talχan タン エム タルハン	
χalduxu übüčin ハルドホ ウブチン	傳染病	em エム	散藥
bodo tariχu ボド タリホ	種痘する	ürel em ウレル エム	丸藥
jolgudasulaxa ヂヨルゴダソラホ	下痢する	nyaxu (nâχu) em ニヤーホ ナーホ エム	青藥
idege イデゲ	腹	emči エムチ	醫者
yaba ヤーバ	壓	übüčin χün ウブチン フン	病人
soχor ソホル	盲	sodal bariχu ソダル バリホ	診察する
düli ドリー	聾	jasaχu ヂヤサホ	治療する
dôlan ドーラン	跛		

(8) 衣服、身 障 品

dêl χobčisu デーる ホブチソ	衣服	gutul ゴトル	靴
yixe dêl, čob イヘ デーる チョツブ	外套	üimüsü ウイムス	靴下
χürümü フルム	羽織	čamči チャムチ	シャツ
öji オーデ	胴着	nexei dêl ネヘイ デーる	毛皮の衣服
ümüdü ウムド	袴、ズボン	büse ブセ	帶

xanči ハンチ	袖	debisür デビスール	布圍
topči トプチ	鉗	gar-in duktui ガリン ドクトイ	手袋
χoromai ホロマイ	裾	bakla (bagča) バクラ バグチャ	風呂敷
seb セブ	縫目	biyū ビヨー	時計
jaxa ヂヤハ	襟	dambun gaňsa ダムボン ガンサ	煙管
malagai (malak) マラガイ マラツク	帽子	dambun xabtaga ダムボン ハブタガ	煙草入
seryün malak セリューン マラツク		tamxì, dambun タムヒ ダムボン	煙草
esgei malak エスゲイ マラツク		čüidön チュイドン	マツチ
büs ブス	布	alčur アルチョル	手拭
χübün フブン	綿	ijü イーズ	石鹼
odasu オダス	絲	gatora ガトラ	洗面器
esgei (isgi) エスゲイ イスギ	毛布、絨	jülgür チュルグル	刷毛
χünjile フンヂレ	夜着	šidun ö シドン オー	歯磨粉
dere デレ	枕	šidun silbyür シドン シルビョール	楊枝
torgan トルガル	緞子	sam サム	櫛
χip, törege ヒップ トレゲ	絹	bir ビル	筆
šixür シフル	傘	jörül ジョローる	覗
taik (tayak) ダイック タヤック	杖	beže ベヘ	墨

bežen osu ベヘン オソ	インキ	χituga (χutuga) ヒトガ <small>レ</small> ホトガ <small>レ</small>	小刀
tamaga タマガ	印	jinde ジンデ	剃刀
čâsu チャース	紙	nidun šil ニドン シル	眼鏡
sugum čâsu ソゴム チャース	原稿用紙	bülijik ブリヂック	指環
jaxidal-in čâsu ヂヤヒダリン チャース	書簡箋	čixin oxōr チヒン オホール	耳搔
jaxidal-in duktui ヂヤヒダリン ドクトイ	封筒		

(9) 住居、家 具

ger ゲル	家	širè シレー	机
baišin ベイシン	固定式家屋	sandali サンタリ	椅子
esgei ger エスゲイ ゲル	ヘルトの家 (蒙古包)	iseri イセリ	腰掛
ordo オルド	宮殿、府	abdar アブダル	櫃
oroi オロイ	屋根	χairčik ハイルチツク	箱
bagana バガナ	柱	širgûl シルゴーる	抽斗
xana ハナー	格子	χoben ホーベン	火鉢
üde ウーデ	門	malag-in elgûr マラギン エルグール	帽子掛
čonxu チョンホ	窓	aiga (ayik) アイガ アイツク	椀
xerem ヘルム	壁	χondak ホンダツク	杯

jöñ ヂヨン	時計 (掛時計)	gübyür グビュール	塵拂
toli トリ	鏡	sür シユール	篋

(10) 飲 食、喫 烟

budâ, xöl ボダ一ホーる	食事、飯	dabusu ダボソ	鹽
ürlü-in budâ ウルル一インボダ一	朝食	čai チャイ	茶
üde-in budâ ウデインボダ一	晝食	čolôn čai チョローンチャイ	磚茶
üdešin budâ ウデシンボダ一	夕食	sû-tei čai スーテイチャイ	乳茶
singen budâ シンゲンボダ一	粥	tosu トソ	油
goril, čagan ゴリル チャガン		šara tarasu シャラタラソ	黃油(バタ)
budâ ボダ一	麵	sû スー	乳
bôtai ボータイ	麥	jan チャん	味噌
narin budâ ナリンボダ一	粟	isgülün sêsu イスグルンシェース	醋
šishi シシ	黍	ürümü ウルム	クリーム (乳皮)
talxan タルハン	パン	xorôt ホロート	ヨーグルト (乳餅)
mongol amu モンゴルアモ	黍(黍子)	maya マハ	肉
sixer シヘル	砂糖	xonin maya ホニンマハ	羊肉
janyu ジャニユ	醬油	üxer-in maya ウヘリンマハ	牛肉

jaksu ヂャクソ	魚	bal バル	蜂蜜
araxi アラヒ	酒	bûrsuk ボールソク	菓子
silü シリ	汁	amdatai アムダタイ	甘い、美味しい
osu オソ	水	xalûn ハローン	辛い、暖かい
xalûn osu ハローンオソ	湯	gašûn ガショーン	苦い
tamxi, dambun タムヒ ダムボン	煙草	egegün エゲグン	辺い
yencur, oriyasan イエンチヨルオリヤサン		šür ショール	鹹い
tamxi タムヒ	卷煙草	isgülün イスグルン	酸い
ündük ウンドク	卵	bučalsan ボチヤルサン	沸いた
dabusutu nugû ダボソトノゴー	漬物	čanasan チャナサン	煮た

(11) 動 物

(a) 獣 類

aryatan アリヤタン	獸	imâ (yamâ) イマー ヤマー	山羊
mal マル	家畜	temê テメー	駱駘
üxer. (üxür) ウヘル ウフル	牛	noxai ノハイ	犬
mori (möri) モリ モル	馬	mî (mogui) ミー ミゴイ	猫
xoni ヌニ	羊	arsalan アルサラン	獅子

baras バラス	虎	morin daga モリン ダガ	仔馬
jagan ヂヤガン	象	buxuntai üxer ボホンタイ ウヘル	牡牛
irbis イルビス	豹	ünē (ünye) ウネー ウニエ	牝牛(乳牛)
üdek (üdege) ウデツク ウデゲ	熊	tugal トガル	仔牛
čonô (činô) チヨノー チノー	狼	tôlai トーライ	兔
bugu ボゴ	鹿	ünege ウネグ	狐
χeger-in gaxai ヘゲリン ガハイ	猪	jarâ チャラー	刺蝟(ソリ)
gaxai ガハイ	豚	tarbagan タルバガン	タルバガン(旱獺)
samča サムチャ	猿	χolugana ホロガナー	鼠
lôsa ろーサ	驃馬	eber エペル	角
öljige ヲルヂゲ	驢馬	suyuk ソヨック	牙
ajirga アデルガ	牡馬	del デル	鬃
kü mori クー モリ	牝馬	sûl スール	尾
akta アクタ	去勢馬		

(b) 鳥類

šubû ショボー	鳥	bürgüt ブルグット	鶯
tûru トーロ	鶴	χarčagai ヘルチャガイ	鷹

šajagai シャジャガイ	鶲(カツラギ)	梟
galû ガロー	雁	鳥
nûsu ノース	鴨	鷄
girûl ギローる	雉	雛
büdüne ブドウネ	鶲	羽
todi トディ	鸕鷀	嘴
taktaga タクタガ	鳩	翼
dêli デーリ	鶲	巢
biljôχai ビルヂョーハイ	雀	・

(c) 蟻類、魚類其他

χoruxai ホロハイ	蟲	bis χoruxai ビス ホロハイ	南京蟲
jaksu ヂヤクス	魚	širgulji シルゴルヂ	蟻
čarčagai チャルチャガイ	蝗	jügi (jügei) ヂユギ チュゲイ	蜂
ilâ イラ	蠅	χüri χoruxai フリ ホロハイ	蠅(フリ)
batagana ベタガナ	蚊	irbeχei イルベヘイ	蝶
büsü ブース	虱	irbekci イルベクチ	蛾
noχai bûsü ノハイ ブース	蚤	ürümü χulagači ウルム ホラガイチ	蜻蜓

čalrana	蟬	naimalji	蟹
čalrana	蜘蛛	menexei	鼈
óni	蚯蚓	sam xoruxai	蝦
gorjurji	蜥蜴	melexei	蛙
χilinčitü	蟲	targun jaksu	蛤
ütü	姐	χijimi	海鼠
mürxü	鯉	dalai-in tōlai	烏賊

suixa	艾	süyü	芽
χamχül	蓬	čumurlik	蕾
uda, burgasu	柳	uryaŋgu	蔓
uk	株	üye	節
ündüsü	根	eši	莖
salâ	枝	üre	種
napči	葉		

(12) 植 物

(a) 草 木、花 卉

čičik	花	erχin čérme čičik	蘭
modo	木	iñdör čičik	櫻花
oi	森	narasu	松
sigui	林	teryülekči čičik	梅花
übüsü	草	alima	梨
χolusu	竹(葦)	χailasu	楓
mandarawa čičik	牡丹	ulyasu	楊
otbala čičik	菊	mailasu	檜

(b) 果 實、蔬 菜

jimis (jimüs)	果實	χuwanguwa	黃瓜
nugû	蔬菜	lôbuñ	大根
üjüm	葡萄	čolo sarana	芋
anar	柘榴	mögü	芋
olana	林檎	nengi čagan	馬鈴薯
čabak	棗	borčik	豆
tôr	桃	sungina	葱
güilüsü	杏	sarimsak	蒜
tarbus	西瓜	čagan nugû (baijai)	白菜

tudarga トダルガ	稻 イ	erdeni šiši エルデニ シシ	玉蜀黍 イモ
gogot ゴゴット	堇 イ		

(13) 鑄 物

altan アルタン	金 キン	sobot ソボット	眞珠 ジン珠
müngün ムングン	銀 ギン	širu シリ	珊瑚 サンゴ
göli, jis ゴーリヂス	銅 ドウ	šil シリ	ガラス ガラス
tümür (temür) トムル テムル	銅 ドウ	manō マノー	瑪瑙 マノア
bolot ボロット	銅 ドウ	χas ハス	玉 ヒス
χorgulji ホルゴルヂ	鉛 ゲン	erdeni エルデニ	寶石 タリス
tolak トラック	錫 セキ	osun bulur オソン ボルル	水晶 ヒス
čolô (čilô) チヨロー チヨロー	石 シロ		

(14) 馬 具

emel エメル	鞍 エン	dülye ドゥリエ	鐙 ツバ
olon オロン	肚帶 オル	tašyur タシユール	鞭 ツバ
χajyâr ハチャール	轡 ハラ	taxa タハ	蹄鐵 ツバ
jolâ (jolô) ジョラー ジヨロー	韁 ハラ	gülüm グルム	鞍轡 ツバ

玉蜀黍

(15) 軍事 (兵器) に関するもの

čorai ホーライ	čirik チリック	陸軍 ルカ	pô ボー	砲、銃 ボーリ
osun (dalai-in) オソン ダライイン			üxer pô ウヘル ボー	大砲
	čirik チリック	海軍 カク	somu ソモ	彈丸、矢 ソモ
	dain, bailduga ダイン バイルドガ	戦争 センジ	dari, χü ダリ フー	火薬
	daisun ダイソン	敵 エイ	nomu ノモ	弓
	čirik (čerik) チリック チエリック	軍兵 カク	χixir, tuk ヒヒル トツク	旗
	čirig-in tüsîmel チリッギン トシメル	將校 カク	ildü イルドウ	刀
	čirig-in jebsek チリッギン チエブセク	兵器 ヒツキ	jida ヂダ	鎗
	čirig-in beletgel チリッギン ベレットゲル	軍備 カクビ	čirig-in oñguča チリッギン オンゴチャ	軍艦
	čirig-in χorô チリッギン ホロー	兵營 ヒンヨウ		

(16) 牧畜に関するもの

bilčir (bilčér) ビルチル ビルチール	牧場 ヒツク	χašâ, ハシャー	家畜の小家 カニク
adû アドー	馬群 カニク	onguča オングチャ	水槽
mal マル	家畜、牛群 カニク	χašalga ハシャルガ	牛糞入れの圍ひ
χonin-nai üsü, nôsu ホニナイ ウス ノース	羊毛	argal アルガル	牛糞
bilčirlexü, adûlaxu ビルチルレフ アドーラフ	放牧 スル	osul(a)χu オスル(ア)フ	水を飲ませる

adūčin アドーチン	放牧者	nutuk	遊牧地
-----------------	-----	-------	-----

(17) 農、工、商に関するもの

taryalań タリヤラン	農業	χüründe, ajil フルンゲ アジル	職業
ületbüri-in ウイレトブリイン	工業	χüründe フルンゲ	工場
arilja naima アリルヂ ナイマ	商業	püse ブーセ	店舗
urači オラチ	職工	ületχü ウイレトフ	製造する
tarâči (taryači) タラーチ タリヤーチ	農夫	χoldaxu ホルダク	賣る
χodaldâči ホダルダーチ	商人	χoldaji abuxu ホルダジ アボホ	買ふ
tarâ タラー	作物、田地	taryaxu タリヤホ	耕作する
et barâ エト バラー	貨物	ariljaxu アリルヂホ	貿易する
naima, χodalduga ナイマー ホダルドガ	商賣		

(18) 交通、通信に関するもの

terge (terek) テルゲ テレック	車	čiče (agur-tu terge, チーチェ アゴルト テルゲ	
morin terge モリン テルゲ	馬車	muχur terge) モホル テルゲ	自動車
gal-tu terge ガルト テルゲ	汽車	čiχilgan terge チヒルガン テルゲ	電車

nisχü onguča ニスフ オンゴチャ	飛行機	jaxyā ジャヒヤー	手紙
onguča オンゴチャ	船	čiχilgan mede チヒルガン メデ	電信
gal-tu onguča ガルト オンゴチャ	汽船	čiχilgan üge (deňwa) チヒルガン ウゲ (デンワ)	電話
šarga シャルガ	橋	xarilčin neptereχü ハリルチン ネプテレフ	交通
örtē ヲルテー	驛		
olâ オラ-	驛傳		

(19) 宗教、信仰に関するもの

šajin シャヂン	宗教	lama ラマ	喇嘛(上人)
sitügen, mürgül シトゲン ムルグル	信仰	gegen ゲゲン	活佛
burχan ボルハン	佛	xuwarak, bursań ホワラック ホルサン	和尚
saxyulsun, tengri サヒヨルソン テングリ		šabi シャビ	佛弟子
burχan šajin ボルハン シャヂン	佛教	čam チャム	廟會
χodon šajin ホドン シャヂン	回教	bodisatwa ボディサツトワ	菩薩
χeristüs šajin ヘリストス シャヂン	耶蘇教	üklige ウクリゲ	布施
bô-gin mürgül ボーギン ムルグル	巫教(シャーマン教)	güji-in jüs グヂイン チョース	賽錢
nom ノム	經典	on-mani-pad-mi-hum オンマニ ハド ミフム	神呪
süm[e], χît スム ヒート	廟、寺		

(20) 教育に関するもの

surgal	χümüjigülül	教育	surgal	ソルガル	課業
ソルガル	フムヂグル		ソルガル		
utxa suyul		文化	surgaxu bičik	ソルガホ ピチック	教科書
おトハー ソヨル			ソルガホ	ビチック	
surgakči		教師	bolbasuraxu	ボルバソラホ	練習する
ソルガクチ			ボルバソラホ		
surakči		學生	surxu	ソルホ	學ぶ
ソラクチ			ソルホ		
surguli (-in taňxim)	學校		šilgal		試験
ソルゴリ イン タンヒム			シルガル		
yixe surguli	大學		surguli-du oroxu	ソルゴリド オロホ	入學する
イヘ ソルゴリ			ソルゴリド	オロホ	
dumda surguli	中學校		šilgaraxu	シルガラホ	及第する
ドムダ ソルゴリ			シルガラホ		
baga surguli	小學校		surgaxu, jâxu	ソルガホ デヤーホ	教へる
バガ ソルゴリ			ソルガホ	デヤーホ	
eğener-in surguli	女學校		čirmêxü	チルメーフ	勉強する
エヘネリン ソルゴリ			チルメーフ		

(21) 言語、文學に関するもの

χele (χile), üge	言語	setgül	雑誌
ヘレ ヒレ ウゲ		セツトグル	
üsük	文字	ülicher	小説
ウスック		ウリゲル	
čagan tolugai	アルハベット	teüxe, sutur	史書
チャガン トルガイ		トウヘ ソトル	
sonin bičik, şine		tôji	物語
ソニン ピチック シネ		トーチ	
setgül	新聞	şilük	詩
セツトグル		シルック	

dô	ドー	歌	toli bičik	辭典
		方言	トリビチック	
gajar-in üge	ガジャリン ウゲ	發音	bičig-ing dürim	文法
			ビチギン ドゥリム	
ayilgû	アイルゴー			

(22) 音樂、遊戲に関するもの

χükjim	フクヂム	音樂	χûr	胡弓
			ホール	
nâdum	ナードム	遊戲	χengürge	太鼓
			ヘングルゲー	
si nâdum	シー ナードム	芝居	bürê	喇叭
			ブレー	
čiχilgan süder	チヒルガン スーデル	映畫	šanju	支那三味線
			シャンズ	
dô	ドー	歌	tataxu	奏でる
			タタホ	
χükjimči	フクヂムチ	音樂家	dôlaxu	歌ふ
			ドーラホ	
ayilgû	アイルゴー	音調	nâduxu	遊ぶ
			ナードホ	

(23) 常用單語

(a) 形容詞、副詞

ündür	ウンドゥル	高い	uχur	短い
			オホル	
buguni	ボゴニ	低い	ürgen (ürgün)	廣い
			ウルゲン ウルグン	
urtu	オルトー	長い	čeuχula	狹い
			チヨホラー	

χündü	重い
フンドウ	
χüngün (χüngün)	軽い
フンゲン フングン	
χola (χolo)	遠い
ホラーホロー	
uira (öra)	近い
おイラ ラーラ	
büdün	太い
ブドゥーン	
narin	細い
ナリン	
šine	新しい
シネ	
χüčin	古い
ホーチン	
gegeχen	明い
ゲゲヘン	
χaranχui	暗い
ハランホイ	
büxe	丈夫な
ブヘ	
χiberχen	脆い
ヒベルヘン	
χatú	堅い
ハトー	
jügelen	柔い
チュゲレン	
gün	深い
グン	
güixen (güyüχen)	浅い
グイヘン グューエン	
χurdun	速い
ホルドン	
udân	遅い
おダーン	

χyamda	安い
ヒヤムダ	
ünetei (üntei)	高い(價の)
ウネティ ウンティ	
targan	肥つてゐる
タルガン	
ičinger	瘠せた
イチングル	
asgan	眞直な
アスガン	
χajigai	曲つた
ハヂガイ	
amarak	親切な
アマラック	
χecü	酷い
ヘチュー	
arigun	清潔な
アリゴン	
bujir (meitei)	穢い
ボヂル メーティ	
χatagan	乾いた
ハタガン	
čiktei	濕つた
チークティ	
numuχan	靜かな
ノモハン	
adali	同じ
アダリ	
laptai	確かな
ラプタイ	
magat ügei	不確かな
マガツト ウゲイ	
sulaχan	淋しい
ソラーハン	
χükjimtei, šimetei	賑かな
フクヂムティ シメテ	

güčir, berxe	難しい	oktu	全然
グチル ベルヘー		オクト	
χyalbar	易しい	uramtaí	面白い
ヒヤルバル		おラムタイ	
erχebši	必ず	ortai, oritu	豫め
エルヘブシ		オルタイ オリツト	
χamâ ügei	關係ない	basa	尙、又
ハマー ウゲイ		バサ	
gem ügei (gemgüi),		müne sai	タツタ今
ゲム ウゲイ ゲムゲイ		ムネー サイ	
gâgui	構はぬ、差 ガーゴイ 支へない	üni udân	永久に
アモルハン		ウニ おダーン	
amurχan	無事な、心配ない	sültü	終に
アモルハン		スーるト	
ayimarχan	危い	yixede, yixele	大いに
アイマルハン		イヘデ イヘレー	
arga ügei	仕方がない	tîmü-in tula	それ故に
アルガ ウゲイ		ティームーイン トラー	
genetde	急に、俄かに	nigente	既に
ゲネツテ		ニゲンテ	
baruk	大概、多分	jüger	唯、單に
バーロック		ヂュグル	
nigen akşanâr	一瞬にして	darui	直に
ニゲン アクシャナール		メロイ	
maši	甚だ	araiχan	やつと
マシー		アライハン	
sanâ ügei	不意に	bür, čüm, χö	皆
サンナ ウゲイ		ブル チュム ホー	

(b) 動 調 (アイウェオ順)

ア	ebsyeχü	欠伸する
ゲゲル フ	χürayü	欺く

amsaxü, amtalaxü	味ふ アムサホ アムタラホ	teb[e]riχü	抱く テブ リフ
nâduχü	遊ぶ ナードホ	inčagaxü	嘶く インチャガホ
tükχü	與へる ウックフ	χeleχü (χil[e]χü)	言ふ ヘレフ ヒルフ
dulâraχü	温まる ドラークホ	χarbuxü	射る ハルボホ
čuklaχü	集まる チヨククラホ	χâruχü	炒る ホールホ
učiraxü	會ふ オチラホ	ウ	
tülexü, ēχü	炎る トゥレフ エーフ	sôlgaxü, tarixü	植ゑる ソーサガホ タリホ
gaiχaxü	怪しむ ガイハホ	ülüsüχü	餓ゑる ウルスフ
endexü	誤る エンデフ	χödülüχü	動く ホドルフ
alχuxü	歩む アルホホ	aldaχü, gêχü	失ふ アルダホ ゲーフ
temečiχü	争ふ テメチフ	sejiklexü	疑ふ セヂクレフ
oχyaχü, owaχü	洗ふ オヒヤホ オワホ	dôlaxü	歌ふ ドーラホ
baiχü	有る ペイホ	čoχixü, joduχü,	
イ		jančiχü	打つ チャンチ
öbdüχü	痛む オブドフ	nûχü	移る ヌーフ
χiliinaxü, ôr		bulaxü	埋める ボラホ
χürüχü	怒る フルフ	türüχü	生まれる トルフ
yâraxyü	急ぐ ヤーラホ	aljyaχü	倦む アルヤホ

biširaxü, χündüleχü	敬ふ ビシラホ フンドレフ	onaxü	落ちる オナホ
χorusuχü	恨む ホロソホ	sočiχü	驚く ソチホ
χoldaxü	賣る ホルダホ	güičiχü, neχexü	追ふ グイチフ ネヘフ
エ		sanaχü	思ふ サンホ
jiruχü (juruxü)	畫く チロホ チヨロホ	ombaχü	泳ぐ オムバホ
songuχü	選ぶ ソンゴホ	bôχü	下りる ボーホ
oluχü	得る オルホ	baraxü, dûsüχü	終る バラホ ドウースフ
örülüχü	遠慮する オルルフ	力	
オ		ölgüχü	掛る オルグフ
bürχüχü	覆ふ ブルフフ	ünürsüχü	嗅ぐ ウヌルスフ
χaluχü	犯す ハロホ	d aldaχü, niguxü	隠す タルダホ ニゴホ
busuχü	起る ボソホ	čimeχü	飾る チメフ
talbiχü	擗く タルビホ	salχilaχü	風が吹く サルヒラホ
χürgeχü	送る フルゲフ	tôlaxü, buduχü	算へる トーラホ ボドホ
surgaxü, jâχü	教へる ソルガホ チヤーホ	ilaguχü, deileχü	勝つ イラゴホ デイレフ
χairlaχü	惜しむ ハイルラホ	ünürteχü	香ふ ウヌルテフ
ayuχü (aiχü),		jûχü	噛む ヂョーホ
emyeχü	恐れる エミエフ	jêl[e]χü	借りる ヂエーフ

buduχu ボドホ	考へる キ	xusuχu ホソホ	削る コ
		χereldüχü ヘレルドフ	喧嘩する コ
untaraxu オントラホ	消える キ	dabaχu ダバホ	越える コ
χiceχü ヒチエフ	氣を付ける キ	juriklaχu ヂヨリックラホ	志す コ
sonosuχu (soñsuχu) ソノソホ ソンソホ	聞く キ	üciχü ウチフ	答へる コ
orolduχu オロルドフ	競争する キ	duralaχu ドララホ	好む コ
χüseχü フセフ	希望する キ	χüldüχü フルドフ	凍る コ
uktalaχu, čibčiχü オクタラホ チブチフ	切る キ	alaxu アラホ	殺す コ
ömüsükü ヲムスフ	着る キ	öbdelexü ヲブデレフ	殴す サ
ilgaxu イルガホ	區別する キ	erixü エリフ	探す サ
tataχu タタホ	汲む キ	barχiraχu バルヒラホ	叫ぶ サ
amiduraxu アミドラホ	暮す キ	jailaχu ヂヤイラホ	避ける サ
ireχü イレフ	来る キ	χatχuχu ハトホホ	挿す サ
jubaχu ヂヨバホ	苦しむ キ	tuktuχu トクトホ	定まる サ
dormjilaχu ドロムヂラホ	軽蔑する ケ	sâdaχu サーダホ	妨げる サ
Sarχadaχu ヤルハダホ	怪我する ケ	serixü セリフ	醒める サ

tûriχu トーリホ	シ	散歩する シ	jitgüχü ヂトグフ	靈力する ス	
debisüχü デビスフ	敷く シ	dâχu ダーホ	従ふ シ	öngörüχü ヲングルフ	過ぎる ス
üχüχü ウフフ	死ぬ シ	tesüχü テスホ	忍ぶ シ	aburaχu アボラホ	救ふ シ
tülüχü トゥルフ	支拂ふ シ	medeχü, uχaxu メデフ オハホ	知る シ	dabşixu ダブシホ	進める シ
jubaniχu ヂヨバニホ	心配する シ	jubaniχu ヂヨバニホ	報らす シ	orχixu オルヒホ	捨てる シ
medülüχü メドゥルフ	信する シ	idegeχü イデゲフ	紹介する シ	sôχu ソーコ	坐る シ
idegeχü イデゲフ	報らす シ	tanilcüχu タニルチヨーるホ	小便する シ	büdükü ブドウフ	成功する シ
tanilcüχu タニルチヨーるホ	信する シ	sêχü シェーフ	修理する シ	örgüχü ヲルグフ	背負ふ シ
sêχü シェーフ	紹介する シ	jasaxu ヂヤサホ	處理する シ	burûsyaxu ボローシヤホ	責める シ
jasaxu ヂヤサホ	小便する シ	sitgeχü シトグフ	獎勵する シ	čitxuxu チットホホ	注ぐ シ
sitgeχü シトグフ	修理する シ	χögyüluχü ホギウルフ	熟す シ	čiberlexü チベルレフ	掃除する シ
χögyüluχü ホギウルフ	處理する シ	bolbasuraxu ホルバソラホ	熱す シ	jübdüχu, χelelčiχü ヂュブドフ ヘレルチフ	相談する シ
bolbasuraxu ホルバソラホ	獎勵する シ	beletgeχü ベレトグフ	準備する シ	orbaχu オルバホ	背く シ
beletgeχü ベレトグフ	熟す シ			tekšileχü テクシレフ	捕へる シ

タ	ツ
uitxaxu おイトハホ	退屈する jaruxu ヂヤロホ
tesüxü テスフ	耐へる yadaxu, jüdürexü ヤダホ デュドウレフ
onaχu オナホ	倒れる χîχü ヒーフ
šitaxu シタホ	焚く ulamjilaχu おラムヂラホ
detgüxü デツトグフ	助ける baklaχu バクらホ
bailduxu ベイるドホ	戦ふ χîcexü ヒチエフ
busuxu ボソホ	立つ χilemürçileχü, ヒレムルチレフ
tasulaxu タソラホ	断つ oréyuluχu オルチヨロホ
idegeχü, sidüxü イデゲフ シドフ	頼る neptereχü ネブチレフ
güicixü グイチフ	足りる テ
bâχu ベーホ	大便する joχixu ヂヨヒホ
tüllülexü, orolaxu トゥるーれフ オロラホ	代理する gilbaχu ギルバホ
gargaxu ガルガホ	出す gar[u]χu ガルホ
ヂ	
χîcexü ヒチエフ	注意する 注意する
uiradaxu おイラダホ	近づく xâχu ヘーホ
	ト
	閉ぢる asúχu アソーカホ
	問ふ

ニ	ヌ	ヌ
nisüxü ニスフ	飛ぶ χunuχu ホノホ	なす χîχü ヒーフ
		なる boluxu ボロホ
	juksuχu, baiχu ヂヨクゾホ バイホ	價れる das[u]χu ダスホ
		ニ
	bariχu ベリホ	
	abuχu アボホ	握る atxuχu アトホホ
	čirmêxü, χüčülexü チルメーフ フチユレフ	憎む jikšiku ヂクシホ
		逃げる dutagaxu ドタガホ
		捨ふ ürχü ウールフ
		煮る činaχu (čanaxu) チナホ チヤナホ
		ヌ
	orosχu オロスホ	
	dôgaraxu ドーガラホ	
	uilaxu オイラホ	
	ilbiχü イルビフ	
	xayaχu (χayixu) ハヤホ ハイホ	
	jasaxu ヂヤサホ	
	amsaxu アムサホ	
	suruχu, bolbasuraxu ソロホ ボルバソラホ	
		木
		guyaχu (guyixu) ゴヤホ ゴイホ
		眠る umdaχu オムダホ
		寝る χebtexü ヘブテフ

	ičiχü イチフ	恥ぢる		
üledeχü ウレデフ	殘る	χeleχü (χil[e]χü) ヘレフ ヒルフ 話す		
χüseχü, ermeliχü フセフ エルメーデフ	望む	talbiχu タルビホ 放つ		
χarâχu ハラホ	罵しる	χarailaxu ハライラホ 跳ねる		
abariχu アベリホ	登る	nyâχu (nâχu) ニヤーホ ナーホ 貼る		
öχu オーホ	飲む	arilaxu アリラホ 晴れる		
unuχu オノホ	騎る(馬に)	esergüčixu エセルグチフ 反対する		
sôχu ソーホ	乗る(船車に)	χaraχu ハラホ 番する		
ヒ				
oroχu オロホ	入る	adalitχaxu アダリトハホ 比較する		
χemneχü ヘムネフ	量かる	sačuraxu, geiχü サチヨラホ ゲイフ 光る		
argalaxu アルガラホ	謀る	tataχu タタホ 引く、挽く、彈く		
ömsüχü アムスフ	穿く	delgeχü, seχexü デルゲフ セヘフ 開く		
sûrdeχü シユールデフ	掃く	フ		
ilgeχü イルゲフ	派遣する	arčiχu アルチホ 拭く		
χügiχü フギフ	勵む	büklexü ブクレフ 塞ぐ		
güyüχü (güyixü) グュフ グイフ	走る	oroχu オロホ 降る(雨や雪が)		
eχileχü エヒレフ	始る			

	χobisuxu ホビソホ	變化する	suruχu ソロホ 學ぶ
	χičeχü, čirmêχü ヒチエフ チルメーフ	勉強する	jalaxu チャラホ 招く
	ホ		daguryaxu ダゴリヤホ 真似る
	sairχaxu サイルハホ	誇る	saxiχu サヒホ 守る
	saisyaχu, maktaχu サイシャホ マクタホ 褒める		ergiχü エルギフ 回る
	uχuxu オホホ 挖る		čataχu チャタホ 満腹する
	sünüχü スヌフ 亡びる		ミ
	orčyuluχu オルチヨロホ 翻譯する		üdeχü ウデフ 見送る
	adûlaxu アドーラホ 牧畜する		samûraχu サモーラホ 亂れる
	マ		uduritχu オドリトホ 導く
	sačuχu サチヨホ 撒く		üjiχü, χaraχu ウジフ ハラホ 見る
	deilekdexü デイレクデフ 負ける		ム
	nemeχü, arbidaχu ネメフ アルビダホ 増す		xantuχu ハントホ 向ふ
	χuliχu ホリホ 混ぜる		uktuχu オクトホ 迎へる
	burûdaχu ボローダホ 間違ふ		sinuχu シノホ 貪る
	χülêχü フレーフ 待つ		uyaχu (uyiχu) オアホ オイホ 結ぶ
	taxiχu タヒホ 祭る		メ
	jaxiχu ヂヤヒホ 命する		

モ	
nučuχu ノチヨホ	燃える
χereklexü ヘレクレフ	用ひる
bariχu ベリホ	持つ
abčiraxu アブチラホ	持つて来る
abačiχu アバチホ	持つて行く
tülexü トゥレフ	燃やす
ヤ	
sitaxu シタホ	焼ける
tejyeχü テヂエフ	養ふ
χülüsüleχü フるスレフ	雇ふ
χunuχu, bôχu ホノホ ボーホ	宿る
öbdeχü ヲブデフ	破れる
juksuχu ヂヨクソホ	止める
übčiχü ウブチフ	病む
ニ	
yabuχu, očiχu ヤボホ オチホ	行く
χeleχü (χil[e]χü) ヘレフ ヒルフ	言ふ
jüdüleχü ヂュードウレフ	夢見る
χeldüryülüχü ヘルドリユルエフ	許す
ヨ	
saijiraxu サイヂラホ	良くなる
suktuxu ソクトホ	酔ふ
dûdaχu ドーダホ	呼ぶ
unšiχu おんシホ	読む
bay[a]rlaxu, ペイルラホ	
bay[a]suχu ペイゾホ	喜ぶ
リ	
delgereχü, デルゲレフ	
bataraxu ベタラホ	流行する
ayalaxu (ayilaxu) アヤラホ アイラホ	旅行する
abalaxu アベラホ	獵する
レ	
yosulaχu ヨソラホ	禮する
χolbuχu, jalgamjilaχu ホルボホ チャルガムジラホ	聯絡する

ロ	
Sigümjileχü シグムヂレフ	論する
ワ	
medeχü メデフ	解かる
ヰ	
χobyaχu ホビヤホ	分ける
bučilaxu ボチラホ	沸く
martaχu マルタホ	忘れる
inēχü イネーフ	笑ふ

自銀
道皇

書林の出版物で落丁、乱丁、製本の手違い等がありましたら、お申
越し願います。絶版のもの以外は責任をもつてお取替えいたします。

昭和32年7月20日復刊第1版印刷
昭和32年7月25日①第1版発行

版權所有・不許複製



著者 竹内幾之助
出村良一

株式会社 大学書林
佐藤義人
東京都文京区久堅町32番地

多田印刷株式会社
印刷者 多田基
東京都新宿区改代町23番地

発行所
株式会社 大学書林
東京都文京区久堅町32番地
振替口座 東京 43740 番
電話小石川(92)0509・5195番

¥350

印刷・多田 / 製本・井上



語学四週間双書

松半田一郎著	英語四週間	B 6判・386頁 ¥ 220 円 40
森 傑郎著	ドイツ語四週間	B 6判・368頁 ¥ 300 円 40
徳尾俊彦著	フランス語四週間	B 6判・320頁 ¥ 300 円 40
岡沢秀虎著	ロシア語四週間	B 6判・318頁 ¥ 300 円 40
宮島吉敏著	中国語四週間	B 6判・286頁 ¥ 300 円 40
鐘江信光著		B 6判・360頁 ¥ 400 円 40
笠井鎮夫著	スペイン語四週間	B 6判・348頁 ¥ 350 円 40
徳尾俊彦著	イタリ一語四週間	B 6判・386頁 ¥ 350 円 40
村松正俊著	ラテン語四週間	B 6判・374頁 ¥ 350 円 40
朝倉純孝著	オランダ語四週間	B 6判・300頁 ¥ 350 円 40
木村一郎著	イント語四週間	B 6判・282頁 ¥ 350 円 40
今岡十一郎著	ハンガリー語四週間	B 6判・408頁 ¥ 400 円 40
尾崎義著	フィンランド語四週間	B 6判・410頁 ¥ 400 円 40
星誠著	ポルトガル語四週間	B 6判・280頁 ¥ 350 円 40
朝倉純孝著	インドネシア語四週間	B 6判・344頁 ¥ 6判 円 40
徳川義親著	マライ語四週間	B 6判・278頁 ¥ 300 円 40
朝倉純孝著	エスペラント四週間	B 6判・426頁 ¥ 500 円 40
小野田幸雄著	スウェーデン語四週間	近刊
尾崎義著	ギリシャ語四週間	
古川晴風著	モーコ語四週間	B 6判・226頁 ¥ 350 円 40
竹内・出村著		近刊
柴田武著	トルコ語四週間	